

公立鳥取環境大学

研究者総覧

2025

- 環境学部
- 経営学部
- 人間形成教育センター

RESEARCHERS FILE 2025



公立鳥取環境大学
Tottori University of Environmental Studies



研究キーワード

動物の行動, 人と自然の精神的つながり, 野生生物の生態と保護

小林 朋道

理事長兼学長

KOBAYASHI, Tomomichi

t-kobaya@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目

生物学概論, 自然環境保全概論, 動物行動学, 保全生態学

研究者略歴

Table with 2 columns: Year and Position/Role. Includes dates from 1981 to 2024 and various academic titles at Kankyo University.

Research

取得学位

理学博士 (京都大学)

専門分野

動物行動学, 進化心理学

現在の研究テーマ

脊椎動物の行動や生態に関する研究とそれに基づいた生息地保全活動
人と自然の精神的関わりに関する動物行動学的解析

受賞歴

1993 (平成5) 年4月 岡山県野崎教育賞

所属学会

日本動物行動学会, 日本生態学会, 日本環境教育学会

Data

研究等活動

【著書】

- List of books and articles including '森の人間動物行動学', '動物行動学から見たヒト', and various research papers on animal behavior and ecology.

【論文】

- List of research papers and journal articles, including '紫外線カットフィルムは鳥の窓ガラス衝突を抑制するか' and 'Why do small Japanese flying squirrels Pteromys momonga prefer to use bark of Japanese cedar as a nest material? II'.

社会貢献活動

- List of social contribution activities including lectures, field activities, and committee work related to wildlife conservation and environmental education.



研究キーワード

担保物権, 契約法務, 不法行為, 相続, 消費者契約

中山 実郎

NAKAYAMA Jitsuro

理事兼副学長（学生生活・就職，広報，情報担当），
学生支援センター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

[✉ j-nakaya@kankyo-u.ac.jp](mailto:j-nakaya@kankyo-u.ac.jp)

Profile

■主な担当科目 企業法概論, 民法1, 民法2

■研究者略歴

1981 (昭和56) 年3月	法政大学法学部法律学科卒業
1983 (昭和58) 年3月	明治大学大学院法学研究科博士課程前期2年の課程修了
2004 (平成16) 年4月	青森中央学院大学 経営法学部 専任講師 同地域マネジメント研究所研究員
2008 (平成20) 年4月	大阪国際大学 現代社会学部 法律政策学科 准教授
2013 (平成25) 年4月	大阪国際大学 現代社会学部 法律政策学科 教授
2014 (平成26) 年4月	大阪国際大学 グローバルビジネス学部 教授
2017 (平成29) 年4月～	公立鳥取環境大学 経営学部 教授
2020 (令和2) 年4月～	公立鳥取環境大学 大学院 環境経営研究科 経営学専攻 教授
2022 (令和4) 年4月～	公立鳥取環境大学 特命学長補佐
2024 (令和6) 年4月	公立鳥取環境大学 理事兼副学長 学生支援センター長

Research

■取得学位 法学修士（明治大学）

■専門分野 民法（財産法），消費者法，ビジネス法務

■現在の研究テーマ

- ・契約当事者が負う説明義務について
- ・未成年者等責任無能力者と損害賠償責任の問題
- ・担保不動産収益執行の効果について
- ・契約の成立・効力と消費者保護の問題
- ・指名債権譲渡の要件
- ・遺言の方式と要件

■所属学会 日本法政学会 関西法政治研究会 青森法学会 日本リスクマネジメント学会
日本政治法律学会

■資格 行政書士

Data

■研究等活動

【著書】

- ・業界研究学びのことはじめ 共著 2016年 4月 ナカニシヤ出版
- ・民法I（総則・物権・担保物権）単著 2011年 3月 文教出版会

【論文】

- ・自筆遺言証書の成立日と相違する日付が記載された遺言の効力 単著 2023年
- ・公立鳥取環境大学紀要2023
- ・所有権留保と集合動産譲渡担保との優劣関係についての再検討 単著 2022年 公立鳥取環境大学紀要2022
- ・グループ会社従業員に対する親会社の対応義務 単著 2020年 公立鳥取環境大学紀要 17巻1号
- ・節税目的でなされた養子縁組と縁組意思の有無 単著 2019年 公立鳥取環境大学紀要 16巻16号
- ・債務者が異議ををとどめないでした指名債権譲渡の承諾と譲受人の主観的要件 単著 2018年3月大阪国際大学国際研究論叢第31巻3号
- ・自筆証書遺言の方式に関する近時の最高裁判決 単著 2018年 1月大阪国際大学国際研究論叢第31巻 2号
- ・主債務者が反社会的勢力であった場合の錯誤無効と保証契約の付随義務違反 単著 2017年 3月大阪国際大学国際研究論叢第30巻3号
- ・責任弁識能力のない未成年者の親権者の監督義務 単著 2016年10月 大阪国際大学国際研究論叢第30巻2号
- ・法定代理人がない事理弁識能力を欠く常況にある者と民法158条1項の類推適用 単著 2016年 3月大阪国際大学国際研究論叢第29巻3号
- ・主債務を単独相続した保証人による債務の弁済と時効の中断 単著 2015年10月 大阪国際大学国際研究論叢第29巻1号
- ・承役地の担保不動産競売における未登記通行地役権の消長 単著 2015年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第28巻3号
- ・再度の取得時効の完成と抵当権の帰趨 単著 2014年10月 大阪国際大学国際研究論叢第28巻1号
- ・契約準備段階における説明義務違反と損害賠償責任の成否 単著 2013年10月 大阪国際大学国際研究論叢第27巻1号
- ・居住用建物の賃貸借契約における更新料条項の効力 単著 2013年 1月 大阪国際大学国際研究論叢第26巻2号
- ・居住用建物の賃貸借契約における敷引特約に関する最高裁の判断と課題 単著 2012年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第25巻3号
- ・担保不動産収益執行と賃料債権の相殺をめぐる問題 単著2011年 3月 大阪国際大学国際研究論叢第24巻3号

■社会貢献活動

- ・鳥取市消費者行政審議会委員
- ・公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構理事



研究キーワード

コモンズ, 森林管理, 先住民, ファミリーフォレスト

根本 昌彦

NEMOTO, Akihiko

副学長(教育, 入試, 研究, 地域連携・国際交流, 企画・評価担当), アドミッションセンター長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

nemoto@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 森林科学概論, 森林資源管理論, 森林政策論

■研究者略歴

1986 (昭和61) 年 3月	北海道大学農学部林学科卒業
1988 (昭和63) 年 3月	北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
1998 (平成10) 年 5月	カナダブリティッシュ・コロンビア大学学術博士 (Ph.D.)
1998 (平成10) 年 8月	(財) 林業経済研究所 研究員
1999 (平成11) 年 4月	(財) 木材総合情報センター 専門調査員
2003 (平成15) 年 4月	全国森林組合連合会
2005 (平成17) 年 4月	同連合会組織部組織グループ長
2006 (平成18) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科教授
2006 (平成18) 年10月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学 副学長 アドミッションセンター長

Research

■取得学位 Ph.D. (ブリティッシュ・コロンビア大学)

■専門分野 森林資源管理学

■現在の研究テーマ ・「持続可能な森林管理」の達成に向けた政策など

■受賞歴 2003 (平成15) 年林業経済学会奨励賞

■所属学会 林業経済学会, 環境社会学会ほか

Data

■研究等活動

【著書】

- ・「カナダーなかなか進まない先住民による森林管理」, 「森林環境2006」, 2006年, 朝日新聞社
- ・「森林認証制度の国際動向」, 「森林認証と林業・木材産業」, 2004年, 林業改良普及協会
- ・「森林認証制度の可能性―国際的森林認証の動向とインドネシア・マレーシアの試み」, 「アジアにおける森林の消失と保全」, 2003年, 中央法規出版会

【論文】

- ・イギリスにおける森林政策の展開-過去百年の森林造成と森林所有者構造の変化- 2023年, 森林組合No.635
- ・韓国における森林政策の展開と山林組合 2023年, 森林組合No.631
- ・メキシコ土地保有制度の展開とコミュニティフォレスト 2021年, 森林組合No.607
- ・スペインにおける森林・林業と私有林-コモンズの解体と造林政策の展開 2020年, 森林組合No.602
- ・ベトナムのファミリーフォレスト-充実する人工林資源とFLEGT, 森林認証, 森林組合 - 2019年, 森林組合No.595
- ・カナダ, トルドー政権下の環境および森林・木材政策 - 「森林バイオエコノミー」の動向に注目して -, 2018年, 森林技術 No.912, 日本森林技術協会
- ・オーストラリアの違法伐採対策の展開と日本への教訓, 2018年, 木材情報 No.321, 日本木材総合情報センター
- ・世界の植林地造成の現状と将来展望-文献調査による論点の整理-, 2017年, 公立鳥取環境大学紀要vol.15
- ・熱帯林破壊を先導するアブラヤシ農園の拡大 - マレーシア, サバ州における土地利用の展開を事例として -, 2015年, 鳥取環境大学紀要 vol.14
- ・世界の違法伐採問題の現局面, 2013年, 木材情報 No.263, 日本木材総合情報センター
- ・環境・先住民と森林管理問題, 2012年, 山林 No.1542, 大日本山林会
- ・人工林の世界的拡大と森林管理問題, 2012年, 木材情報 No.251, 日本木材総合情報センター
- ・森林組合運動と森林認証制度の導入, 2007年, にじ No.617, 協同組合経営研究所
- ・カナダにおける「持続可能な森林経営」の現状と課題, 2003年, 林業経済 Vol.56.5
- ・Dynamics of Aboriginal Land Use Institutions : The Rise and Fall of Community Control Over Reserve Systems in the Lil'wat Nation, Canadian Journal for Native Studies, Vol.22.2, 2002年
- ・カナダ先住民と土地財産権-リルワットネーション居留地におけるコモンズの形成と衰退, 1999年, 環境社会学研究vol.5.

【報告書】

- ・オーストラリアの違法木材対策, 2018年, 日本木質バイオマスエネルギー協会
- ・県産材認証制度の実態と問題点に関する調査報告書 2014年, 日本木材総合情報センター
- ・合法木材供給システムモニタリング報告書, 2010年, 全国木材組合連合会

研究キーワード

都市居住, 人間居住, 職住併用住宅, 都市保全, 生活交流空間・場所

張 漢賢

CHONG, Hon Shyan

環境学部長, 環境経営研究科副研究科長, 環境経営研究科環境学専攻長
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

shyan@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 人間居住論, 都市居住計画, 途上国の都市発展

■研究者略歴

1992 (平成 4) 年 3月	京都大学工学部 建築学第二学科卒業
1994 (平成 6) 年 3月	京都大学大学院工学研究科 修士課程修了 (環境地球工学専攻 居住空間工学講座)
1994 (平成 6) 年 4月	株式会社高橋上田設計事務所 設計担当
1996 (平成 8) 年 4月	AKITEK WAC (マレーシア) アシスタント・アーキテクト
2000 (平成12) 年11月	京都大学博士 (工学)
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助手
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2006 (平成18) 年10月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻助教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科学准教授
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科学教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科学教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学国際交流センター長
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部長, 環境経営研究科副研究科長, 環境経営研究科環境学専攻長

Research

■取得学位 京都大学博士 (工学)

■専門分野 都市計画学, 都市生活空間計画, 人間居住論

■現在の研究テーマ ・持続的な都市居住を可能にする都市空間, 市街地の形成・管理手法
・アジア・ヨーロッパの都市型住宅 (ショップハウス, タウンハウス) の形成と保全
・都市・まちの「居場所」または「サード・プレイス」について

■受賞歴 1994 (平成6) 年9月 日本建築学会優秀修士論文賞

■所属学会 日本建築学会, 日本都市計画学会, 都市住宅学会

Data

■研究等活動

- 【著書】
・「Planning for a Better Urban Living Environment in Asia」(共著), 2000, Ashgate
- 【論文】
・「創造性発揮を動機づけるサードプレイス」(共著), 2024, 日本デザイン学会2024年度第5支部発表会概要集
・「Study on the Small Ritual Facilities on the Common Space in Southeast Asia」(共著), 2024, 14th ISIAA アジアの建築交流国際シンポジウム
・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その10. マレーシア・イポー市におけるショップハウス市街地2」(共著), 2023, 日本建築学会大会学術梗概集
・「伝統的な居住様式に対する災害の被害・外部支援の影響—2018年ロンボク島地震の被災地バヤンを事例として」(共著), 2021, 日本建築学会計画系論文集第86巻第790号
・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その9. マレーシア・イポー市におけるショップハウス市街地」(共著), 2020, 日本建築学会大会学術梗概集
・「カフェで運営されることも食堂の多様な利用」(共著), 2020, 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻
・「鳥取市の介護予防に向けた取り組み「O(オー)教室」の実態把握」(共著), 2019, 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻
・「倉吉市白壁土蔵群周辺における「萌えおこし」によるまちづくり」(共著), 2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
・「鳥取市中心市街地における街路の空間特性に関する研究」(共著), 2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
・「行動観察調査からみたカフェの居方—携帯電話使用・机の種類の影響—」(共著), 2017, 日本建築学会中国支部研究報告集第40巻
・「マラッカ・ジョージタウン世界遺産管理の課題—ボトムアップ保存手法構築の視点から—」, 2013, 日本建築学会中国支部研究報告集第36巻
・「旧東京市営店舗向住宅の持続的利用に関する調査研究」(共著), 2011, 日本建築学会中国支部研究報告集第34巻
・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その8. マレーシア・ジョージタウンにおける家賃統制令撤廃前後の統制家屋の維持管理の実態」, 2001, 日本建築学会大会学術講演梗概集F
・「シンガポールにおける歴史的ショップハウス市街地の『政府主導・民間提案型』都市保存の制度」(共著), 2001, 日本建築学会計画系論文集
・「マレーシア・クアラルンプールにおけるショップハウスの空間構成とその利用実態」(共著), 1999, 日本建築学会計画系論文集
・「マレーシアにおけるショップハウスの供給」(共著), 1998, 日本建築学会計画系論文集
- 【総説】
・「都市と建築の秩序」, 2011, 日本建築学会建築雑誌, Vol.126, No.1618
- 【報告書】
・「鳥取県の文化芸術活動実態調査報告書」(共著), 2017, 鳥取県文化団体連合会
・「西スマトラ州パダン歴史地区の再生に関するワークショップ」報告書(共著), 2016, 東京文化財研究所
・「台北における歴史的建造物の活用: ショップハウスを中心に」, 2014, 『遺跡学研究』第11号, 日本遺跡学会
・「『パブリック』で考える歴史的市街地空間と人間の係わり方—世界遺産マラッカとジョージタウンの比較から—」, 『パブリックな存在としての遺跡・遺産, 平成24年度 遺跡等マネジメント研究集会(第2回) 報告書』, 2013, 奈良文化財研究所
・「鳥取市における市営住宅居住者のまちなか居住ニーズ」, 2007, 鳥取市まちなかまちづくり市民活動促進事業報告書

■社会貢献活動

- 鳥取県景観アドバイザー ・新温泉町空屋等対策協議会
- 公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館理事



研究キーワード

廃棄物, リサイクル, 重金属, レアメタル, 環境分析

門木 秀幸

MONGI, Hideyuki

副学部長
准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目

廃棄物マネジメント学, 廃棄物学入門

■研究者略歴

1995 (平成 7) 年 3月	信州大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
1997 (平成 9) 年 4月	鳥取県倉吉保健所 (～平成11年6月)
1999 (平成11) 年 7月	鳥取県廃棄物対策課 (～平成14年3月)
2002 (平成14) 年 4月	鳥取県衛生研究所 (現鳥取県衛生環境研究所) 研究員
2008 (平成20) 年 3月	鳥取大学大学院工学研究科社会開発工学専攻博士後期課程修了
2008 (平成20) 年 4月	鳥取県衛生環境研究所環境化学室研究主任
2010 (平成22) 年 4月	鳥取県衛生環境研究所リサイクルチームチーム長
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2020 (令和 2) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■取得学位

博士 (工学, 鳥取大学)

■専門分野

環境分析, 廃棄物・リサイクル工学

■現在の研究テーマ

・廃棄物, リサイクル製品の分析及び安全性に関する研究
・レアメタル等の再資源化技術に関する研究
・廃棄物に含まれる有害物質管理に関する研究

■受賞歴

2009年 (平成21年) 8月 全国環境研協議会中国・四国支部長表彰
2010年 (平成22年) 2月 全国環境研協議会会長表彰
2016年 (平成28年) 5月 廃棄物資源循環学会有功賞

■所属学会

廃棄物資源循環学会, 資源・素材学会, 日本分析化学会, 日本環境化学会

■資格

二級知的財産管理技能士 (管理業務)

Data

■研究等活動

【著書】

・「廃棄物関連試料の分析マニュアル」, 2015年5月, 一般社団法人廃棄物資源循環学会 (共著)

【論文】

・「六価クロム定量のための水酸化鉄(III)共沈法における三価クロム除去に対する水酸化鉄(III)沈殿の微細化の影響」(共著), 2023年, 分析化学, Vol.72, No.10・11, pp.425-430
・「焼却灰溶出液中の六価クロムの定量における水酸化鉄(III)共沈時のpHの影響」(共著), 2022年, 分析化学, Vol.71, No.12, pp.679-685
・「ジフェニルカルバジド吸光光度法によるばいじん溶出試験でのクロム(VI)分析における妨害除去法の検討」(共著), 2017年, 分析化学, Vol.66, No.9, pp. 693-698
・「Determination of lead by stripping voltammetry with a disposable cartridge for quality control of municipal solid waste molten slag」(共著), 2011年, Microchemical Journal, Vol.97, pp.220-224

【技術報文】

・「産業廃棄物に含まれる六価クロムの検定方法の改正と留意点」(単著), 2020年, 環境と測定技術, Vol.47, No.4, pp.3-6

【特許】

・「廃電子基板からの金属の回収方法」(共同発明), 特許 2014-046258
・「ガラスからの重金属類の分離方法」(共同発明), 特許 2013-557511
・「ガラスからの重金属の分離方法」(共同発明), 特許 2012-248553
・「フッ素除去剤, フッ素含有液の処理方法」(共同発明), 特許 2012-023795
・「リン酸イオン吸着剤の製造方法, リン酸イオン回収方法, リン酸肥料の製造方法, リン酸イオン吸着剤」(共同発明), 特許 2010-028938

■社会貢献活動

・産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法改正検討委員会委員
・廃棄物資源循環学会中国四国支部理事
・廃棄物資源循環学会試験・検査法研究部会幹事
・鳥取県西部広域行政管理組合一般廃棄物処理施設用地選定委員会委員



研究キーワード

道徳教育 特別活動 魅力ある学校づくり

前田 哲雄

MAETA, Tetsuo

特任教授

所属…環境学部 環境学科

Profile

■主な担当科目

教職論, 道徳教育の理論と指導法, 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法, 教職実践演習

■研究者略歴

1979 (昭和54) 年 3月	鳥取大学教育学部小学校教員養成課程卒業
1980 (昭和55) 年 4月	鹿野町立勝谷小学校教諭
1986 (昭和61) 年 4月	青谷町立中郷小学校教諭
1995 (平成 7) 年 4月	青谷町立青谷小学校教諭
2001 (平成13) 年 4月	鳥取市立鹿野小学校教頭
2006 (平成18) 年 4月	鳥取市立青谷小学校教頭
2008 (平成20) 年 4月	鳥取市立大正小学校校長
2011 (平成23) 年 4月	鳥取市立浜村小学校校長
2014 (平成26) 年 4月	鳥取市立青谷中学校校長
2017 (平成29) 年 4月	鳥取市教育センター主任教育相談員
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
2025 (令和 7) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科特任教授

Research

■取得学位

教育学士 (鳥取大学)

■専門分野

道徳教育 学校経営

■現在の研究テーマ

- 人物の生き方に学ぶ道徳教育
- 自主的, 自治的な活動を生かした学校経営

■所属学会

日本道徳教育学会, 日本特別活動学会, 日本生活科・総合的学習教育学会

■資格

小学校普通免許1級 中学校普通免許2級数学

Data

■研究等活動

【著書】

- 「道徳教育を学ぶための重要項目100」(共著)、2016年、教育出版社

【論文】

- 「総合的な学習の時間における「在り方生き方」教育に関する一考察」、2022年、公立鳥取環境大学紀要

【学会発表】

- 「実践に基づく道徳授業の新しい提案」、2014年、日本道徳教育学会 (第84回大会)

【報告】

- 「人物の生き方に学ぶ道徳教育」、2015年、日本道徳教育学会『道徳と教育』(第333号)

【会報寄稿】

- 「自治会加入率の低下と道徳教育」 2025年、『日本道徳教育学会報』第85号
- 「子供たちが道徳授業に求めているもの～鳥取県道徳教育研究会のあゆみから～」2021年、『日本道徳教育学会報』第66号
- 「偉人等の「人生の転機」に焦点をあてた道徳授業の必要性」2020年、『日本道徳教育学会報』第61号
- 日本道徳教育学会 (第80回大会) 「道徳授業成否の鍵は資料にあり」、2013年、『日本道徳教育学会報』第26号

■社会貢献活動

- 日本道徳教育学会評議員
- 日本道徳教育学会鳥取県支部長
- 鳥取県道徳教育研究会会長
- 鳥取県教職員育成協議会委員
- 鳥取市教育委員会教育委員
- 鳥取県立青谷高等学校活性化を支援する会長
- 鳥取県立青谷高等学校学校運営協議会会長
- 鳥取市教育委員会子育て親育ち講演会「家庭と学校の役割 ～家庭で、子どもに身につけさせたいこと～」
- 米子市小学校教育研究会道徳部会講演会「道徳科の授業づくりで大切にしたいこと」
- 鳥取県立米子高等学校出前授業「これからの生き方と学び方について～納得のいく生き方・働き方を～」
- 鳥取市立河原中学校区幼小中連携職員研修会「「在り方生き方」教育のために～」
- 鳥取市立高草中学校区小中職員研修会～自治力を育てる特別活動～
- 鳥取市立北中学校区小中職員研修会～在り方生き方教育としての特別活動～
- 未来への授業～学校における「在り方生き方」教育～
- 放送大学講師～子供が求める道徳教育～



研究キーワード

持続性, 人工生態系, 適正技術, バイオリージョナリズム, 文明

荒田 鉄二

ARATA, Tetsuji

人間形成教育センター副センター長（英語副専攻担当）
教授所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ t2-arata@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 環境と倫理, 環境と文明, 環境学概論

■ 研究者略歴

1985 (昭和60) 年 3月	千葉大学 園芸学部 環境緑地学科 卒業
1985 (昭和60) 年 4月	株式会社 エックス都市研究所 研究員
1992 (平成 4) 年 3月	東京農工大学 大学院 農学研究科 環境保護学専攻 (修士課程) 修了
1993 (平成 5) 年 7月	株式会社 環境文明研究所 主任研究員
2003 (平成15) 年 4月	NPO法人 循環共生社会システム研究所 主任研究員
2004 (平成16) 年 4月	吉備国際大学 政策マネジメント学部 (環境リスクマネジメント学科) 准教授
2009 (平成21) 年 4月	鳥取環境大学環境マネジメント学科准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授, 大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授
2018 (平成30) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■ 取得学位 修士 (農学) (東京農工大学)

■ 専門分野 環境哲学, 持続性学, 文明論

■ 現在の研究テーマ

- ・ 持続不可能性の根源に関する研究
- ・ 文明の避難場所づくりに関する研究
- ・ 未来世代の権利の制度化に関する研究

■ 所属学会 地球システム・倫理学会, 環境社会学会 ほか

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・ 2012年 環境マインド養成講座 第3部 (共著), 2012年, 環境教育センター (人間環境大学内)

【論文】

- ・ 「成長」という呪縛 (単著), 環境と文明, Vol.32 No.2, 2024年, NPO法人環境文明21
- ・ 人間にできて, AIにはできないこと (単著), 環境と文明, Vol.31 No.9, 2023年, NPO法人環境文明21
- ・ 過剰開発: ドイツに行って考えたこと (単著), KIESS MAIL NEWS, 2020年1月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ ローマは1日にして滅びずーガブリエルとオルテガをめぐる (単著), KIESS MAIL NEWS, 2018年12月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ 精神を病んだ21世紀社会vs環境文明21 (単著), 環境と文明, Vol.26 No.11, 2018年, NPO法人環境文明21
- ・ 収量逡減の法則 (単著), KIESS MAIL NEWS, 2018年5月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ マインドセットを変える (単著), KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ 人と自然: 橋は燃やされたージャン・アンビュルジェによる環境倫理の根拠づけ (単著), KIESS MAIL NEWS, 2016年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ ローカリゼーションのすすめ (単著), 環境と文明, Vol.24 No.2, 2016年, NPO法人環境文明21
- ・ 進歩と救い (単著), KIESS MAIL NEWS, 2015年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ 若者の環境意識: 経済成長と地球環境問題の関係 (単著), 環境と文明, Vol.23 No.1, 2015年, NPO法人環境文明21
- ・ 生き延びるための食と農 (単著), 環境と文明, Vol.22 No.5, 2014年, NPO法人環境文明21
- ・ 成長と大きさの限界について (単著), KIESS MAIL NEWS, 2013年, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ 文明の避難場所づくり (単著), 環境と文明, Vol.21 No.9, 2013年, NPO法人環境文明21

【報告書】

- ・ 東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究 (平成25年度環境研究総合推進費補助金研究事業) 報告書 (共著), 2014年, 鳥取環境大学
- ・ 日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収の促進に関する研究 (平成23年度循環型社会形成推進科学研究費補助金研究) 報告書 (共著), 2012年, 鳥取環境大学

■ 社会貢献活動

- 委員: 鳥取県森林環境保全税関連事業評価委員会委員 (平成25～令和4年度)

- 委員: 鳥取県森林環境保全税のあり方検討会 (令和4年3月～10月)

- 委員: 鳥取地方労働審議会委員 (平成25～令和5年9月)

- 委員: 鳥取県私学審議会委員 (令和5年7月～)



研究キーワード

理科教育, ICT活用教育, 学習科学

千代西尾祐司

教授

CHIYONISHIO, Yuji

所属…環境学部 環境学科

Profile

■ **主な担当科目** 理科指導法1.2.3.4, 教育の方法と技術

■ **研究者略歴**

1987 (昭和62) 年 3月	鳥取大学農学部農芸化学科卒業
1989 (平成 元) 年 4月	倉吉市立河北中学校 教諭
1992 (平成 4) 年 4月	国府町立国府中学校 教諭
1995 (平成 7) 年 4月	河原町立河原中学校 教諭
2001 (平成13) 年 4月	鳥取大学へ研修派遣
2002 (平成14) 年 4月	鳥取県教育センター 指導主事・研修主事
2007 (平成19) 年 4月	智頭町立智頭中学校 教諭
2008 (平成20) 年 4月	鳥取県教育委員会事務局 小中学校課 兼 高等学校課 指導主事
2011 (平成23) 年 4月	鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 指導主事 (平成26年3月まで)
2013 (平成25) 年 4月	鳥取大学 客員准教授 (兼務:1日/週) (平成27年3月まで)
2014 (平成26) 年 4月	鳥取県教育センター 指導主事 (ICT活用教育担当)
2015 (平成27) 年 4月	鳥取県教育センター 教育企画研修課 課長補佐
2016 (平成28) 年 4月	島根大学大学院 教育学研究科 (教職大学院) 教授
2021 (令和 3) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 教授

Research

■ **取得学位** 農学士 (鳥取大学)

■ **専門分野** 理科教育, ICT活用教育, 学習科学

■ **現在の研究テーマ** ・子どもたちの学びを, より豊かにするための「アクティブラーニング」の視点を取り入れた教育実践の開発
 ・GIGAスクール構想における, 一人一台端末時代に応じた授業でのICT活用
 ・天体観望におけるテクノロジー活用によって, 知識やスキルのない者でも観望を可能にする方法論の確立・テクノロジーを用いた, 新しい視点での理科教材作成
 ・ICT支援員における効果的な授業支援力の向上研究 (共同研究) など

■ **所属学会** 日本教育経営学会, 日本天文教育普及研究会

■ **資格** 中学校教諭1級普通免許状(理科), 高等学校教諭2級普通免許状(理科・農業)

Data

■ **研究等活動**

【著書】

・「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」(編者), 2019年, 北大路書房

【論文】

- ・「理科教育における, STEAM教育教材としての電視観望技術の実践的活用 - Plate Solving技術とCMOSカメラを活用した天体観望の運用 -」(共著), 2021年, 学校教育実践研究 vol.:4 (島根大学大学院教育学研究科)
- ・「理科単元学習内での協調学習による生徒の考えの変容 - 概念地図を用いた科学概念変化の見取り -」(共著), 2021年, 島根大学教育学部紀要.54巻
- ・「外国人児童生徒を有するクラスにおける「主体的, 対話的で深い学び」を指向した実践と展望 - 一言情報に依存しにくい教材による協働的な学びづくり -」(共著), 2020年, 学校教育実践研究 3 (島根大学大学院教育学研究科)
- ・「天体の電視観望技術を用いた教材開発 -CMOSカメラとPlate Solving技術を活用した天体観望教材-」(共著), 2019年, 学校教育実践研究 vol.:2(島根大学大学院教育学研究科)
- ・「情報モラル指導分野での「考え議論する道徳」-大学院生の出張型授業による地域貢献の取り組み-」(共著), 2018年, 学校教育実践研究 vol.:1 (島根大学大学院教育学研究科)
- ・「鳥取県におけるICT活用教育推進の方向性検討について: ICT活用教育推進協議会の提言と推進ビジョンの策定」(共著), 2015年, 鳥取大学教育研究論集 5
- ・「教養教育実践を通じた主体的・自立的学習者の育成と評価: 学習科学を学ぶことでのメタ認知能力育成(2)」(共著), 2015年, 鳥取大学教育研究論集 5
- ・「教養教育実践を通じた主体的・自立的学習者の育成と評価: 学習科学を学ぶことでのメタ認知能力育成」(共著), 2014年, 鳥取大学教育研究論集 4
- ・「鳥取県の高等学校教育における学習理論研修を通じた学習科学の知見の導入: 平成24年度, 平成25年度の2年間の実践を通じた結果と考察」(単著), 2014年, 鳥取大学教育研究論集 4

【映像教材】

・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために- 校内OJT用映像教材 (DVD), 2017年

■ **社会貢献活動**

- ・「岩美町教育委員会執行事務の点検及び評価」に係る外部評価委員 (2025年度~)
- ・鳥取市子ども科学館運営委員 (副委員長) (2024年度~現在)
- ・ものづくり協力会議 (鳥取大学地域価値創造研究教育機構内) 役員 (2024年度~現在)
- ・科学の甲子園及び科学の甲子園Jr 鳥取県大会指導助言 (2022年度~現在)
- ・NPO法人はなとね支援 (ゼミ生と共に支援活動) (2024年度~現在)
- ・鳥取市さじアストロパーク支援 (ゼミ生と共に支援活動) (2022年度~現在)
- ・高等学校教育と連携した学力向上事業 (鳥取県立青谷高等学校・境高等学校) (2022年度~現在)
- ・島根大学非常勤講師 (2022年~現在)
- ・日南町立日南小学校指導助言 (2022~現在)
- ・ICT支援員業務における共同研究 (これから求められるICT教育の姿) (2018年度~現在)
- ・鳥取市立桜ヶ丘中学校・米子市立加茂中学校等との指導助言及び交流多数



研究キーワード

細菌, 微細藻, 窒素循環, 汽水, 分子生態

吉永 郁生

YOSHINAGA, Ikuo

地域イノベーション研究センター長, 人間形成教育センター副センター長 (地域実践副専攻担当)
教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ iyoshina@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目	海洋環境学概論, 自然環境保全実習・演習A, 自然環境保全概論, 水域生態学, 鳥取学
■ 研究者略歴	
1985 (昭和60) 年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1987 (昭和62) 年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程水産学専攻修了, 同博士後期課程進学
1990 (平成 2) 年 5月	同上退学, 京都大学農学部助手
1991 (平成 3) 年 5月	京都大学農学博士学位取得
1996 (平成 8) 年 9月	文部省在外研究員としてアメリカ合衆国オレゴン州立大学に留学 (～1997年7月)
2007 (平成19) 年 4月	京都大学大学院農学研究科助教
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・大学院環境情報学研究科環境学専攻教授
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長

Research

■ 取得学位	農学博士 (京都大学)
■ 専門分野	海洋微生物学, 微生物生態学
■ 現在の研究テーマ	・二枚貝餌料環境解析のためのマイクロバイオーム手法の開発 ・汽水域の微生物の研究 ・海洋の微細藻・大型海藻・海草に生じる微生物被膜の研究 ・海域の線虫類に関する研究 ・鳥取県の水産業の振興 ・有明海再生のための提言 ・東日本大震災で被害を受けた沿岸海域の復興過程の微生物学的研究
■ 受賞歴	1997年 4月 水産学会奨励賞 2008年11月 日本微生物生態学会論文賞
■ 所属学会	日本微生物生態学会, 日本水産学会, 日本農芸化学会, マリンバイオテクノロジー学会, 藻類学会, International Society of Microbial Ecology, American Society of Microbiology
■ 資格	第1種衛生管理者, 潜水士

Data

■ 研究等活動	
【著書】	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの循環「森里海」の現場から-未来世代へのメッセージ72」(共著) 2021年, 花乱社 ・「有明海再生への道」(共著), 2014年, 花乱社 ・「海の環境微生物学-増補改訂版」(共著), 2011年, 恒星社厚生閣 ・「難培養微生物研究の最新技術 II—ゲノム解析を中心とした最前線と将来展望— (Current Technology and Perspectives for Yet-uncultivated Microbial Resources)」(共著), 2010年, シーエムシー出版 ・「微生物ってなに?—もっと知ろう!身近な生命」(共著, 2006年, 日科技連)
【論文】	<ul style="list-style-type: none"> ・「東日本大震災後の気仙沼湾底質におけるn-ヘキササン抽出物重量法による流出油の影響評価の検討」, 2016年, 沿岸海洋研究 ・「環境微生物の視点から見た貝殻敷設の有用性」, 2014年, 『月刊海洋』532号, 海洋出版 ・「森里海連環の哲学から見た有明海の窮状と新たな視点としての微生物の役割」, 2013年, 『アカデミア』140号, 日本学士会 ・「津波の海に生きる未来創生—気仙沼舞根湾調査」(共著), 2012年, 『海洋と生物』203号, 生物研究社 ・「シャットネラ殺藻細菌の扶育場としてのバイオフィルム」, 2012年, 日本水産学会誌 ・「環境中の窒素の循環とあらたな経路としてのアナモックス」(共著), 2012年, 日本水産学会誌 ・「Germination fluctuation of toxic <i>Alexandrium tamarense</i> and <i>A. catenella</i> cysts and its relationship with bloom occurrences in Kesennuma Bay, Japan」(共著), 2017年, Harmful Algae. ・「Complete Genome Sequence of <i>Bradyrhizobium</i> sp. S23321: Insights into Symbiosis Evolution in Soil Oligotrophs」(共著), 2012年, Microb. Environ. ・「Detection of Anammox Activity and 16S rRNA Genes in Ravine Paddy Field Soil.」(共著), 2012年, Microb. Environ. ・「Evidence of Exponential Growth of an Anammox Population in an Anaerobic Batch Culture.」(共著), 2012年, Microb. Environ. ・「Diversity of anaerobic ammonium oxidation (anammox) bacteria in the sediment of a eutrophic freshwater lake.」(共著), 2011年, Microb. Environ. ・「Algicidal bacteria in particle-associated form and in free-living form during a diatom bloom in the Seto Inland Sea, Japan.」(共著), 2010年, Aquat. Microb. Ecol. ・「環境中のアナモックス細菌と窒素循環」(共著), 2009年, 化学と生物
【報告書】	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然機能を活用した流出油の分解過程の解明-人工漂着油分解過程の細菌相調査」(共著), 2003年, 生物的油濁処理技術回覧・効果的利用検討事業報告書, 財団法人漁場油濁被害救済基金
■ 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人「SPERA森里海・時代を拓く」理事 (2013～) ・出前授業 (静岡県榛原高校, 岡山県明誠高校, 鳥取県青谷高校, 福岡県伝習館高校など) 講師 (2014～) ・放送大学 講師 (2019) <ul style="list-style-type: none"> ・シニア自然大学 (大阪市, 朝日新聞社後援)「水の講座」講師 (2018) ・岩美町水産業再生委員会 委員 (2014～) <ul style="list-style-type: none"> ・日本農芸化学会鳥取支部 参与 (2016～) ・環境省ETV事業審査部会委員 (2014～) <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県試験場評価委員 (2017～) ・鳥取市環境審議会委員 (2018～)



研究キーワード

心理教育, 異文化, サブカルチャー

藤田恵津子

教授

FUJITA, Etsuko

所属…環境学部 環境学科

Profile

■ **主な担当科目** 教育心理学, 特別支援教育の理論と実践, 生徒・進路指導論

■ **研究者略歴**

- 2002 (平成14) 年 3月 京都教育大学大学院教育研究科学校教育専修教育臨床心理学分野修了 (教育学修士)
- 2002 (平成14) 年 4月 京都教育大学附属桃山中学校帰国生徒学級相談室 相談員 (～2011年)
- 2004 (平成16) 年 4月 大阪府・市立学校 スクールカウンセラー (～2012年)
- 2004 (平成16) 年 4月 滋賀県警察本部生活安全部少年課大津少年サポートセンター 少年相談専門員 (～2012年)
- 2005 (平成17) 年 4月 大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー (～現在)
- 2007 (平成19) 年 4月 神戸親和女子大学教育専攻科非常勤講師 (～2012年)
- 2007 (平成19) 年 4月 京都教育大学教育学部非常勤講師 (～2012年)
- 2012 (平成24) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科講師
- 2013 (平成25) 年10月 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
- 2015 (平成27) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
- 2024 (令和 6) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 人間形成教育センター教授

Research

■ **取得学位** 教育学修士 (京都教育大学)

■ **専門分野** 臨床心理学, 教育心理学, 発達心理学

■ **現在の研究テーマ**

- ・心理教育 (怒りのマネージメント, ストレス・マネージメント) 個別カウンセリングに加え, 日常生活に必要な心理的知識やコミュニケーション・スキルは心の健康のために有益なことである。
- ・心理臨床とサブカルチャー 「思春期の成長」, 「大人のセルフケア」としての役割をもつサブカルチャーを心理臨床的視点から考える。
- ・異文化適応 定移住による多様な文化背景をもつ子どもが増加しており, 学習や対人関係, アイデンティティ, 適応など課題も複雑化している。心理職は文化の多様性を理解した上で, 彼らのより良い発達や環境にかかわっていくことが求められている。

■ **所属学会** 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会

■ **資格** 公認心理師, 臨床心理士

Data

■ **研究等活動**

【著書】

- ・「改訂版はじめて学ぶ教育相談・生徒指導」(共著), 2024年3月, 金子書房
- ・「サブカルチャーのこころ ―オタクなカウンセラーがまじめに語ってみた」(共著), 2023年5月, 木立の文庫
- ・「学校カウンセリング入門」(共著), 2016年9月, ミネルヴァ書房

【論文】

- ・「『島のお墓に入りたい』と訴える女性との面接過程」, 2021年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第18号
- ・「一卵性双生児の母親面接」, 2020年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第17号
- ・「自分の人生を振り返る高齢女性の面接過程」, 2019年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第16号
- ・「自分のキャリアを模索する青年期女性の面接過程」, 2018年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第15号
- ・「摂食障害を抱える母親の面接過程」, 2017年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第14号
- ・「明確な主訴を持たない母親の面接過程」, 2016年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第13号

■ **社会貢献活動**

- ・鳥取県青少年問題協議会委員
- ・大阪府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー
- ・大阪府臨床心理士会「こころの健康電話相談」相談員
- ・大阪弁護士会「こどもの日無料電話相談」相談員
- ・京都教育大学総合教育臨床センター教育臨床心理実践拠点公開講演会講師「多文化を生きる子どもの心理臨床的援助」



研究キーワード

花, 昆虫, 送粉

笠木 哲也

教授

KASAGI, Tetsuya

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ kasagi-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目

植物学概論, 生態学基礎, 生態学概論: 以下分担で自然環境保全概論, 鳥取学, 生物学実験, 自然環境保全実習・演習A及びB

■ 研究者略歴

1992 (平成 4) 年 3月	宇都宮大学農学部卒業
1992 (平成 4) 年 4月	(株)カーター・アート環境計画 (現 (株)環境・グリーンエンジニア)
1997 (平成 9) 年 3月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士前期課程修了
2002 (平成14) 年 9月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了
2004 (平成16) 年10月	金沢大学地域連携推進センター研究員 (~ 2015年3月)
2006 (平成18) 年 4月	金沢大学環日本海域研究センター研究員 (~ 2016年3月)
2007 (平成19) 年 4月	石川県立総合看護専門学校非常勤講師 (~ 2014年9月)
2013 (平成25) 年10月	石川工業高等専門学校非常勤講師 (~ 2015年3月)
2015 (平成27) 年 4月	遊学館高等学校講師 (~ 2016年3月)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部准教授/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部教授/大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■ 取得学位

博士 (地球環境科学/北海道大学)

■ 専門分野

植物生態学, 送粉生態学, ハナバチ類

■ 現在の研究テーマ

- 植物の繁殖特性と送粉昆虫の行動の関係
- ハナバチ類の分布と送粉ネットワーク構造

■ 所属学会

日本生態学会, 種生物学会, 日本森林科学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

- Variation in flowering plant - bee linkages following experimental restoration of satoyama paddy fields. International Proceedings of Chemical, Biological and Environmental Engineering, 2017. 102 (共著)
- 外来植物が在来植物とハナバチ類の関係に及ぼす影響. 日本海域研究, 2015. 46: 43-48 (共著)
- 加賀地域の標高経度に沿ったハナバチ相の比較. 2013. 日本海域研究, 44: 1-9 (共著)
- 能登半島と佐渡島におけるハナバチ類の種組成と分布. 2012. 日本海域研究, 43: 9-17 (共著)
- Habitat-species responses of alpine plants to climate amelioration: comparison of fellfields and snowbed communities. Arctic, Antarctic and Alpine Research, 2011. 42: 438-448 (共著)
- A hybrid zone dominated by fertile F1s of two alpine shrub species, *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica*, along asnowmelt gradient. Journal of Evolutionary Biology, 2008. 21: 588-597 (共著)
- Eight microsatellite markers for sympatric alpine shrubs, *Phyllodoce aleutica* and *P. caerulea* (Ericaceae). Molecular Ecology Notes, 2006. 6: 402-404 (共著)
- Interspecific pollinator movements and heterospecific incompatibility: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* along snowmelt gradients. Evolutionary Ecology Research, 2005. 7: 73-87 (共著)
- Variations in bumblebee preference and pollen limitation among neighboring populations: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* (Ericaceae) along snowmelt gradients. American Journal of Botany, 2003. 90: 1321-1327 (共著)

【研究発表】

- ウコギ科カクレミノにおけるシュート構造と葉形質の光環境への応答. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)
- 鳥取県東部瀬戸川におけるバイカモのバッチ動態と開花結実状況. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)
- 鳥取県東部地域のコナラ二次林における中低木層の種子散布: 自然落下と鳥散布. 2018. 日本生態学会中国四国地区会, 生物系三学会合同大会 (共同)
- ウコギ科カクレミノにおける個葉形質の変異と光環境の関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
- ニホンジカの生息密度と植生被害タイプの関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
- 鳥取県東部地域におけるナラ枯れ後の落葉樹の分布パターン. 2017. 日本森林学会, 第128回大会 (共同)
- ツリフネソウにおける訪花昆虫相の違いと送粉成功の関係. 2014. 日本生態学会, 第61回大会 (共同)
- Comparison of flowering plant-bee linkages between two types of satoyama habitats in Kanazawa, Japan. 2013. Entomological Society of America, Entomology 2013 in Austin (共同)
- 農地生態系において外来植物の開花が在来ハナバチ相に及ぼす影響. 2011. 応用動物昆虫学会, 第55回大会 (共同)
- 植物群集の開花フェノロジーとハナバチ相の関係に対する外来植物の影響. 2011. 日本生態学会, 第58回大会 (共同)
- Biodiversity and ecosystem in Noto Peninsula: perspectives from satoyama and satoumi. 2010. The 4th International Symposium on Environment of Rim of the Japan/East sea (単独)

■ 社会貢献活動

- 鳥取市環境審議会/委員 (2016 ~)
- 鳥取県環境審議会/委員 (2019 ~ 2022)
- 日本生態学会中国四国地区会/会計幹事 (2018 ~ 2022)
- 白山自然保護調査研究会/幹事 (2015 ~ 2017)



研究キーワード

耐震性能, 伝統技能, 伝統的構法, 木造建築, 防災

中治 弘行

NAKAJI, Hiroyuki

教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL <http://d4407.kankyo-u.ac.jp/>Eメール nakaji@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目

環境物理学, 木質構造計画, 自然素材と環境, 物理学実験

■ 研究者略歴

1994 (平成 6) 年 3月	京都大学工学部建築学科卒業
1996 (平成 8) 年 3月	京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了
1999 (平成11) 年 3月	京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻博士後期課程単位認定退学
1999 (平成11) 年 4月	豊橋技術科学大学工学部建設工学系助手 (～2005年3月)
1999 (平成11) 年 7月	京都大学博士 (工学)
2005 (平成17) 年 4月	高松工業高等専門学校建設環境工学科講師 (～2006年9月)
2006 (平成18) 年10月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学准教授, 大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

■ 取得学位

京都大学博士 (工学)

■ 専門分野

木造住宅の耐震性能評価

■ 現在の研究テーマ

- ・土塗り壁の耐震性能に関する研究
- ・伝統的構法木造住宅の耐震性能向上に関する研究
- ・木造建物と地震災害・防災

■ 所属学会

日本建築学会

■ 資格

危険物取扱乙4類, 床上操作式クレーン技能講習修了証, 玉掛け技能講習修了証

Data

■ 研究等活動

【学位論文】

- ・「木造建物の耐震性能評価に関する研究」(登録番号 課程工博第1860号 京都大学)

【著書】

- ・伝統的構法のための木造耐震設計法: 石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル, 伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会, 2019, 学芸出版社
- ・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル, 高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会, 2014.
- ・「東三河伝統民家耐震調査実験報告書」(共著, 2005年3月)
- ・「1995年兵庫県南部地震—木造建物の被害—」(共著, 1995年9月)

【論文】

- ・CLT材による木造床の面内せん断加力実験. 共著(筆頭), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2020.
- ・土塗りと大壁真壁併用壁の復元力特性に関する研究. 共著, 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻, 2020.
- ・束で分割された土塗り垂れ壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭), 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.91-98, 2019.
- ・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線の再評価. 共著, 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.209-214, 2019.
- ・土塗り小壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験. 共著(筆頭), 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2019.
- ・高さの異なる土塗り小壁付木造軸組の実大実験. 共著, 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2019.
- ・垂れ壁と腰壁で分割された無開口土塗り壁の復元力特性. 共著(筆頭), 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.23-30, 2018.
- ・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線評価. 共著, 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.15-22, 2018.
- ・伝統的な土塗り壁の復元力特性に関する実験的研究. 共著, 日本建築学会中国支部研究報告集第41巻, 2018.
- ・土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その1全面壁と垂れ壁腰壁の実大実験. 共著(筆頭), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018
- ・土塗り壁の復元力特性に関する実大実験と理論的検討 その2 設計用復元力との比較. 共著, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018
- ・実大実験に基づく土塗り小壁付木造軸組の復元力特性(共著), 歴史都市防災論文集Vol.11, pp.103-110, 2017.
- ・伝統構法木造軸組における土塗り小壁の復元力評価法(共著), 歴史都市防災論文集Vol.11, pp.95-102, 2017.
- ・Influence of Penetrating Tie Beams Visible from the Front of Wall on Restoring Force Characteristics of Mud-Walls(共著), 14th World Conference on Timber Engineering, 2016年8月
- ・「異なる強度を持つ壁土を用いた土壁耐力の推定」(共著), 第9回歴史都市防災シンポジウム, 2015年7月
- ・「EVALUATION OF RESTORING FORCE CHARACTERISTICS OF MUD-WALLS CONSIDERING EFFECT OF WALL-HEIGHT FOR SEISMIC STRUCTURAL DESIGN」(共著), 13th World Conference on Timber Engineering, 2014年8月
- ・「SEISMIC PERFORMANCE OF MUD-WALLS WITH SILL BASED ON FULL-SCALE CYCLIC LOADING TESTS」(共著), 12th World Conference on Timber Engineering 2012, 2012年7月
- ・「異なる強度を持つ壁土を用いた土壁耐力の推定」(共著), 日本建築学会構造系論文集第76巻第660号, pp.347-352, 2011年2月
- ・「鳥取県の工法による土塗り壁を有する木造軸組架構の耐力特性評価」(共著), 第13回日本地震工学シンポジウム論文集, 2010年11月
- ・「SEISMIC CAPACITY EVALUATION OF MUD-PLASTERED WALLS CONSIDERING STRENGTH OF MUD」(共著), WCTE 2010 - 11th World Conference on Timber Engineering, (2010)
- ・「土材料試験体の定温乾燥機による乾燥」(共著), 日本建築学会大会梗概集, A-1 分冊, pp.459-460, 2009年
- ・「鳥取県中部地方の工法による土塗り壁の実大せん断加力実験」(共著), 日本建築学会大会梗概集, C-1 分冊, pp.257-258, 2009年
- ・「Seismic Performance Verification of Traditional Wooden House Based on Cyclic Loading Tests and Analytical Methods」(共著), WCTE 2008 - 10th World Conference on Timber Engineering, (2008)
- ・「東三河伝統構法民家の耐震性能評価のための静的繰り返し加力実験」(共著), 日本建築学会構造系論文集, P133～P140, 2007年2月
- ・「The Scale Effects on the Reinforced Concrete Columns with High Strength Materials」(共著), Proceedings of The US-Japan Joint Seminar on Performance-Based Seismic Design, 2001, P297～P308, 2001年8月
- ・「木造住宅土塗り壁の実大実験による耐震性能の再検討」(共著), 日本建築学会構造系論文集 No. 515, P115～P122, 1999年1月

■ 社会貢献活動

- ・日本建築学会近畿支部木造部会幹事(2016年4月～2019年3月)
- ・日本建築学会近畿支部木造部会主査(2012年4月～2016年3月)
- ・鳥取県湯梨浜町崎崎地区町営住宅建替事業民間事業者選定委員会委員(2021年3月～)
- ・旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会(2018年4月～2019年3月)
- ・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会委員(2013年4月～2014年3月)
- ・「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会委員(2010年4月～2013年3月)
- ・重要文化財松江城天守保存活用計画策定委員会委員(2012年3月22日～2014年3月21日)
- ・鳥取環境大学公開講座(2013年度, 2011年度ほか)



研究キーワード

廃棄物系バイオマス, 海面埋立地の早期安定化, リスクコミュニケーション, 生分解性プラスチック, 炭酸化処理

金 相烈

KIM, SangYul

教授
サステナビリティ研究所所長

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

sykim@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目	3R工学, 廃棄物処理技術, 応用化学概論
研究者略歴	<ul style="list-style-type: none"> 1998 (平成10) 年 2月 ソウル市立大学工学部環境工学科卒業 2000 (平成12) 年 9月 北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻修士課程修了 2003 (平成15) 年 9月 北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻博士後期課程修了 2003 (平成15) 年10月 北海道大学大学院工学研究科COE研究員 2004 (平成16) 年 4月 オーストリアウィーン工科大学客員研究員 2005 (平成17) 年 4月 北海道大学大学院工学研究科科学術研究員 2006 (平成18) 年 4月 北海道大学大学院工学研究科博士研究員 2006 (平成18) 年10月 北海道大学大学院工学研究科特任助教 2013 (平成25) 年 4月 鳥取環境大学環境学部環境学科講師 2015 (平成27) 年 4月～ 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 2016 (平成28) 年 4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授 2021 (令和3) 年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻教授

Research

取得学位	博士 (工学) (北海道大学)
専門分野	廃棄物工学
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物系バイオマスの利活用に関する研究 ・焼却残さの炭酸化処理による二酸化炭素の削減に関する研究 ・廃棄物処理施設における合意形成 (リスクコミュニケーション) に関する研究 ・しいたけ形成菌のフタ材として生分解性プラスチックの開発 ・海面埋立地の早期安定化に関する研究
所属学会	日本廃棄物資源循環学会, 韓国廃棄物資源循環学会

Data

研究等活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境汚染現場の修復 ～実務者のための新しいアプローチ～」(分担執筆), 2013年, オーム社 ・「バイオマス地域循環 ～再生可能エネルギーのあるべき姿～」(分担執筆), 2012年, 環境新聞社 ・「不法投棄のない循環型社会づくり ～不法投棄対策のアーカイブス～」(分担執筆), 2009年, 環境新聞社 <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コンジョイント分析に基づいた牛ふんスラリーの適正処理と資源化のための酪農家のニーズ解析:北海道東地域を対象として」(共著), 2013年, 土木学会論文集G 69巻 ・「3次元数値シミュレーションによる修復対策後の地下水流動変化に基づく1,4-ジオキサンの拡散予測 -青森・岩手県境不法投棄事案の恒久対策を目指して-」(共著), 2012年, 土木学会論文集G 68巻 ・「Compartment model of aerobic and anaerobic biodegradation in a municipal solid waste landfill」(共著), 2007年, Waste Management & Research 第25巻 <p>【国際会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Effect of carbonation treatment of incinerator ash on the stabilization of offshore landfill」(共著), 2018年, The 10th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2018 (APLAS2018), Tokyo, Japan ・「Promoting the use of a liquid fertilizer produced from municipal waste biomass in the eastern region of Tottori Prefecture based on an oral survey of liquid fertilizer users」(共著), 2016年, The 9th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2016 (APLAS2016), HongKong ・「The evaluation of a liquid fertilizer recycling system in the Eastern region of Tottori Prefecture using Input-Output Analysis」(共著), 2015年, 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management, DaeJeon, Korea ・「Development of Actual Tracking Method for Prediction of Drift Routes of Marine Debris Generated from Tsunami」(共著), 2014年, 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management and SWAPI, Kyoto, Japan ・「A Study on Potential Improvement of Waste Manifest Systems For Establishing a Recycling-Based Society」(共著), 2013年, Proceedings of 2013 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Vienna, Austria ・「A Comparative Study of Industrial Waste Manifest Systems in Japan and Korea for the Promotion of Proper Recycling」(共著), 2012年, Proceedings of 2012 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Florence, Italy ・「A New Concept of Final Disposal Systems for MSW management Considering Storage of Recyclable Materials and Disaster Waste」(共著), 2012年, The Proceedings of 7th Asian-Pacific Landfill Symposium, Bali, Indonesia <p>【報告書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「焼却排ガスの活用による都市ごみ焼却残渣の炭酸化処理による温室効果ガス削減及び海面埋立処分場の安定化促進に関する研究」(単独), 2018年2月, 廃棄物の適正処理・水処理に係る調査研究助成, 大阪湾広域臨海環境整備センター ・「産業廃棄物不適正処理事案における環境修復の取組から得られたもの」～四日市市大谷知・平津事案のリスクコミュニケーションを通じて～(共著), 2016年3月, 三重県環境生活部廃棄物対策局 ・「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」(共著), 2013年～2014年, 環境研究総合推進費, 環境省 ・「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」(共著), 2011年～2014年, 環境研究総合推進費, 環境省 ・「バイオマスの利活用を基軸とした地域循環圏のモデル化と普及方策に関する研究」(共著), 2010年～2013年, 環境研究総合推進費, 環境省 ・「不適正な最終処分システムの環境再生のための社会・技術システムの開発」(共著), 2007年～2010年, 廃棄物処理等科学研究, 環境省 ・「三重県の環境修復技術システムの今後のあり方に関する研究」(共著), 2009年～2011年, 三重県研究委託
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県表彰・認定等審査会 (鳥取県グリーン商品認定審査会) 委員, 2022年1月～2024年1月 ・鳥取県衛生環境研究所調査研究外部評価委員会 委員, 2020年9月～2023年9月 ・鳥取県東部広域行政管理組合 廃棄物等審議会 委員, 2019年8月～ ・公益財団鳥取県環境管理事業センター 平議員, 2017年6月～ ・鳥取県東部広域行政管理組合 指定管理者選考委員会 委員, 2017年5月～ ・八東川クリーンアップ大作戦実行委員会 委員, 2015年～ ・三重県四日市市大矢知・平津事案に関する三者協議 (学識経験者) (2011年3月より四者協議に変更), 2008年～

研究キーワード

脱炭素, 再生可能エネルギー

松井 徹

准教授

MATSUI, Toru

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■ 主な担当科目 環境とエネルギー, 地域エネルギーシステム論, 温暖化対策エネルギー技術特論

■ 研究者略歴

1991 (平成 3) 年3月	東京工業大学工学部化学工学科卒業
1991 (平成 3) 年4月	東京ガス株式会社入社 (～ 2025年3月)
2011 (平成23) 年3月	芝浦工業大学博士号取得
2013 (平成25) 年4月	一般財団法人エネルギー総合工学研究所出向 (～ 2015年3月)
2020 (令和 2) 年4月	公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部非常勤講師 (～ 2022年9月)
2023 (令和 5) 年4月	A&Tm株式会社出向 (～ 2025年3月)
2025 (令和 7) 年4月	公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部准教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■ 取得学位 博士 (工学) (芝浦工業大学)

■ 専門分野 再生可能エネルギー, バイオマスエネルギー変換

■ 現在の研究テーマ ・ 地域における再生可能エネルギー導入に関する研究

■ 所属学会 日本エネルギー学会

■ 資格 技術士 (環境部門, 衛生工学部門, 総合技術監理部門, 資源工学部門, 上下水道部門, 農業部門, 経営工学部門, 生物工学部門), 環境マネジメントシステム審査員補

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「バイオガスの最新技術」(共著), 2008年, シーエムシー出版
- ・「海藻バイオ燃料」(共著), 2011年, シーエムシー出版
- ・「リサイクルバイオテクノロジーの最前線」(共著), 2013年, シーエムシー出版

【論文】

- ・ Methane fermentation of a mixture of seaweed and milk at a pilot-scale plant (共著), 2010年, Journal of Bioscience and Bioengineering, Volume 110
- ・ Removal of siloxane from digestion gas of sewage sludge (共著), 2010年, Bioresource Technology, Volume 101, Issue 1
- ・ 好熱性脱窒菌TDNO1株による実排水の脱窒処理 (共著), 2010年, 環境科学会誌23巻
- ・ 海藻(養殖昆布残さい)によるエネルギー生成とそのためのネットワーク構築に関する研究 (共著), 2011年, 海洋開発論文集26巻
- ・ Enhanced Biogas Production from Palm Oil Mill Effluent Supplemented with Untreated Oil Palm Empty Fruit Bunch Biomass with a Change in the Microbial Community (共著), 2012年, Japan Journal of Food Engineering, Volume 13
- ・ Hydrocarbon Recovery from Concentrated Algae Slurry via Thermal Pretreatment (共著), 2013年, Journal of the Japan Institute of Energy, Volume 92
- ・ 水生・海洋バイオマスの生産及び燃料への転換技術の開発現状と展望, 2013年, 日本エネルギー学会誌第91号
- ・ 省エネ型下水処理および資源循環技術下水汚泥と廃棄物の混合消化処理, 2015年, 日本エネルギー学会誌第94号

【講演等】

- ・ 国外のバイオマスの取り組みと動向, 2015年, 北海道大学エコセーフエナジー分野第7回セミナー
- ・ 未利用海藻のエネルギー化および利用技術について, 2015年, 第12回水産ゼロエミッション研究会
- ・ バイオマスからの水素製造技術と技術開発動向, 2015年, 地球環境カレッジ第140回定例講演会
- ・ 海藻バイオマスのメタン発酵, 2018年, Next Urban Labo「ヨコハマ海洋環境みらい都市研究室」公開勉強会

■ 社会貢献活動

- ・ ISO/TC265 (CCS) WG5 (Cross-cutting issues) Expert (2013～2015年)
- ・ 一般社団法人日本経済団体連合会環境安全委員会廃棄物・リサイクル部会廃棄物・リサイクルワーキンググループ委員(2018～2021年)
- ・ NPO法人バイオマス北海道理事 (2019年～)
- ・ コージェネレーション白書2021制作委員会委員 (2021年)
- ・ 公益財団法人齋藤茂昭記念財団理事 (2022年～)
- ・ 公益社団法人日本技術士会資格活用委員会委員 (2023年～)

研究キーワード

ユニバーサルデザイン, 多様性, 癒やし, カームダウン



老田 智美

OIDA, Tomomi

准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■主な担当科目 エコハウス計画, 居住インテリア計画, 福祉住環境計画

■研究者略歴

1995 (平成 7) 年 3月	神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科 卒業
1998 (平成10) 年10月	兵庫県立 福祉のまちづくり研究所 研究員 (～2001年3月まで)
2001 (平成13) 年 3月	摂南大学大学院工学研究科社会開発工学専攻修士課程 修了
2001 (平成13) 年 4月	株式会社 NATS環境デザインネットワーク (～2006年6月まで)
2006 (平成18) 年 7月	株式会社 NATS環境デザインネットワーク 代表取締役
2006 (平成18) 年10月	東京大学博士 (工学)
2020 (令和 2) 年 4月	大和大学理工学部理工学科建築学専攻 講師
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授
2025 (令和 7) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

■取得学位 博士 (工学) (東京大学)

■専門分野 建築計画, 福祉のまちづくり, 建築ユニバーサルデザイン

■現在の研究テーマ
・都市および建築空間におけるユニバーサルデザインの導入手法に関する研究
・多様な人が利用しやすい公共トイレの整備に関する研究
・認知症高齢者のための「癒やし環境」の創出に関する研究
・感覚過敏をもつ学生に配慮した「居場所」としてのカームダウン空間に関する研究

■所属学会 日本建築学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本マンション学会

■資格 一級建築士

Data

■研究等活動

【著書】

- ・「心を癒やす環境デザイン - デンマーク・オランダの高齢者居住環境に学ぶ -」(共著), 2022年, 彰国社
- ・「ユニバーサルトイレ - 多様な利用者のための環境デザイン手法 -」(共著), 2017年, 彰国社
- ・「建築・まちづくりの夢をカタチにする力 - 建築企画事例から考える環境デザイン -」(分担執筆), 2008年, 彰国社
- ・「福祉のまちづくりキーワード辞典 - ユニバーサル社会の環境デザイン -」(分担執筆), 2004年, 学芸出版社

【論文】

- ・「大学内の休憩空間に求める休学生と大学生の意識比較 -感覚過敏に配慮した「居場所」の創出に関する研究-」(共著), 2024年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「視覚障害者用トイレ誘導ラインの印象評価と効果 -視覚障害者のユニバーサルデザイントイレ環境に関する研究-」(共著), 2024年, 『日本福祉のまちづくり学会第27回全国大会概要集』
- ・「男女共用トイレに対する兄弟姉妹の有無別学生の利用者意識 -公共トイレの男女共用化の可能性に関する研究-」(共著), 2023年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「移動方法からみた視覚障害者の施設内トイレ利用実態 -視覚障害者のユニバーサルデザイントイレ環境に関する研究」(共著), 2021年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「回想法を用いたカームダウン空間の導入による認知症高齢者の行動変化」(共著), 2020年, 『オーガナイズドセッション (超高齢長寿社会の住空間デザイン) 日本建築学会大会学術講演梗概集計画系』
- ・「Behavior changes in elderly individuals with dementia and effects before and after introducing calm down space using reminiscence」(共著), 2019年, 『The 7rd International conference in BANGKOK, International Association for Universal Design』
- ・「施設形態からみた入居者の居場所空間の利用状況 -認知症高齢者居住施設におけるBPSDに配慮したデザイン手法に関する研究-」(共著), 2019年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「奄美大島大和村における集会施設の利用実態 -離島におけるコミュニティ空間に関する研究-」(共著), 2019年, 『日本福祉のまちづくり学会第22回全国大会概要集』
- ・「福祉施設および大型ショッピングセンターにおける移動・検索方法からみた視覚障害者のトイレ利用実態」(共著), 2017年, 『日本建築学会学術論文集』 No.733
- ・「The actual conditions of toilet facility usage by children in a large scale shopping center -A study regarding the universal design of public toilet facilities-」(共著), 2014年, 『The 5rd International conference in FUKUSHIMA & TOKYO, International Association for Universal Design』

【設計・監修等】

- ・イオンレクタウン/ユニバーサルデザイン監修, トイレ・ベビー休憩室/設計 (埼玉県)
- ・イオンモール天津津南/ユニバーサルデザイン監修 (中華人民共和国)
- ・ロッテ扶餘コンドミニアム/ユニバーサルデザイン監修, 有料キッズクラブ/設計 (大韓民国)
- ・千葉ロッテマリーンズQVCマリンフィールドUDサイン/サインデザイン, 設計 (千葉県)
- ・神戸空港旅客ターミナル UDサイン/サインデザイン, 設計, 設計監理 (兵庫県)
- ・イオンモールユニバーサルデザインガイドライン作成
- ・イオンモール (中国) ユニバーサルデザインガイドライン作成
- ・イオンタウンユニバーサルデザインガイドライン作成

■社会貢献活動

- ・吹田市環境影響評価審査会 委員 (2023～)
- ・神戸市シルバーカレッジ 健康ライフコース 講師 (2020～)
- ・日本規格協会 授乳室図記号に関する委員会 委員 (2017～2019)
- ・神戸婦人大学 ユニバーサルデザインコース 講師 (2002～2023)



研究キーワード

緑地環境, グリーンインフラ, 社会・生態・テクノロジー系, レジリエンス, 気候変動

加藤 禎久

准教授

KATO, Sadahisa

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL https://researchmap.jp/sada_kato

Profile

■ 主な担当科目 グリーンデザイン, 都市の自然環境形成, 景観計画と保全管理

■ 研究者略歴

- 1996 (平成 8) 年 5月 米国ミシガン大学自然資源・環境学部卒業
- 2003 (平成15) 年 4月 米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部実務家養成修士課程修了, MLA
- 2010 (平成22) 年 5月 米国マサチューセッツ大学大学院景観建築・地域計画学科博士課程修了, Ph.D.
- 2011 (平成23) 年 9月 茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS) 共同研究員, IPCCチャプターサイエンティスト
- 2014 (平成26) 年 3月 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) リサーチ・アソシエート
- 2015 (平成27) 年 3月 茨城大学国際戦略室国際コーディネーター
- 2016 (平成28) 年 4月 岡山大学グローバル人材育成院准教授
- 2021 (令和 3) 年 4月 公立鳥取環境大学環境学部准教授
- 2021 (令和 3) 年10月 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授
- 2023 (令和 5) 年10月 鳥取大学大学院連合農学研究科 指導教員資格者 (D合)

Research

■ 取得学位 Ph.D. (Ecological Planning) (University of Massachusetts Amherst, USA)

■ 専門分野 緑地計画学, エコロジカル・プランニング, グリーンインフラ

■ 現在の研究テーマ

- ・自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究
- ・インドネシア・バリ島における伝統的緑地の統合的機能評価に関する研究
- ・鳥取県若桜町・八頭町の農山村地域の持続可能性に関する未来シナリオ分析研究

■ 受賞歴

- 2003年 (平成15) 年5月 Landscape Architecture Alumni Award (米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部)
- 2003年 (平成15) 年8月 最優秀賞 (大学院共同研究部門) (米国ランドスケープアーキテクト協会)
- 2006年 (平成18) 年4月 プロフェッショナル・エンハンスメントアワード (NASA-MSU)

■ 所属学会

国際景観生態学会 (IALE), 日本造園学会, 日本景観生態学会, 日本都市計画学会, 日本建築学会

■ 資格

英検1級

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「Changes in the Use of Green Spaces by Citizens Before and During the First COVID-19 Pandemic: A Big Data Analysis Using Mobile-Tracking GPS Data in Kanazawa, Japan」(共著), 2022年, 『Green Infrastructure and Climate Change Adaptation』, Springer
- ・「Green Infrastructure Planning for Asian Cities: The Planning Strategies, Guidelines, and Recommendations」, 2021年, 『Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities』, Springer
- ・「決定版! グリーンインフラ」(共編著), 2017年, 日経BP社

【論文】

- ・「Landscape metric sensitivity to grain size in rural Japan」(共著・筆頭), 2024年, 『Landscape and Ecological Engineering』 20: 285-298, DOI: 10.1007/s11355-024-00611-y
- ・「新型コロナ禍を経たバリ島プンリプラン観光村に関する調査報告: 伝統的緑地テラジャカンをめぐる社会状況の変容」(共著), 2024年, 『専修人間科学論集. 社会学篇』 14(2), 63-67
- ・「鳥取県東部におけるロードキル発生状況と生態的要因に関する考察」(共著), 2024年, 『第23回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集』
- ・「Human Flow Dataset Reveals Changes in Citizens' Outing Behaviors including Greenspace Visits before and during the First Wave of the COVID-19 Pandemic in Kanazawa, Japan」(共著・責任), 2022年, 『International Journal of Environmental Research and Public Health』 19(14): 8728, DOI: 10.3390/ijerph19148728
- ・「人流ビッグデータで見たCOVID-19流行後のグリーンインフラや観光地利用の変化」(共著), 2022年, 『ランドスケープ研究』 85(5), 585-588
- ・「Land use management recommendations for reducing the risk of downstream flooding based on a land use change analysis and the concept of ecosystem-based disaster risk reduction」(共著・筆頭), 2021年, 『Journal of Environmental Management』, DOI: 10.1016/j.jenvman.2021.112341
- ・「ニューヨーク市BIG-Uプロジェクトにみる減災デザイン実装展開の枠組み」(共著), 2021年, 『ランドスケープ研究』 84(5), 587-590
- ・「バリ島の伝統的緑地「テラジャカン」についての研究—公共性と「かかわりの正当性」—」(共著), 2021年, 『住総研 研究論文集・実践研究報告集』第47号, 131-141
- ・「フィラデルフィア市におけるグリーンインフラ計画と実装の仕組みに関する研究」(共著), 2020年, 『ランドスケープ研究』 83(5), 673-678
- ・「地域開発における伝統的緑地(テラジャカン)の役割: バリ島プンリプラン観光村の事例」(共著), 2020年, 『専修人間科学論集. 社会学篇』第10号, 35-42

【報告書】

- ・「大学生が高評価を与える地方都市の河川緑道とは—鳥取市袋川の写真による印象評価—」(共著・筆頭), 2024年, 『都市計画報告集』 22(4), 691-696
- ・「マカオ内港地区における洪水被害軽減デザインの提案と対策についての考察」(共著), 2023年, 『都市計画報告集』 21(4), 368-372

■ 社会貢献活動

- ・鳥取県景観審議会 委員 (2022年1月~現在)
- ・鳥取県湯梨浜町景観審議会 委員 (2023年9月~現在)
- ・鳥取県大山町総合計画審議会 委員 (2024年7月~現在)
- ・「グリーンインフラで災害に強く緑豊かな街づくり」公立鳥取環境大学公開講座2022 (2022年12月17日)
- ・「自然のチカラで暮らしも地球も、もっと豊かに」夢ナビ (2023年6月25日)



研究キーワード

水産資源, 魚類の初期生態

太田 太郎

OHTA, Taro

副学長補佐(教育, 入試, 研究, 地域連携・国際交流, 企画・評価担当)
准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

oota-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

■**主な担当科目** 鳥取学, 麒麟の知, 漁業資源保全学, 水域生態学

■**研究者略歴**

1997 (平成 9) 年 3月	京都大学農学部水産学科卒業
1999 (平成 11) 年 3月	京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物学専攻修了
1999 (平成 11) 年 4月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物学専攻進学 日本学術振興会特別研究員 (DC 1) 採用
2002 (平成 14) 年 3月	京都大学大学院農学研究科博士後期課程応用生物学専攻研究指導認定
2002 (平成 14) 年 4月~	鳥取県職員に採用 所属: 農林水産部水産振興局水産課 鳥取県栽培漁業センター
2016 (平成 28) 年 3月	鳥取県水産試験場 など
2004 (平成 16) 年 3月	京都大学大学院農学研究科応用生物化学専攻博士課程修了 (農学博士)
2016 (平成 28) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授
2019 (平成 31) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2020 (令和 2) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 兼 環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■**取得学位** 博士 (農学) (京都大学)

■**専門分野** 魚類生態学, 水産資源生物学, 漁業制度及び漁業法令

■**現在の研究テーマ** ・水産生物の資源生態 ・鳥取県における漁業制度

■**所属学会** 日本水産学会 ほか

■**資格** 潜水士, 日本さかな検定1級

Data

■**研究等活動**

【著書】

- ・「有明海のスズキの初期生態を探る」稚魚学—多様な生理生態を探る (共著), 株式会社生物学研究者, 東京, 2008, pp. 277-286
- ・「耳石による回遊履歴追跡」, スズキと生物多様性 (共著), 恒星社厚生閣, 東京, 2002, pp. 91-102.

【論文】

- ・鳥取県東部岩美町沿岸および河口域に出現する魚類仔稚魚. (共著) 鳥取県立博物館研究報告 2025 : 62 1-13
- ・日本海南西部鳥取県沿岸で漁獲されるマアジの産卵期と成長. (共著) 水産技術: 2024: 1-8.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ中卵型の食性. (共著) 水生動物 2024: p. AA2024-18.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ種群の分布域と回遊. (共著) 水産学会誌:2023: 89: 365-367.
- ・鳥取県沿岸海域で採集したアユ仔稚魚の耳石日周輪解析による孵化日と初期成長の推定. (共著) 水産増殖 2022: 70: 343-352.
- ・湖山池沿岸部におけるテナガエビの出現動向. (共著) 鳥取県立博物館研究報告 2022: 59 1-8
- ・鳥取砂丘海岸におけるペットボトルを指標とした海岸漂着ごみの挙動に関する気象、海象要因の解析 (共著) 公立鳥取環境大学紀要 2021: PR1-PR8.
- ・鳥取市における漁業振興にかかわる諸課題の抽出. (単著)公立鳥取環境大学紀要 2019: 16 RE31-35.
- ・水産物に関する消費者アンケート調査について. (単著)公立鳥取環境大学紀要 2019: 16 RE37-43.
- ・Numerical simulation of the migration and distribution of diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the southwest Sea of Japan. (共著) Fisheries Oceanography 2009; 19: 63-75.
- ・Tagging studies on the diamond squid (Thysanoteuthis rhombus) in the western Sea of Japan. (共著) Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography 2008; 72: 30-36.
- ・Migration of Japanese temperate bass Lateolabrax japonicus juveniles within the Chikugo River estuary revealed by $\delta^{13}C$ analysis. (共著) Marine Ecology Progress series 2008; 358: 245-256.
- ・Distribution of Japanese temperate bass, Lateolabrax japonicus, eggs and pelagic larvae in Ariake Bay. (共著) Ichthyological Research 2007; 54: 367-373.
- ・稚魚期を有明海湾奥部河口域で過ごしたスズキの成長. (単著) 海洋と生物 2007; 29: 33-39.
- ・Effects of river flow on larval growth and survival of Japanese seaperch Lateolabrax japonicus (Pisces) in the Chikugo River estuary, upper Ariake Bay. (共著) Journal of Fish Biology 2006; 69: 1662-1674.
- ・有明海湾奥部の干潟汀線域に出現する仔稚魚. (共著) 魚類学雑誌 2002: 49: 109-120.
- ・筑後川河口で採集されたアリアケシラウオ仔魚の形態. (共著) 魚類学雑誌2002: 49: 103-108.
- ・Use of otolith microanalysis to determine estuarine migrations of Japanese sea bass Lateolabrax japonicus distributed in Ariake Sea. (共著) Fish. Sci. 1998; 64: 740-743.
- ・Otolith Sr concentration analyzed by PIXE in Ariake estuary dependent sea bass juveniles. (共著) Int. J. PIXE 1997; 7: 147-151.

■**社会貢献活動**

- ・千代川河川アドバイザー会議 (国土交通省中国地方整備局) 委員 (R6 ~)
- ・公益財団法人 鳥取県栽培漁業協会評議員 (R6 ~)
- ・公益財団法人鳥取県魚の豊かな川づくり基金評議員 (R6 ~)
- ・鳥取県水辺の環境保全協議会 委員(R4 ~)
- ・鳥取県漁業協同組合外部アドバイザー (H28 ~)
- ・鳥取県沖合底曳網漁業協会外部アドバイザー (H28 ~)

【講演等】

- ・公立鳥取環境大学 ジオパークサイエンスカフェ「チリメンモンスター教室」(R5年7月)
- ・公立鳥取環境大学 市民公開講座「藻場 (もば) の大切さを学ぼう」(R5年7月)
- ・市民公開シンポジウム: 有明海の生物とそれをとりまく環境の現況「遡河回遊アンチョビー: エツの生活史の可塑性」(R4年11月)
- ・第43回市民フォーラム「鳥取の海を知る」~科学的視点から健康増進問題・生態環境問題の解決へ~ 2022年10月22日 日本農芸化学会中四国支部「豊かな水域環境づくりに向けて」(R4 10月)
- ・第18回全国漁港漁場整備技術研究会「基調講演 多様で豊かな漁業環境保全のあり方について ~山陰鳥取の海を実例に~」(R1年10月)

【集中講義】

- 非常勤講師: 水圏・多様性生物学特論 (島根大学生物資源科学部) (R6年9月)
- 非常勤講師: 京都大学大学院農学研究科 (修士課程) 応用生物学特別講義Ⅶ (R1年6月)

研究キーワード

新規化学物質, 質量分析, ジオミクス



山本 敦史

准教授

YAMAMOTO, Atsushi

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻<https://pfos.jp>atyamamo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 化学概論, 化学実験, 環境分析化学特論

■ 研究者略歴

1993 (平成 5) 年3月	鳥取県立鳥取西高等学校卒業
1997 (平成 9) 年3月	九州大学理学部化学科卒業
1999 (平成11) 年3月	九州大学大学院理学研究科化学専攻修了
1999 (平成11) 年4月	ユニチカ株式会社
2000 (平成12) 年4月	大阪市立環境科学研究所
2014 (平成26) 年3月	関西大学大学院理工学研究科博士課程修了, 博士 (工学)
2016 (平成28) 年4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2018 (平成30) 年4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授
2023 (令和 5) 年8月	大阪大学大学院理学研究科附属フォアフロント研究センター招へい准教授

Research

■ 取得学位 博士 (工学) (関西大学)

■ 専門分野 分析化学, 質量分析

■ 現在の研究テーマ
・環境中残留性汚染物質の分析, 生体影響評価
・暮らしに身近な化学物質のリスク評価
・食品中の栄養成分等の探索■ 受賞歴
2017年 (平成29年) 5月 奨励賞 (日本質量分析学会)
2024年 (令和 6年) 12月 学術奨励賞 (一般社団法人あにまるすまいる)

■ 所属学会 日本環境化学会, アメリカ化学会, 日本質量分析学会, 日本食品衛生学会, 日本分析化学会

Data

■ 研究等活動

【報文・総説・解説】 (2022 年以降)

- ・環境リスク物質の微量定量と液体クロマトグラフィータンデム質量分析. 日本質量分析学会誌, 72巻, 58-64 (2024), doi: 10.5702/massspec.24-133
- ・Fragmentation Consideration Using Amidoamine Oxide Homologs (共著), Mass Spectrom. 13, A0158 (2024), doi: 10.5702/massspectrometry.A0158
- ・Heat-treated and/or lysozyme-treated Enterococcus faecalis (FK-23) improves the progression of renal disease in a unilateral ischemia-, reperfusion injury rat model. (共著) J. Clin. Biochem. Nutr. 75, 78-89 (2024), doi: 10.3164/jcbn.24-29
- ・マスマスペクトルのannotation (1): 異性体のInChIとSMILES. (共著) 日本質量分析学会誌, 71巻 149-152 (2023), doi: 10.5702/massspec.S23-51
- ・Quantitation of guanidine derivatives as representative persistent and mobile organic compounds in water: Method development. (共著) Anal Bioanal Chem, 415, 1953-1965 (2023), doi: 10.1007/s00216-023-04613-x
- ・Amidoamine Oxide Surfactants as Low Molecular Weight Hydrogelators: Effect of Methylene Chain Length on Aggregate Structure and Rheological Behavior. (共著) Gels, 9, 261 (2023), doi: 10.3390/gels9030261
- ・A study of chemical substances migrated from plastic tableware to evaluate the food safety for pets. (共著) Mass Spectrometry, 12, A0119 (2023), doi: 10.5702/massspectrometry, A0119

2021 年以前含めた全体は以下に掲載

<https://www.webofscience.com/wos/author/record/C-8211-2012>

【学会・研究会】 (2022 年以降)

- ・有機ハロゲン系環境汚染物質分析. プラズマ分光分析研究会第123回講演会 (広島市, 2024年)
- ・Quality control of non-target analysis using the same method of mass spectrometer. (共著) 25th International Mass Spectrometry Conference. (メルボルン, 2024年)
- ・Mass Spectrometry and Emerging Contaminants in Japan. Bilateral meeting between CMSS and MSSJ. (つくば, 2024年)
- ・環境データから見る難分解性有機フッ素化合物 PFASs による環境問題 これまでとこれから 大阪工研協会第48回分析展と講演会 (大阪市, 2024年)
- ・Persistent and mobile compounds (PMOCs) guanidine derivatives. Environmental Occurrence and their disinfection byproduct. (共著) アジアオセアニア質量分析学会 (韓国済州島: 2023年)
- ・GC x GC で可視化される化学反応槽としての電子たばこ (共著) 第31回環境化学討論会 (徳島: 2023年)
- ・高度化する環境分析化学データの蓄積と共有 第30回環境化学討論会 (富山: 2022年)
- ・同一測定内のデータ整合性にも着目したマスマスペクトル解析 第3回日本質量分析学会スペクトルデータ部会シンポジウム (オンライン: 2022年)

【教科書・学術図書】

- ・PFASの規制動向と対応技術 (共著) (技術情報協会: 2024年)
- ・質量分析活用スタンダード (共著) (羊土社: 2023年)
- ・機器分析ハンドブック 1 有機・分光分析編 (共著) (化学同人: 2020年)

■ 社会貢献活動

- ・鳥取県分析技術勉強会世話人
- ・鳥取県環境影響評価審査会委員 (2018年~)
- ・日本質量分析学会理事 (2019年~ 2023年, 2025年~)
- ・日本質量分析学会講習会企画委員長 (2019年~ 2020年)
- ・日本環境化学会評議員 (2019年~ 2025年)
- ・環境省環境調査研修所研修支援教材講師 (2024年~)

研究キーワード

下水処理, 嫌気性消化, メタン発酵, 汚泥有効利用, 高度処理



戸莉 丈仁

准教授

TOGARI, Taketo

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://mizukankyo-togari.amebaownd.com/>

E-mail t-togari@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目

水質管理学, 水質汚濁防止, 水処理技術

研究者略歴

2001 (平成13) 年 3月	金沢大学工学部土木建設工学科 卒業
2003 (平成15) 年 3月	金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程 修了
2003 (平成15) 年 4月	石川県土木部河川課
2005 (平成17) 年 4月	石川県北河内ダム建設事務所建設課
2007 (平成19) 年 4月	石川県県央土木総合事務所都市施設課
2010 (平成22) 年 4月	石川県環境部水環境創造課
2014 (平成26) 年 4月	石川県南加賀土木総合事務所河川砂防課
2016 (平成28) 年 3月	金沢大学大学院自然科学研究科環境科学専攻 博士後期課程 修了, 博士 (工学)
2016 (平成28) 年 4月	石川県県央土木総合事務所維持管理課
2017 (平成29) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部講師
2017 (平成29) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部 准教授
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

取得学位

博士 (工学) (金沢大学)

専門分野

下水道工学, 水処理工学, バイオマス利活用 (汚泥処理), 水環境保全

現在の研究テーマ

- ・ 下水汚泥と廃棄物系バイオマスによる混合消化
- ・ 下水汚泥へのマイクロ波照射前処理による嫌気性消化高効率化
- ・ 中小規模市町村における生活排水処理システム評価
- ・ 嫌気性消化処理を活用した下水処理場の大規模被災時エネルギー供給拠点化

受賞歴

令和元年第56回環境工学研究フォーラム論文賞, 令和3年日本下水道協会優秀論文賞

所属学会

土木学会, 日本水環境学会, 日本下水道協会

資格

技術士 (上下水道部門)

研究等活動

【論文 (査読有)】

- ・ 「Assessment of Surface Water Quality of Huai Luang River in Udon Thani, Thailand, Using the Water Quality Index」(共著), 2023年12月, International Journal of Environmental Science and Development 14(6) 381-387
- ・ 「Ammonia tolerance and microbial community in thermophilic co-digestion of sewage sludge initiated with lignocellulosic biomass」(共著), 2023年5月, Bioresource Technology 376 128834-128834
- ・ 「小規模処理場から発生する余剰汚泥のメタン生成ポテンシャルに及ぼす脱水の影響」(共著), 2021年11月, 土木学会論文集G (環境) Vol.77(No.7), pp.359-365
- ・ 「下水汚泥と稲わらの高温湿熱メタン発酵によるエネルギー回収と残渣の水田への利用可能性」(共著)(筆頭), 2020年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.76(No.7), pp.481-490
- ・ 「オキシデーションディッチ汚泥と稲わらの高濃度高温混合消化-パイロットプラントによる実証」(共著), 2020年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.76(No.7), pp.471-479
- ・ 「下水汚泥の無加温嫌気性消化の現場維持管理データ分析とその活用について」(共著), 2020年3月, 下水道協会誌, Vol.57, No.689, pp.66-75
- ・ 「オキシデーションディッチ汚泥の高濃度高温消化に及ぼす稲わらの添加効果」(共著), 2019年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.75(No.7), pp.451-459
- ・ 「混合メタン発酵基質としての浄化槽汚泥のエネルギー価値評価」(共著), 2019年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.74(No.7) pp.135-143
- ・ 「下水汚泥・稲わらの混合メタン発酵による地域内資源循環システムに関する研究」(共著)(筆頭), 2018年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.74(No.7) pp.215-223
- ・ 「下水汚泥との混合メタン発酵に向けたスーパーマーケット拠点方式生ごみ分別収集システム」(共著)(筆頭), 2017年11月, 土木学会論文集G (環境) Vol.73, 2017, pp.105-113
- ・ 「Methane Recovery and Microbial Community Analysis of a High Solid Thermophilic Co-digestion of Sewage Sludge and Waste Fried Tofu」(共著), 2016年10月, Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.5, pp.319-328
- ・ 「Effects of microwave pretreatment of dewatered sludge from an oxidation-ditch process on the biogas yield in mesophilic anaerobic digestion」(共著)(筆頭), 2016年8月, Journal of Water and Environment Technology, Vol.14, No.3, pp.158-165
- ・ 「Anaerobic digestion of sewage sludge with high solid content and its use as fertilizer」(共著), 2015年10月, Journal of Water and Environment Technology, Vol.13 No.5 2015, pp.349-358
- ・ 「OD汚泥と廃油揚げを主体とする7種の廃棄物系バイオマスの高濃度混合消化」(共著)(筆頭), 2014年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.70, 2014, pp.425-432
- ・ 「Comparative performance of mesophilic and thermophilic anaerobic digestion for high-solid sewage sludge」(共著), 2013年12月, Bioresource Technology, Volume 149, December 2013, pp.177-183
- ・ 「オキシデーションディッチ汚泥と廃油揚げを用いた高濃度混合嫌気性消化」(共著)(筆頭), 2013年11月, 土木学会論文集G (環境) Vol.69, 2013, pp.597-603

【報告書】

- ・ 「小規模処理場施設に適したメタンガス有効利用支援に関する共同研究報告書」(共著), 2014年6月, 独立行政法人土木研究所
- ・ 「稲わらと下水汚泥の高濃度混合高温消化と炭化を核とした地域内循環システムに関する研究報告書」(共著), 2019年3月, 国土技術政策総合研究所 下水道革新的技術実証事業 (B-DASHプロジェクト)

【総説等】

- ・ 「混合嫌気性消化による下水処理場の地域バイオマスステーション化」(単著), 2021年11月, 再生と利用 45(168), pp.46-54
- ・ 「小規模市町村における地域で発生する廃棄物系バイオマスの混合嫌気性消化」(単著), 2021年4月, 用水と廃水 63(4), pp.51-56
- ・ 「稲わらと下水汚泥の混合メタン発酵処理システム」(共著)(筆頭), 2020年5月, 環境工化技術 19(3), pp.53-58
- ・ 「下水汚泥のリサイクルと小規模下水処理場向け高濃度混合メタン発酵技術」(共著), 2015年9月, 日本エネルギー学会誌, 第94巻7号, 2015, pp.705-714

【国際会議】

- ・ 「Improvement of energy recovery and sludge fertilizer quality by the addition of tofu residue in anaerobic digestion of sewage sludge」(共著)(筆頭), 2024年8月, IWA World Water Congress & Exhibition Toronto, 2024
- ・ 「Energy and silicon recovery by anaerobic co-digestion of sewage sludge and rice straw」(共著)(筆頭), 2024年6月, 18th IWA World Conference on Anaerobic Digestion
- ・ 「Microbial community and methane yield transition by decreasing of rice straw addition in high solid thermophilic sludge co-digestion」(共著), 2022年9月, IWA World Water Congress & Exhibition Copenhagen 2022
- ・ 「Regional resource and energy circulation by anaerobic digestion of organic wastes with lactic acid and photosynthetic bacteria」(共著), 2020年9月, Virtual Sustainable Waste Management Conference, September 15-17
- ・ 「Effect of Extracellular Polymeric Substances on Methane Production Potential of Activated Sludge from Oxidation Ditch Process」(共著), 2018年7月, Water and Environment Technology Conference 2018
- ・ 「Anaerobic digestion of highly concentrated sewage sludge for sludge management in small cities」(共著), 2014年9月, IWA World Water Congress & Exhibition, Lisbon, Portugal
- ・ 「Anaerobic co-digestion of highly-concentrated sewage sludge and organic wastes for small facilities」(共著), 2013年6月, 13th World Congress on Anaerobic Digestion, June 25-28, Santiago de Compostela, Spain, p.220
- ・ 「Mesophilic co-digestion of sewerage sludge in the oxidation-ditch process and wasted fried tofu」(共著), 2012年12月, Proceedings of the 4th IWA Asia-Pacific Young Water Professionals Conference 2012 Tokyo, pp.148-151

社会貢献活動

- ・ 鳥取県浄化槽整備及び適正管理推進協議会会長 (2021年～)
- ・ 鳥取市下水道等事業運営審議会委員 (2018年～)
- ・ 鳥取市水道事業審議会委員 (2018年～)
- ・ 「よなか未来利用エネルギー活用事業」事業可能性調査業務検討委員会委員長 (2019年～2020年)
- ・ 招待講演 第23回水環境学会シンポジウム「地域内資源・エネルギー循環拠点としての下水処理場 (メタン発酵を核として) (2020年9月)
- ・ 招待講演 第57回環境工学研究フォーラム「一般公開シンポジウム【環境工学と農業分野の連携による資源・エネルギー循環】「農業廃棄物 (稲わら) と下水汚泥の混合消化について」(2020年12月)
- ・ 倉吉市下水道使用料審議会委員 (2018年～2019年)
- ・ 「稲わらと下水汚泥の高濃度混合高温消化と炭化を核とした地域内循環システムに向けて」(2019年7月)
- ・ 石川県下水道フォーラム講演「下水汚泥はエネルギーの源! ～さらわれ者から役立つ資源(しげん)へ～」(2018年10月)
- ・ 鳥取県農林水産部指定管理施設運営評価委員会委員 (2017年)

Data



研究キーワード

地理学, ジオパーク

柚洞 一央

准教授

YUHORA, Kazuhiro

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■ 主な担当科目 人文地理学, 環境地理学, 自然環境と文化

■ 研究者略歴

1994 (平成 6) 年 3月	栃木県立宇都宮高等学校卒業
2001 (平成13) 年 3月	琉球大学法文学部人文学科卒業
2004 (平成16) 年 3月	筑波大学大学院教育研究科修了
2011 (平成23) 年 3月	北海道大学大学院文学研究科修了
2011 (平成23) 年 4月～	室戸ジオパーク推進協議会地理専門員
2015 (平成27) 年 4月～	徳山大学経済学部准教授
2015 (平成27) 年 4月～	高知工科大学非常勤講師 (地誌学)
2017 (平成29) 年 4月～	山口大学人文学部非常勤講師 (人文地理学・地誌学)
2018 (平成30) 年 4月～	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
2018 (平成30) 年 7月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

Research

■ 取得学位 博士 (文学) 北海道大学, 修士 (教育学) 筑波大学

■ 専門分野 地理学, ジオパーク, ジオソールリズム, 地域づくり

■ 現在の研究テーマ
・地球と人が共存できる社会の実現
・主体的・対話的で深い学び

■ 受賞歴 2008 (平成20) 年3月 学会賞 (奨励賞) 日本地理学会

■ 所属学会 日本地理学会 人文地理学会 日本第四紀学会 北海道地理学会 生き物文化誌学会

■ 資格 中学校教諭専修免許状 (社会)
高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「SDGsを考える」(共著), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(共著), 2019年, 今井出版
- ・「Natural Heritage of Japan: Geological, Geomorphological, and Ecological Aspects」(共著), 2017年, Springer
- ・「フィールドノート古今東西 (FENICS100万人のフィールドワーカーシリーズ13)」(共著), 2016年, 古今書院
- ・「中部・近畿・四国のジオパーク (シリーズ大地の公園)」(共著), 2015年, 古今書院
- ・「生き物文化の地理学 (ネイチャー・アンド・ソサエティ研究第2巻)」(共著), 2013年, 海青社

【論文】

- ・「室戸高校における地理学的視点を取り入れたジオパーク教育」(共著), 2016年, 『地学雑誌』125(6)
- ・「ジオパーク活動における地理学的視点の役割」(共著), 2014年, 『E-journal GEO』9(1)
- ・「多自然川づくりとは何だったのか?」(共著), 2012年, 『E-journal GEO』7(2)
- ・「Bank Erosion along the Rajang River in Malaysia」(共著), 2009年, 『地理学論集』84号
- ・「[「花蜜資源」を求めて: アルゼンチンにおける日系人養蜂業者の移動と経営戦略], 2007年, 『地理学論集』82号
- ・「日本の養蜂業における移動空間の狭域化と生産形態の多様化」, 2006年, 『地理学評論』79(13)

■ 社会貢献活動

- ・世界ジオパークネットワーク個人会員
- ・日本ジオパークネットワーク現地審査員
- ・Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会委員
- ・萩ジオパーク推進協議会顧問
- ・鳥取県河川委員会委員

市民向け講演・グループワークファシリテーター実績多数

テーマ: 青少年教育, 不登校・発達障害, 助け合い社会の実現 (福祉), 人権教育, 地域住民主体の地域づくりなど



研究キーワード

キノコ, 木材腐朽菌, 加硫ゴム, ゴム生分解, 資源変換

佐藤 伸

SATO, Shin

准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

s-sato@kankyo-u.ac.jp

■主な担当科目 応用微生物学概論, バイオマス変換論, 有機資源利用学, 応用化学概論(分担), 生物学実験(分担)

■研究者略歴

Table with 4 columns: Year, Age, Position, Institution. Lists career milestones from 1999 to 2016, including roles at Hiroshima University, Kyoto University, and various research institutes.

■取得学位 農学博士(京都大学)

■専門分野 応用微生物学, バイオマス変換化学

■現在の研究テーマ ・キノコによる加硫天然ゴムの分解, および脱硫メカニズムの解明
・キノコを使った加硫ゴム再資源化プロセスの開発

■受賞歴 ・2019年9月 (株)リバネス・マリンテックグランプリ・三井化学賞
・2002年12月 若手優秀発表者(第15回エラストマー討論会)

■所属学会 日本木材学会, 日本農芸化学会, 高分子学会, 日本生物工学会, 日本ゴム協会, 日本きのこ学会

■研究等活動

【査読付き投稿論文】

- ・[Deterioration of vulcanized natural rubber sheets is associated with removal of calcium carbonate filler by wood-decay fungi. Trichaptum abietinum and Trichaptum biforme] S. Sato H. K. Tien, W. Inamori, F. Yoneyama, A. Mase. 2023 [Fungal Genomics and Biology], 13(4), 1-6
- ・[Photocatalytic reaction design and its application in real wastewater treatment using TiO2 coated on the stainless-steel mesh. M. Wongaree, A. Bootwong, S. Choo-in, S. Sato 2022 [Environmental Science and Pollution Research] 29(30), 46293-46305
- ・[X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫天然ゴム分解過程の微細構造解析] 佐藤伸, 濱田賢作, 武田佳彦「日本ゴム協会誌」2022 第95巻3号, 77-79
- ・[Degradation of sulfide linkages between isoprenes by lipid peroxidation catalyzed by manganese peroxidase] S. Sato, Y. Ohashi, M. Kojima, T. Watanabe, Y. Honda, T. Watanabe. 2009 [Chemosphere] 77, 798-804
- ・[The first genome-level transcriptome of wood degrading fungus Phanerochaete chrysosporium grown on red oak] S. Sato, F.A. Feltus, P. Iyer, M. Tien. 2009 [Current Genetics], 55, 273-286
- ・[Expression Analysis of Extracellular proteins from Phanerochaete chrysosporium grown on different liquid and solid substrates]. 2007, [Microbiology], 153, 3023-3033
- ・[Microbial scission of sulfide linkages in vulcanized natural rubber by A white rot basidiomycete, Ceriporiopsis subvermispora. S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, H. Kishimoto, N. Yeji, M. Muraoka, T. Watanabe. 2004 [Biomacromolecules] 5, 511-515
- ・[Degradation of vulcanized and nonvulcanized polyisoprene rubbers by lipid peroxidation catalyzed by oxidative enzymes and transition metals]. S. Sato, Y. Honda, M. Kuwahara, T. Watanabe. 2003 [Biomacromolecules] 4, 321-329

【著書】 「白色腐朽菌およびバイオメチルラジカル反応による加硫および未加硫ゴムの分解」環境修復と有用物質生産(共著), 2003年シーエムシー出版

【総説】

- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化] 2022年, [きのこだより], 第45巻 36-41
- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化] 2022年, [ポリマーTECH], 第15巻 33-36
- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化] 2022年, [月間アグリバイオ], 第6巻, 3号
- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化] 2022年, [日本ゴム協会誌], 第95巻, 1号
- ・[木材腐朽菌による加硫ゴムの分解と再資源化] 2021年, [月間アグリバイオ], 第5巻, 12号
- ・[木材腐朽菌による加硫ゴムの分解と再資源化] 2021年, [月間アグリバイオ] 臨時増刊号, 第5巻, 8号
- ・[キノコの機能を応用した加硫ゴム再資源化技術の開発に向けて] 2021年 [月間JETI], 2020年, 第68巻, 11号

【特許】

- ・軟化ゴムの製造方法2(特願2022-39379) 佐藤伸
- ・軟化ゴムの製造方法(特願2021-163025) 佐藤伸
- ・ゴムの分離方法(特願2021-001125) 佐藤伸, 濱田賢作
- ・コム組成物およびその製造方法, ならびに該コム組成物を用いた空気入りタイヤ(特願2004-311254, 平成16年10月26日) 佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁
- ・リグニン分解酵素によって分解処理された酵素分解コムを有するコム組成物およびその製造方法, ならびにこれを用いた空気入りタイヤ(特願2004-044231 平成16年2月20日) 佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁
- ・木材腐朽菌による加硫コム組成物の分解処理法(特願2002-2631128, 平成14年9月9日) 佐藤伸, 渡辺隆司, 岸本浩通, 八木則子, 村岡清繁

【招待講演】

- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化] 日本ゴム協会関西支部 講演会 2023年9月
- ・[キノコをつかったゴムの再資源化] アドバンテックセミナー 2023 ゴム・高分子とSDGs(オンライン) 2023年2月
- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化] 産業技術連携会議「ナノテクノロジー・材料部会」第60回高分子分科会(オンライン) 2022年11月
- ・[コム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化] 日本ゴム協会 第60回新世代エラストマー技術研究分科会2022年3月

【研究発表】

- ・[木材腐朽菌Trichaptum種による加硫天然ゴムシートの劣化分解は炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する] 環境バイオテクノロジー学会(東京) 2022年11月
- ・[Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi. Trichaptum abietinum and Trichaptum biforme] ISBP2022 (Sion, Switzerland) 2022年9月
- ・[Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi] RubberCon2022 (Kuala Lumpur, Malaysia) 2022年9月
- ・[天然ゴムシートの劣化分解は木材腐朽菌Trichaptum種による炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する] 日本きのこ学会年次大会(宇都宮) 2022年9月
- ・[X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫ゴム分解挙動の微細構造解析] 日本ゴム協会年次大会(東京・オンライン) 2022年5月
- ・[X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫ゴム分解過程の微細構造解析] 日本きのこ学会年次大会(鳥取・オンライン) 2022年3月
- ・[Evaluation of microbial behavior by wood rotting fungi for recycle of rubber wastes] Rubbercon2020 (Paris, France) 2021年2月

【科学研究費補助金】

- ・JSPS 2023年度基盤研究(C)「コム分解キノコの物性低下因子の特定とそれを用いたゴムの再資源化」(2023~2025)
- ・JSPS 2020年度基盤研究(C)「木材腐朽菌シロカイメンタケによるゴムの再資源化」(2020~2022)
- ・JST A-STEP 機能検証フェーズ「コム分解菌処理によるコム再生プロセスの省力化」(2019~2020)

■社会貢献活動

【中・高等学校出前講義】

- ・[キノコをつかったゴムの再資源化](米子北高校・オンライン) 2022年12月
- ・[キノコをつかったゴムの再資源化](丹後緑園高校・オンライン) 2022年6月
- ・[キノコをつかったゴムのリサイクル] 夢ナビライブ 2022年5月
- ・[キノコをつかったゴムのリサイクル] 夢ナビライブ 2021年5月
- ・[コムを再資源化するキノコ?!] 夢ナビライブ 2020年9月

【鳥取環境大学公開講座】

- ・[キノコをつかったゴムの再資源化] 2022年7月
- ・[食べるだけがきのこじゃない! ?きのこのちからでコムをリサイクル] 2018年5月
- ・[木を分解する菌類のお話] 2013年10月

研究キーワード

土壌侵食, 土壌劣化, 物質循環, 集水域, 地理情報システム



角野 貴信

准教授

KADONO, Atsunobu

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://sites.google.com/site/kadonoslab/>

URL <http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g007308>

✉ kadono@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 基礎土壌学, 環境土壌学, 水環境学

■研究者略歴

2000 (平成12) 年 3月	京都大学農学部生産環境科学科卒業
2006 (平成18) 年 4月	地球環境学研究所リサーチアシスタント
2008 (平成20) 年 3月	京都大学農学研究科博士後期課程修了, 博士 (農学)
2008 (平成20) 年 4月	日本原子力研究開発機構博士研究員
2009 (平成21) 年 1月	首都大学東京都市環境科学研究所研究科助教
2010 (平成22) 年 8月	米国オハイオ州立大学博士研究員
2011 (平成23) 年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター講師
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科准教授

Research

■取得学位 博士 (農学) (京都大学)

■専門分野 土壌学, 生物地球化学

■現在の研究テーマ ・河川堆積物及び懸濁物のアノマリーデータから予想される流域内土砂流出量の期待値分布
- 千代川流域における流域土壌から水系への物質移動過程に関する研究
・有機質資材を用いた土壌有機物の蓄積及び分解過程の解明とそのモデル化
- 水田土壌からの温室効果ガス (二酸化炭素・メタン・亜酸化窒素) 放出に関する研究
- 浸透過程における有機物-粘土鉱物間の吸着メカニズムに関する研究

■受賞歴 2009 (平成21) 年4月 日本ペドロジー学会論文賞
2017 (平成29) 年3月 日本ペドロジー学会論文賞

■所属学会 日本土壌肥料学会, 日本ペドロジー学会, 日本地理学会, 日本水環境学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・持続可能な社会における土壌資源管理とその指標化 (共著 (06章を単著)) 「SDGsを考える」ナカニシヤ出版, pp. 99-111. 2020
- ・10.4 土壌劣化と砂漠化 (共著 (10.4節を単著)) 「改訂 土壌学概論」朝倉書店, pp. 167-173. 2020
- ・03土の黒さから考える自然資源の保全と利用の適切なバランス (共著 (03章を単著)) 公立鳥取環境大学環境学部「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」今井出版, pp. 28-34. 2019
- ・4-4 チェルノゼムにおけるコムギ栽培と土壌有機物分解 (共著 (4-4節を単著)) 日本土壌肥料学会「土のひみつ」編集グループ (編) 「土のひみつ」朝倉書店, pp. 96-99. 2015
- ・10.4.2 Soil organic carbon change. (共著) Status of the World's Soil Resources, FAO, pp. 299-300. 2015
- ・Could Soil Acidity Enhance Sequestration of Organic Carbon in Soils? (共著) A.E. Hartemink and K. McSweeney (Eds) Soil Carbon, Springer International Publishing, pp. 209-216. 2014

【論文・報告】

- ・有機質資材連用年数が水稻による窒素吸収量及び水田土壌中の窒素含量に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 9, 11-16. 2022
- ・有機質資材の投入が酒造好適米の生産環境に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 8, 22-26. 2021
- ・不撓乱環境下における土壌有機物代謝過程の分子動力学的解析 (共著) 地域イノベーション研究 5, 19-23. 2018
- ・ミネラルウォーターのおいしさに係る簡単な水質指標の導出 (共著) 鳥取環境大学紀要 15, 103-108. 2017
- ・Ecological state of soil and land resources of the Russian Far East (共著) The Territory of New Opportunities 4, 166-175. 2016
- ・中国内モンゴル自治区フルンボイル草原において観光行動が草原退化に及ぼす影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 52-62. 2015
- ・中国内モンゴル自治区の牧畜業において土地利用様式の違いが植生及び土壌に与える影響 (共著) ペドロジスト 59 (2), 41-51. 2015
- ・In situ short-term dynamics of CO2 flux and microbial biomass after simulated rainfall in dry croplands in four tropical and continental ecosystems (共著) Soil Science and Plant Nutrition 61, 392-403. 2015
- ・Long-term tillage and drainage influences on greenhouse gas fluxes from a poorly drained soil of central Ohio (共著) Journal of Soil and Water Conservation 69 (6), 553-563. 2014
- ・Effects of climatic and soil properties on cellulose decomposition rates in temperate and tropical forests (共著) Biology and fertility of soils 50 (4), 633-643. 2014

【国際会議】

- ・The effect of bamboo powder application on the yield of Japanese white radish (*Rhaphanus sativus* L.) and soil properties. (共同) The 21st World Congress of Soil Sciences, Rio de Janeiro, Brazil, 2018
- ・Environmental studies for the sustainable development during the international decade of soils 2015-2025 (単独) International Symposium "Entrepreneurship as a Factor of Dynamic Development of the Russian Far East", Vladivostok, Russia, 2016
- ・Modeling of Greenhouse Gas Emission from Soils under Different Ecosystem (単独) International Symposium "Ecological Challenges of Nature Management and Environmental Protection in the Asia-Pacific Region", Vladivostok, Russia, 2015
- ・Modeling of Carbon Dioxide Emission from Cornfield Soils under Different Water Table and Tillage Management in Central Ohio, USA (共同) 20th World Congress of Soil Science, Jeju, Korea, 2014
- ・Grassland degradation caused by tourism activities in Hulunbuir, Inner Mongolia, China (共同) IOP Conference Series: Earth and Environmental Science 18 (1), 012137. 8th International Symposium of the Digital Earth (ISDE8), Kuching, Sarawak, Malaysia, 2013

■社会貢献活動

- ・『山』と『海』がつながっていることを調べよう! 「とっとり名産探し隊〜つながる山と海! 海を支える恵みの正体を追え〜」(2022年8月)
- ・土は生きています! 土の中のいろんな生き物を観察してみよう 「山陰海岸ジオパーク科学実験教室」(2018年7月)
- ・地域の自然資源を循環させて, 環境をまもる土づくり 「公立鳥取環境大学公開講座」(2021年6月)
- ・おどろきの土の生きものたち 「2021年度第2回山陰海岸ジオパークサイエンスカフェ」(2021年10月)
- ・鳥取県環境影響評価審査委員会 (2012年4月~ 2019年3月)
- ・鳥取市こども科学館運営委員会委員 (2015年4月~ 2020年3月)
- ・日本土壌肥料学会土壌教育委員 (2022年4月~現在)



研究キーワード

衛星画像, 画像処理, 機械学習, 沿岸生態系, 浅海域海底地形

佐川 龍之

准教授

SAGAWA, Tatsuyuki

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻<https://sagawalab.wixsite.com/remotesensing>

Profile

■主な担当科目

地球観測学, 環境情報学概論, AI, AI実践演習, 情報リテラシ2, リモートセンシング特論

■研究者略歴

2003 (平成15) 年 3月	早稲田大学理工学部土木工学科卒業
2005 (平成17) 年 9月	東京大学大学院修士課程新領域創成科学研究科環境学専攻修了
2006 (平成18) 年 4月	日本学術振興会特別研究員 (～2009年3月)
2008 (平成20) 年 9月	東京大学大学院博士課程新領域創成科学研究科自然環境学専攻修了, 環境学博士
2009 (平成21) 年 4月	セコム株式会社S研究所研究員 (～2012年1月)
2012 (平成24) 年 2月	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部研究員
2015 (平成27) 年 7月	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部主任研究員
2019 (平成31) 年 4月	早稲田大学理工学術院非常勤講師 (～2023年9月)
2019 (平成31) 年 4月	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター主任研究開発員
2021 (令和 3) 年 7月	一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部主任研究員 (～2022年3月)
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

Research

■取得学位

環境学博士 (東京大学)

■専門分野

リモートセンシング, 人工知能, 画像処理, 環境学

■現在の研究テーマ

- 衛星画像を用いた浅海域海底地形推定技術に関する研究
- 沿岸環境のモニタリングに関する研究
- リモートセンシングデータの農業分野への活用に関する研究
- リモートセンシングによる水環境モニタリング

■受賞歴

2018 (平成30) 年3月 内閣府主催第3回宇宙開発利用大賞 環境大臣賞
2024 (令和 6) 年3月 一般財団法人日本水路協会 令和5年度水路技術奨励賞

■所属学会

日本リモートセンシング学会, 日本写真測量学会, 日仏海洋学会

■資格

測量士, 潜水士

Data

■研究等活動

【著書】

- 「リモートセンシング事典」(共著), 2022年, 丸善出版.
- 「Sustainable Development - Education, Business and Management - Architecture and Building Construction - Agriculture and Food Security」(共著), 2012年, IntechOpen.

【論文】

- 「多時期の衛星画像と機械学習を用いた浅海域の水深推定技術の高度化」(単著), 2024年, 水路, Vol. 53, No. 2, pp. 18-23.
- 「Bathymetry from PlanetScope imagery using random forest and deep learning」(共著), 2023年, Proceedings of the 2023 Asian Conference on Remote Sensing, ACRS2023097.
- 「衛星画像を用いた浅海域の海底地形推定技術 (SDB) ～機械学習と多数の衛星画像を活用した技術の高度化～」, 2023年, 水路, Vol. 52, No. 1, pp. 11-16.
- 「Mapping aquaculture rafts from a GeoEye-1 image using U-Net」(共著), 2022年, Proceedings of the 2022 Asian Conference on Remote Sensing, ACRS22_37.
- 「Monitoring trophic status using in situ data and Sentinel-2 MSI algorithm: lesson from Lake Malombe, Malawi」(共著), 2022年, Environmental science and pollution research, Nov. 2022, pp. 1-18.
- 「耕作地におけるSGLIとMODIS地表面温度プロダクトの相互利用の検討」(共著), 2021年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 41, No. 5, pp.603-610.
- 「Practical mapping methods of seagrass beds by satellite remote sensing and ground truthing」(共著), 2020年, Coastal marine science, Vol. 43 No. 1, pp. 1-25
- 「WorldView衛星画像を用いた浅海域における汎用水深推定式に関する研究」(共著), 2019年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 39, No. 2, pp.112-122.
- 「Satellite derived bathymetry using machine learning and multi-temporal satellite images」(共著), 2019年, Remote Sensing, Vol. 11, No. 1155, pp. 1-19.

【報告書】

- 「衛星画像推定水深を活用した海洋情報業務の展望」(共著), 2017年, 海洋情報部研究報告, Vol. 54, pp. 17-31.

【特許】

- 「画像処理装置」(共著), 2015年, 登録番号: 第5715863号, 内容: 動画からの移動物体抽出に関する装置.

■社会貢献活動

- 文部科学省科学技術 学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員 (2017.4～2025.3)
- UNESCO IOC (政府間海洋学委員会) /WESTPAC (西部太平洋地域委員会) におけるORSP (海洋リモートセンシング・プログラム) の運営委員会 (steering committee) のリーダー (2023.5～現在)
- 環境省令和5年度瀬戸内海漁場・干潟調査業務 ワーキンググループ委員 (2023.4～2024.3)
- 環境省令和6年度有明海干潟等調査業務 ワーキンググループ委員 (2024.4～2025.3)
- 富山湾プロジェクト調査研究委員会ワーキンググループ委員 (2024.4～現在)

研究キーワード

サンゴ, 化石, 進化, 骨格微細構造, 機能形態, 古環境復元



徳田 悠希

准教授

TOKUDA, Yuki

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

主な担当科目

地学概論, 環境地質学, 地学実験

研究者略歴

2006 (平成18) 年 3月	大阪市立大学理学部地球学科 卒業
2008 (平成20) 年 3月	大阪市立大学理学研究科前期博士課程 修了
2010 (平成22) 年 3月	大阪市立大学理学研究科後期博士課程 単位取得退学
2010 (平成22) 年 4月	鳥取県立博物館 学芸員
2012 (平成24) 年 4月	鳥取県立博物館 主任学芸員
2013 (平成25) 年 3月	学位取得 博士 (理学) (大阪市立大学)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
2016 (平成28) 年 6月	公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻 講師
2020 (令和 2) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科/環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

取得学位

博士(理学) (大阪市立大学)

専門分野

地質学 古生物学

現在の研究テーマ

- ・イサンゴ類の進化史の解明
- ・南西諸島海域における深海サンゴの多様性の解明
- ・山陰海岸に分布する海食洞の形成様式と洞内生物群集
- ・新生界から産出する無藻性イサンゴ化石の系統分類学的検討
- ・南極海の現生および化石サンゴ類の多様性と古海洋環境の解明

受賞歴

2009年1月	日本古生物学会	優秀ポスター賞
2009年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2012年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2017年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2018年9月	日本地質学会	優秀ポスター賞
2022年7月	日本古生物学会	論文賞

所属学会

日本古生物学会, 日本地球惑星科学連合, 日本サンゴ礁学会, 鳥取地学会

Data

研究等活動

【論文 (査読あり)】

- ・ Tokuda, Y., Yamada N., Endo H., Sentoku A., Ezaki Y., Hayashi H., Matsuura Y., and Kawano S. (in press) Azooxanthellate colonial corals from the Miocene Omori Formation, Shimane, Japan. Paleontological Research.
- ・ Tokuda, Y., Kawakita S., Sentoku A., Ezaki Y., Tanaka N., Nagasawa S., Nakaguchi K., Yamaguchi S., Kondo Y., and Ohtsuka S. (2024) Influence of sipunculan (peanut worm) activity on orifice formation in scleractinian *Heterocyathus* for adaptation to soft substrates. Scientific Reports, 14, 9817.
- ・ 鈴木克明・板木拓也・片山肇・兼子尚知・山崎誠・有元純・徳田悠希・千徳明日香・清家弘治 (2022) トカラ列島周辺海域の底質分布とその制御要因. 地質調査研究報告, vol. 74, p. 259-286.
- ・ 鈴木克明・板木拓也・片山肇・兼子尚知・山崎誠・徳田悠希・千徳明日香 (2022) 宝島及び諏訪之瀬島周辺海域の底質分布とその制御要因. 地質調査研究報告, vol. 73, p. 275-299
- ・ Ishiwa, T., Tokuda, Y., Sasaki, S., Itaki, T., Suganuma, Y., Katsuki, K., and Ikehara, M. (2022) Non-destructive analysis and lithological descriptions of sediment cores from Lake Nurume, Langhovde in Lützow-Holm Bay. Polar Data Journal, vol. 6, p. 80-89.
- ・ Yamasaki, H., Fujimoto, S., Tanaka, H., Shimada, D., Ito, M., Tokuda, Y., & Tsujimoto, M. (2022) Taxonomy, genetic diversity, and phylogeny of the Antarctic mud dragon, *Polacanthoderes* (Kinorhyncha: Echinorhagata: Echinoderidae). Zoologischer Anzeiger, vol. 301, p. 42-58.
- ・ Sasaki, S., Irizuki, T., Itaki, T., Tokuda, Y., Ishiwa, T. and Suganuma, Y. (2022) Relationship between modern deep-sea ostracods and water mass structure in East Antarctica. Paleontological Research, vol. 27, p. 211-230.
- ・ Sentoku, A., Shimizu, K., Naka, T., and Tokuda, Y. (2022) Dimorphic life cycle through transverse division in burrowing hard coral *Deltocyathoides orientalis*. Scientific Reports, 12, 9359.
- ・ Tamura, T., Ishiwa, T., Tokuda, Y., Itaki, T., Sasaki, S., Suganuma, Y. (2022) Luminescence characteristics of coastal sediments in Langhovde, East Antarctica. Quaternary Geochronology, vol. 70, 101298-101298.
- ・ Sentoku, A. and Tokuda, Y. (2021) New Records of Azooxanthellate Scleractinian Corals (Cnidaria: Anthozoa) from Sagami Bay and Suruga Bay, Japan. Zoological Science, vol. 39, p. 52-61.
- ・ Ishiwa, T., Tokuda, Y., Itaki, T., Sasaki, S., Suganuma, Y. and Yamasaki S. (2021) Bathymetry data and water column profiles in the shallow waters of Langhovde in Lützow-Holm Bay, East Antarctica. Polar Science, 100650.
- ・ Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2020) Microskeletal structures suggest taxonomic distinction between subgenera of azooxanthellate scleractinian *Flabellum*. Paleontological Research, vol. 24, p. 261-275.
- ・ 延原尊美・大高歩美・徳田悠希・池原 研 (2018) 東海沖深海底の貝類およびサンゴ遺骸のAMS¹⁴C年代. 静岡大学地球科学研究報告, 第45号, p. 17-22.
- ・ Sentoku, A., Tokuda, Y., Ezaki, Y. and Webb, G. E. (2018) Modes of regeneration and adaptation to soft-bottom substrates of the free-living solitary scleractinian *Deltocyathoides orientalis*. Lethaia, Vol. 51, p. 102-111.
- ・ Kitamura, A., Imai, T., Mitsui, Y., Ito, M., Miyairi, Y., Yokoyama, Y. and Tokuda, Y. (2017) Late Holocene uplift of the Izu Islands on the northern Zenisu ridge off Central Japan. Progress in Earth and Planetary Science, 4, 30.
- ・ Tokuda, Y., Haraguchi, H. and Ezaki, Y. (2017) First real-time observation of transverse division in azooxanthellate scleractinian corals. Scientific Reports, 7, 41762.
- ・ Shiino, Y. and Tokuda, Y. (2016) How does flow recruit epibionts onto brachiopod shells? Insights into reciprocal interactions within the symbiotic framework. Palaeoworld, vol. 25, p. 675-683.
- ・ Sentoku, A., Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2016) Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago. Scientific Reports, 6, 24355.
- ・ 和田年史・徳田悠希・一澤 圭 (2014) 鳥取県立博物館のダイオウイカ液浸展示標本. 鳥取県立博物館研究報告, 第51号, p. 67-71.
- ・ Tokuda, Y. and Ezaki Y. (2013) Attachment structures in *Rhizotrochus* (Scleractinia): Macro- to microscopic traits and their evolutionary significance. Lethaia, vol. 46, p. 232-244.
- ・ Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2012) Asexual reproduction of Pliocene solitary scleractinian coral *Truncatoflabellum*: Morphological and biometric study. Journal of Paleontology, vol. 86, p. 268-272.
- ・ 和田年史・徳田悠希・山口暁美 (2012) 「総合的な学習の時間」におけるジオパークと博物館の活用事例. 鳥取県立博物館研究報告, 第29号, p. 17-28.
- ・ Tokuda, Y., Ikeno, T., Goto, G. S., Numata, H. and Ezaki, Y. (2010) Influence of different substrates on the evolution of morphology and life-history traits of azooxanthellate solitary corals (Scleractinia: Flabellidae). Biological Journal of the Linnean Society, vol. 101, p. 184-192.

研究キーワード

グループ・ダイナミクス, エネルギーコミュニケーション, 環境コミュニケーション, 環境活動, 環境配慮行動, 地域活性化

甲田 紫乃

准教授

KODA, Shino

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻URL <http://jp.shinokoda.com/>Eメール s-koda@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目

環境政策論, 大気汚染防止, 環境アセスメント概論, 環境教育論, 衛生工学特論, SDG s 基礎, 麒麟の知

■研究者略歴

2007 (平成19) 年 3月	京都大学経済学部経済学科卒業
2009 (平成21) 年 3月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了
2012 (平成24) 年 9月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻博士課程修了
2012 (平成24) 年10月	オーストリア Johannes Kepler Universität Linz博士研究員
2016 (平成28) 年 4月	東京福祉大学国際交流センター特任講師
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学専攻准教授
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻准教授

■取得学位

博士 (エネルギー科学) (京都大学)

■専門分野

エネルギー科学, グループ・ダイナミクス, 社会心理学, エネルギーコミュニケーション

■現在の研究テーマ

- ・日常生活における環境配慮行動
- ・環境活動における環境志向型規範の伝達
- ・環境教育, エネルギー教育
- ・環境アート
- ・コミュニティにおける関係性とコミュニケーション
- ・地域活性化
- ・エネルギーコミュニケーション/環境コミュニケーション

■所属学会

日本グループ・ダイナミクス学会, The International Association of Applied Psychology, The Asian Association of Social Psychology, On Sustainability, Climate Change: Impacts & Responses, 日本質的心理学会, 土木学会, 日本環境教育学会

■資格

日本語教育能力検定試験合格

■研究等活動

【著書】

- ・「地域の未来を変える空き家活用—鹿野のまちづくり20年の挑戦」(分担執筆), 2021年, ナカニシヤ出版
- ・「SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会—」(共編著), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(分担執筆), 2019年, 今井出版
- ・「21世紀国際社会を考える—多層的な世界を読み解く38章—」(分担執筆), 2017年, 旬報社

【論文 (すべて単著, 査読有)】

- ・Koda, S. (2016). Horizontal Relationship and Environmental Communication: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria. The International Journal of Environmental Sustainability, Volume 12, Issue 2, pp.17-31.
- ・甲田紫乃. 「コンビニエンスストアにおける資源浪費の構造—参与観察に基づく短報—」, 2012年, 集団力学, 第 29 巻, pp. 87-103.
- ・Koda, S. (2012). Theoretical Approach to the Collaborative Environmental Activities: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life. International Journal of Humanities and Social Science, vol.2, No.6, pp.104-110.
- ・Koda, S. (2012). Towards Environmentally Friendly Management at "Konbini": Case Study at a Convenience Store in Japan. Journal of Alternative Perspectives in the Social Sciences, vol.3, No.4, pp. 946-957.
- ・Koda, S. (2012). The Motivation for Proenvironmental Behavior: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life: Case Studies in Finland. Journal of Educational and Social Research, vol.2, No.1, pp. 191-198.

【研究発表の抜粋 (すべて単独, 査読有)】

- ・Koda, S. (2021). Forest Environmental Education Contributing to Community Revitalization: A Collaborative Practice Towards the SDGs Based on An Activity Theoretical Approach, Going Green EcoDesign 2021, December 1-3, 2021, Tokyo, Japan, 3
- ・Persuading People to Become Greener Through Collaborative Activities, Going Green CARE INNOVATION 2018, Vienna, Austria, 2018
- ・Horizontal Relationship for A Better Environmental Activity: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria. The Second Biennial International Convention of Psychological Science (ICPS), Vienna, Austria, 2017
- ・The "Tree" as a Driving Force for Environmental Education, The Eleventh International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Copenhagen, Denmark, 2015
- ・Creating a Collective Stream towards an Environmentally Friendly Daily Life, The Sixth International Conference on Climate Change: Impacts and Responses, Reykjavik, Iceland, 2014
- ・Building Sustainable Communities as Part of Revitalization: An Austrian Way Based on Robust and Mutual Relationship between SPES and Local Residents, The Tenth International Conference on Environmental, Cultural, Economic & Social Sustainability, Split, Croatia, 2014

■社会貢献活動

【委員など】

- ・鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会委員 (2023～)
- ・湯梨浜町SDGs・脱炭素社会推進会議オブザーバー (2023)
- ・鳥取市都市整備部指定管理者選考委員会委員 (2021～)
- ・鳥取県地球温暖化防止活動推進センター チームゼロ・カーボン会議 委員 (2020)
- ・鳥取市 連携中枢都市圏ビジョン懇談会委員 (2018～)

【研究関連活動】

- ・The On Sustainability Research Network (イリノイ大学) Advisory Board Member (2019～)
- ・竹イノベーション研究会 メンバー (2019～)
- ・環境教育ネットワークGNO (ENO Environment Online - A Global Virtual School and Network for Sustainable Development) 日本/オーストリア・ナショナル・コーディネーター (2013～)

【地域の方々に向けた活動】

- ・「SDGs的発信」, 2022, 鳥取県立米子高等学校の生徒会主催による招待講演 (鳥取県立米子高等学校)
- ・「わたしたちの生活から考えるSDGs—持続可能な未来へ向けてのアクション」, 2021, 八頭町男女共同参画センター「かがやき」
- ・「KANラジ第2回テーマ「SDGsを考える」 歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会とは?」, 2020, KANラジ出演 (FM鳥取)
- ・「鳥取から考えるSDGs」, 2020, 鳥取市立桜ヶ丘中学校の総合学習 (さくらほる課s) における講演 (鳥取市桜ヶ丘中学校)
- ・「環境コミュニケーション」, 2020, 「公立鳥取環境大学 未来への授業」 (鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局)
- ・「SLCPs」, 2019, 「公立鳥取環境大学 未来への授業」 (鳥取県民チャンネルコンテンツ協議会事務局)
- ・「地球温暖化とエネルギーについて」, 2019, とっとりエコサポーターズ養成講座 (鳥取県地球温暖化防止活動推進センター)

Research

Data

研究キーワード

気象観測, 雲海予測, ヒートアイランド現象, 熱中症

重田 祥範

准教授

SHIGETA, Yoshinori

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

shigeta@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 気象学概論, 大気環境学, 地球システム学

■ 研究者略歴

- | | |
|------------------|-----------------------------------|
| 2011 (平成23) 年 3月 | 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程 修了 |
| 2011 (平成23) 年 4月 | 立正大学地球環境科学部環境システム学科 助教 (～2015年3月) |
| 2015 (平成27) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師 (～2017年3月) |
| 2017 (平成29) 年 4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授 |
| 2017 (平成29) 年 4月 | 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授 |

Research

■ 取得学位 博士 (理学) (岡山大学)

■ 専門分野 局地気象学, 生気象学, 環境工学, 地学教育

■ 現在の研究テーマ

- ・都市内の大気環境調査および熱中症リスクの評価
- ・盆地霧の発生・消滅過程の予測
- ・気象の「見える化」と自然災害軽減に向けた気象情報の活用法
- ・暑熱ストレスによる動物行動の変化 (バイオロギング)
- ・ストレスモニタリングによるセラピー効果の検証
- ・気象変化が若年女性の自律神経活動に与える影響

■ 受賞歴

- 2014 (平成26) 年 7月 第9回全国大会ベストポスター賞 (日本ヒートアイランド学会)
- 2015 (平成27) 年 11月 平成27年度 日本生気象学会研究奨励賞 (日本生気象学会)

■ 所属学会

日本気象学会, 日本生気象学会, 日本農業気象学会, 日本地理学会, 日本地学教育学会, 日本建築学会, 日本ヒートアイランド学会, 日本風工学会, 土木学会, 大気環境学会, 環境情報科学センター, バイオクリマ研究会

■ 資格

中学校教諭専修免許状 (理科), 高等学校教諭専修免許状 (理科), 健康気象アドバイザー

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」, (共著), 2019年, 今井出版, 36-45.
- ・「環境のサイエンスを学ぼうー正しい実験・実習を行うためにー」, (共著), 2016年, 丸善プラネット出版.
- ・「環境のサイエンスを学ぼうー人と地球の未来のためにー」, (共著), 2011年, 丸善プラネット出版.

【論文 (2024年: 査読あり)】

- ・京都府北部で発生する局地風「由良川あらし」の観測ー強風の発達と水平気圧傾度の関係性ー (共著), 2024年, 日本風工学会, 風工学研究論文集 28 85-91.
- ・Multisite Observations of Ultraviolet in Kobe City, Hyogo PrefectureーRelationships between Ultraviolet Intensity and Land Cover Morphologyー (単著), 2024年, Papers on Environmental Information Science 38 203-208.

【国際会議】

- ・「Impact on crops due to high temperature in Toyooka City, Hyogo Prefecture」 (単著), 2021, International Symposium on Agricultural Meteorology 2021 (Online conference)
- ・「Ground inversion layer that occurs in Hoki Daisen」 (単著), 2021, International Symposium on Agricultural Meteorology 2021 (Online conference)
- ・「Radiation fogs extinction process estimated from illuminance change」 (単著), 2020, International Symposium on Agricultural Meteorology 2020 (Osaka, Japan)
- ・「The Thermal Environment of the Hanshin Area Brought by Thermal Local Circulation of the Rokko Mountains」 (共著), 2019, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 16th Annual Meeting (Republic of Singapore).
- ・「Verification of Thermal Environments and Temperature Reduction Effects in the Kumamoto Castle Park Using WBGT」 (共著), 2019, Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 16th Annual Meeting (Republic of Singapore).
- ・「Hot Environments and Temperature Reduction Effects within Large Urban Green SpacesーMeteorological Observations Around the Kumamoto Castle Parkー」 (共著), 2019, International Symposium on Agricultural Meteorology (Shizuoka, Japan)

【招待講演】

- ・「気象と環境変化が自律神経バランスに与える影響」, 日本建築学会, AIJ シンポジウム「スマートウェルネスオフィスの未来」, 2021年.
- ・「雲海予報は観光振興の呼び水になるのか!?ー霧の発生メカニズムを探るー」, 2019年度鳥取地学会年末講演会 (鳥取).
- ・「気象災害軽減に向けた防災情報の活用法」2019年度鳥取市防災リーダーフォローアップ研修 (鳥取).
- ・「IoT技術の進展がもたらす気象観測データの有用性」2019年度 IHIグループ 明星電気ビジネスパートナーミーティング (東京).

【国内学会: 筆頭講演者】

- ・「中国地方における花粉飛散量と気象要素の関係性」 (共著), 2020, 2020年度日本農業気象学会中国四国支部大会 (オンライン大会).
- ・「宇都宮市で発生するヒートアイランドと土地被覆形態の関係」 (共著), 2020, 2020年日本地理学会秋季学術大会 (オンライン大会).
- ・「風の乱れが引き起こす発電損失ー理論値と実測値の差ー」 (共著), 2020, 日本風工学会, 第26回風工学シンポジウム (オンライン大会).
- ・「岡山県津山盆地における湿度変化と照度の関係性ー地上観測から推定する霧の消滅過程ー」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年秋季大会 (オンライン大会).
- ・「大分県日田盆地で発生する放射霧の動態ータイムラプスカメラによる霧の定点観測ー」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年秋季大会 (オンライン大会).
- ・「急激な気象変化が若年女性の自律神経バランスに与える影響」 (共著), 2020, 日本気象学会2020年春季大会 (神奈川).
- ・「照度と湿度変化から推定される放射霧の消滅過程ー岡山県津山盆地を例としてー」 (単著), 2020, 日本気象学会2020年春季大会 (神奈川).

■ 社会貢献活動

- ・日本ヒートアイランド学会, 学術委員会 委員 (2023年6月～)
- ・日本ヒートアイランド学会, 学会誌委員 幹事 (2023年6月～)
- ・日本生気象学会 理事 (2023年4月～)
- ・日本生気象学会, 広報委員会 (2023年6月～)
- ・松江市廃棄物処理施設設置検討専門委員会, 委員 (鳥取県松江市) (2023年5月～)
- ・鳥取砂丘未来会議 委員 (2022年6月～)



研究キーワード

ナレッジマネジメント, 有機農業, GIAHS, 地域資源管理, 在来品種

山口 創

准教授

YAMAGUCHI, So

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ so-yama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 農村の持続的発展, 都市の持続的発展

■ 研究者略歴

2007 (平成19) 年 3月	神戸大学農学部食料生産環境工学科 卒業
2010 (平成22) 年 3月	神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程前期課程修了
2011 (平成23) 年 4月	日本学術振興会特別研究員 (DC2) (~2013年3月)
2013 (平成25) 年 3月	神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程後期課程修了 博士 (農学)
2013 (平成25) 年 4月	神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター 特命助教
2017 (平成29) 年10月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 講師
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

Research

■ 取得学位 博士 (農学) (神戸大学)

■ 専門分野 農村計画学, ナレッジマネジメント, 農業経営学

■ 現在の研究テーマ

- ・ 農業・農村におけるナレッジマネジメント理論の構築に関する研究
- ・ 伝統的農業システムの動的保全に関する研究
- ・ 中山間地域の農業経営におけるカーボンクレジット導入モデルの検討

■ 所属学会 農村計画学会, 地域農林経済学会, 日本農業経済学会, 環境情報科学センター, 日本農業経営学会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・ 山口創 (2018) 在来品種の特産化プロセスと活用に向けた方策—丹波黒, 薦池大納言を事例に一, pp.83-93, 地域固有性の発現による農業・農村の創造 (中塚雅也編著), 筑波書房.
- ・ 山口創 (2016) 黒大豆栽培における知恵の継承と創造, pp74-87, エシカルな農業(伊藤一幸編著), 誠文堂新光社.

【論文】

- ・ 山口創・高田晋史・和佐大地・尾山郁人 (2024) 伝統的農業システムにおける農法の変化に関する研究, 農林業問題研究, 60 (4), 150-158.
- ・ 橋本佳奈・山口創 (2023) 消費者の農業や農作物に対する関心とCSA加入意向に関する研究, 環境情報科学論文集, 37, 98-103.
- ・ 陣内綾・山口創 (2021) 大山頂上の自然保全活動における人材確保の実態と課題に関する一考察, 環境情報科学学術研究論文集, 35, 292-297.
- ・ 山口創 (2021) 農村地域の文化的知識の継承活動における動機づけに関する研究—鳥取県鳥取市S地区における民話の継承活動に着目して—, 農業経済研究93 (1), pp.77-82.
- ・ 山口創 (2020) テキストマイニングの特徴と農村計画研究への導入, 農村計画学会誌39 (3), pp.294-297.
- ・ 山口創 (2017) 住民主体の自然資源の保全活動における知識管理の実態と関係主体の役割—あびき湿原の保全活動を事例として—, 環境情報科学学術研究論文集31, pp71-76.
- ・ 山口創 (2016) 農場実習における大学生の知識習得・意識変化に影響する要因の分析, 農業経済研究, 88(3), pp. 345-349.
- ・ 山口創・吉田康子 (2016) テキストマイニングを用いた農場実習における大学生の学習内容の把握, 環境情報科学論文集 30, pp. 243-248.
- ・ 山口創 (2016) 教育関係共同利用拠点制度における大学農場の農業実習教育の展開と課題, 農林業問題研究, 52, pp. 205-210.
- ・ 山口創 (2015) 在来品種の顕在化プロセスと展開課題, 環境情報科学論文集29, pp.83-88.

■ 社会貢献活動

- ・ 第49.50回JA鳥取県大会審議委員会委員, 新温泉町総合計画審議会アドバイザー, 鳥取県都市計画審議会委員, 市川町笠形地域づくり協議会 ナレッジマネジメント支援



研究キーワード

野生動物, 共存, 種内変異, 社会化の過程, 社会性の進化

谷口 晴香

TANIGUCHI, Haruka

講師

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

Profile

■ 主な担当科目 動物行動学, 保全生物学, 生物学概論

■ 研究者略歴

- | | |
|----------------|---|
| 2016年(平成28年)3月 | 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士課程修了 |
| 2017年(平成29年)8月 | 琉球大学 国際地域創造学部 ポスドク研究員 (~2018年(平成30年)7月) |
| 2020年(令和 2年)4月 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究機関研究員 |
| 2024年(令和 6年)4月 | 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師 |
| 2025年(令和 7年)4月 | 公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 講師 |

Research

■ 取得学位 博士(理学)(京都大学)

■ 専門分野 霊長類学, 動物行動学, 生態人類学

■ 現在の研究テーマ

- ・環境がニホンザルのアカンボウの社会関係の発達に与える影響
- ・環境がニホンザルの育児体系に与える影響
- ・人間活動を含めた環境が野生動物の社会に与える影響

■ 所属学会 日本霊長類学会, 生態人類学会, 屋久島学ソサエティ

Data

■ 研究等活動

【著書】

・『フィールドにみえた<社会性>のゆらぎ: 霊長類学と人類学の出会いから』(共編著), 2025年, 京都大学学術出版会

【論文】

- ・「ニホンザルのアカンボウの集まり: 地域間比較の試み」, 2025年, 『社会性の起原と進化 始論: 種と性を越えた比較研究のために』, 京都大学学術出版会
- ・「ニホンザル研究セミナーの開催と今後の展開—2022年度と2023年度のアンケート調査から—」(共著), 2024年, 『霊長類研究』40号
- ・「ヤクシマザルの離乳期のアカンボウの伴食行動: アカンボウの集まりに着目して」, 2022年, 『生態人類学会ニュースレター』28号
- ・「Wound healing in wild male baboons: Estimating healing time from wound size」(共著), 2018年, 『PLOS ONE』vol. 13
- ・「How the physical properties of food influence its selection by infant Japanese macaques inhabiting a snow-covered area」, 2015年, 『American Journal of Primatology』vol. 77
- ・「ニホンザルのアカンボウの集まりについていき, 彼らの『普通』を体感する」, 2015年, 『動物と出会うII: 心と社会の生成』, ナカニシヤ出版

【報告書・その他】

- ・「フィールドノートを落としたとき: 探すか, 見捨てるか, それが問題だ」, 2025年, 『ザ・フィールドワーク: 129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』, 京都大学学術出版会
- ・「2022年度フィールドネット・ラウンジ企画 フィールドワークってなんだ?: 異分野方法論談議(霊長類学・言語学・歴史学・人類学)」, 2023年, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, URL: https://fieldnet-aa.jp/lounge/assets/20230109_Fieldnet_lounge_Report.pdf
- ・「野生ニホンザルの離乳期の子育て」, 2020年, 『ヒトを見るようにサルを見る』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, URL: https://sociality.aa-ken.jp/data/wp-content/uploads/2020/11/Report_on_colloquium_2020.pdf

■ 社会貢献活動

- ・ニホンザル研究セミナーの企画・運営 (2022・2023・2025年度)
- ・一般公開セミナーの企画「フィールドワークってなんだ?: 異分野方法論談議(霊長類学・言語学・歴史学・人類学)」(2023年1月9日開催)



研究キーワード

財務理論, 企業価値評価, 事業承継, ケースメソッド

吉田 高文

YOSHIDA, Takafumi

経営学部長, 環境経営研究科長, 環境経営研究科経営学専攻長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

✉ ta-yoshi@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 ファイナンス入門, コーポレート・ファイナンス

■ 研究者略歴

1982 (昭和57) 年 3月	名古屋大学経済学部経営学科卒業
1985 (昭和60) 年 3月	名古屋大学大学院経済学研究科前期課程修了, 経営学専攻
1988 (昭和63) 年 3月	名古屋大学大学院経済学研究科後期課程単位取得満期退学, 経営学専攻
1988 (昭和63) 年 4月	長崎大学経済学部講師
1993 (平成 5) 年12月	長崎大学経済学部助教授
2009 (平成21) 年 4月	国立大学法人長崎大学経済学部教授
2016 (平成28) 年 4月	国立大学法人長崎大学名誉教授
2017 (平成29) 年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2018 (平成30) 年 4月～	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2022 (令和 4) 年 4月～	公立鳥取環境大学経営学部長 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科長 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻長

Research

■ 取得学位 経済学修士 (名古屋大学)

■ 専門分野 経営財務論, 企業経済論

■ 現在の研究テーマ
・ 財務均衡理論の研究
ノーベル経済学賞を受賞したM.H.Miller教授やE.Fama教授らによって展開された財務理論の均衡モデルを研究している。
・ 日本の中小企業の事業承継
日本の中小企業の事業承継に関わる諸課題や企業評価のあり方について研究している。
・ ケースメソッド教育の研究
経営事例を用いたケースメソッド教育の研究やケースの開発を行っている。

■ 受賞歴 1998 (平成10) 年8月九州郵政局長賞 (九州郵政局)

■ 所属学会 日本経営学会, 日本経営財務研究学会, 日本マネジメント学会, 九州経済学会, 日本戦略MG教育学会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・ 『現代経営学－経営学研究の新潮流－』 (共著, 櫻井克彦編), 2006年, 税務経理協会
- ・ 『企業財務制度の構造と変容』 (共著, 牟田正人・池上恭子編), 2006年, 九州大学出版会

【論文】

- ・ 「経営決定における「市場価値ルール」と「サイド・ペイメント」」, 2021年日本戦略MG教育学会『戦略MG教育研究』第2号
- ・ 「中小企業の事業承継問題と企業評価」, 2013年, 日本経営学会編『経営学論集第83集新しい資本主義と企業経営』千倉書房
- ・ 「戦略的CSR構想の矛盾」 (共著), 2009年, 日本経営学会編『経営学論集第79集日本企業のイノベーション』千倉書房

【学会報告】

- ・ 「外食産業の原料国産化－リンガーハットの事例」, 2019年, 日本マネジメント学会中国・九州部会
- ・ 「中小企業の企業価値評価」, 2015年, 日本産業経済学会第65回研究部会
- ・ 「中小企業の事業承継における財務的課題」, 2012年, 日本経営学会九州部会例会

■ 社会貢献活動

- ・ 八頭町総合戦略検証委員会委員長, 平成29年度～現在
- ・ 鳥取県指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会委員, 平成29年度～令和4年度
- ・ 鳥取市総合企画委員会委員, 令和4年度～現在
- ・ 鳥取市中小企業・小規模企業振興会議委員, 令和4年度～現在

経営学
部



研究キーワード

マーケティング, 企業の社会的責任, 社会的正義, コーズ・リレーテッド・マーケティング

竹内 由佳

経営学部副学部長
准教授

TAKEUCHI, Yuka

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

経営学部

Profile

■主な担当科目 流通論, マーケティング I

■研究者略歴

2007 (平成19) 年 3月	広島大学法学部法学科卒業
2010 (平成22) 年 3月	神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了
2013 (平成25) 年 4月	高松大学経営学部 助教
2017 (平成29) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部 講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 講師
2018 (平成30) 年 9月	神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得, 博士 (商学)
2021 (令和 3) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部/大学院環境経営研究科経営学専攻 准教授
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部 副学部長

Research

■取得学位 博士(商学) (神戸大学)

■専門分野 流通論, マーケティング論, 消費者行動論

■現在の研究テーマ
・社会的正義の達成とマーケティングの両立に関する研究
・コース・リレーテッド・マーケティングに関わる消費者像に関する研究

■所属学会 日本商業学会, 大学教育学会, 日本リメディアル教育学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・『社会を変えるマーケティング』, 千倉書房, 2020年
- ・『SDGsとマーケティング』, 高井亨, 甲田紫乃編著『SDGsを考える——歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』, ナカニシヤ出版, 2020年
- ・『第5章 マーケティング』, 倉持裕彌, 磯野誠, 川崎紘宗, 俞成華編著『地方創生のための経営学入門』, 今井出版, 2019年

【論文】

- ・『農業従事者と地域事業者とのマーケティングによる価値共創—「鳥取」というブランドづくりを目指して—』, 2022地域イノベーション研究センター事業報告書
- ・『プロジェクト・ヘルシュによる鳥取県の農産物マーケティング支援—食のみやこ鳥取づくり連携支援に基づく地域事業者との価値創世—』, 2021地域イノベーション研究センター事業報告書
- ・『広がれ!! プロジェクト・ヘルシュ!!—食のみやこ鳥取作り連携支援計画に基づく地域事業者支援の基盤構築—』, 2020地域イノベーション研究センター事業報告書
- ・『環大経営学部がやるしかない!!—鳥取における鳥取のための産官学連携シカ肉によるPBL教育—』, 2019地域イノベーション研究センター事業報告書
- ・『社会的正義を訴求するマーケティングの成立過程とその要因』, 2019年, 博士論文 (神戸大学)
- ・『サービスとしての講義—顧客歓喜の視点より—』, 『高松大学研究紀要』, 2016年, 第64・65号
- ・『全体主義から見たマーケティング (前編)』, 『高松大学研究紀要』, 2015年, 第63号
- ・『マーケティングと企業の社会的責任』, 『季刊マーケティング・ジャーナル』, 2011年, 第119巻
- ・『コースリレーテッド・マーケティングが企業と消費者の価値共創に与える影響—株式会社 フェリシモの事例より—』, 2010年, 修士論文 (神戸大学)

■社会貢献活動

- ・2014年 9月 女木コミュニティセンター講座 「身近にあふれるマーケティング」
- ・2016年 3月 こんびら大学 「数字に騙されるな! ~統計学の初歩の初歩~」
- ・2016年 8月 男木コミュニティセンター講座 「身近にあふれるマーケティング」
- ・2016年 10月 女木コミュニティセンター講座 「数字に騙されるな! ~統計学の初歩の初歩~」
- ・2019年 3月 第18回 平成30年度 公益社団法人鳥取県栄養士会
栄養士のための調査・研究研修会での講義 「なんと身近な統計学~実証研究の初歩の初歩」
- ・2020年 7月 公開講座 「What is Marketing!?!」
- ・2020年 11月 東部こらぼネット6次化産業セミナー 講師
- ・2021年 8月 まちづくりレディース鳥取 研修会 講師 「一人ひとりが未来を創る? 身近な取り組みから考えるSDGs~アフターコロナを見据えて~」
- ・2023年 3月 まちづくりレディース鳥取 研修会 講師 「マーケティングの視点で商いを考える~選ばれる店づくりとは?~」
- ・2025年 3月 第23回 鳥取県栄養士会 県民公開講座 栄養士のための調査・研究研修会 講師 「身近な事例で学ぶ~やさしい統計学~」



研究キーワード

動的平衡, 情報化・ソフト化, 新しい公共

藤木 善夫

特任教授

FUJIKI, Yoshio

所属…経営学部 経営学科

経営学部

Profile

■主な担当科目 経営情報論, 経営情報システム, 情報産業論

■研究者略歴

2004 (平成16) 年 3月	名古屋市立大学大学院経済学研究科修士課程修了
2006 (平成18) 年 4月	名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程入学
2010 (平成22) 年 3月	名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程満期退学
1995 (平成 7) 年 4月	学校法人愛知水野学園 (現学校法人愛知産業大学) 名古屋法経情報専門学校 (現ELICビジネス公務員専門学校)
2004 (平成16) 年 4月	学校法人愛知産業大学愛知産業大学短期大学経営学科専任講師
2007 (平成19) 年 4月	学校法人愛知産業大学愛知産業大学経営学部ビジネスマネジメント学科専任講師
2009 (平成21) 年 4月	学校法人愛知産業大学愛知産業大学経営学部総合経営学科准教授
2010 (平成22) 年 4月	学校法人東海学園東海学園大学経営学部経営学科准教授
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部非常勤講師
2024 (令和 6) 年 9月	公立鳥取環境大学経営学部特任教授

Research

■取得学位 経済学修士 (名古屋市立大学)

■専門分野 経営戦略, 経営情報システム

■現在の研究テーマ

- ・経済のソフト化による行動様式の変化が各種産業のビジネスモデルの変容に与える影響
情報化, IT化, グローバル化等による価値観の変化, 技術革新が個人の行動様式に変化を与え, 企業自身も変化対応業として, 従来型のビジネスを変えていかなければならない現実を踏まえ, 経営資源をどのように再配分しているのかについての研究
- ・ソーシャルビジネス (SB) についての研究
公共ではかかわりにくい, 地域における不便・不都合について誰が主体となって関わっていくのか, 小さな不便・不都合にはどんなものがあり, 今後どんなものが生じてくるのかについての研究

■資格 中小企業診断士

Data

■研究等活動

【著書】

- ・強い会社をつくるバランス会計入門 (共著) 2018 (平成30) 年10月 (株) 中央経済社
- ・マネジメントの基礎—企業と地域のマネジメント考— (共著) 2018 (平成30) 年4月 (株) 五弦舎

【論文】

- ・卸売業経営の存在意義再考—卸売商存立根拠論と問屋無用論のはざま— 2017年 『産業経済研究』 第17号

■社会貢献活動

- ・中小企業診断士診断指導歴
協同組合岡崎ショッピングセンター診断指導
岡崎市康生通り商店街 (未来城下町連合) 診断指導
岡崎市役所環境廃棄物対策課行政助言指導
岡崎商工会議所経営相談所委嘱経営診断指導
- ・みよし市みよし創業塾2016コーディネーター
- ・みよし商工会みよし創業塾2016講師
- ・名古屋市天白区役所天白区歴史・魅力発見ツアーコンテスト審査委員
- ・岡崎大学懇話会, 岡崎学「岡崎の元気な中小企業-本学経営哲学特講からの紹介-」講演
- ・岡崎商工会議所「経営の原理・原則」講座
- ・岡崎石工団地青年部2世経営者セミナー
- ・田原市商工会中小企業経営セミナー
- ・岡崎市民カレッジ「M&A—新たなる成長のデザイナー-」講演



研究キーワード

国際財務報告基準, 内部統制, 監査上の主要な検討事項

柳 年哉

YANAGI, Toshiya

特任教授

所属…経営学部 経営学科

cpaey22@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 会計学入門, 財務会計, 経営分析

■研究者略歴

Table with 2 columns: Year (西暦/和暦) and Position/Institution. Includes entries from 1979 to 2023.

Research

■取得学位 経済学士 (和歌山大学)

■専門分野 会計学, 国際財務報告基準, 監査論

■現在の研究テーマ ・日本企業における国際財務報告基準 (International Financial Reporting Standards-IFRS) の実務対応に関する研究
・コーポレートガバナンスの一環としての内部統制システム導入の考察
・独立監査人の監査報告書に記載される監査上の主要な検討事項 (Key Audit Matters-KAM) と監査手続の関連に関する研究

■資格 公認会計士 (日本公認会計士協会)

Data

■研究等活動

【著書】

Table with 4 columns: Title, Author, Year, Publisher. Lists books on accounting and IFRS.

■社会貢献活動

- 企業の経理担当者向けセミナー講師
「グローバル人材育成のための英文会計セミナー」新日本有限責任監査法人 大阪事務所主催 平成25年～平成26年4月
企業の監査役及び内部監査人向けセミナー講師
「海外子会社等の内部統制監査実務セミナー」新日本有限責任監査法人 大阪事務所主催 平成27年4月～平成27年8月
「海外子会社の内部統制強化のためのセミナー」新日本有限責任監査法人 大阪事務所主催 平成28年4月～平成28年12月
鳥取県複合バイオマス資源利活用検討会委員
鳥取市日本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会委員長
鳥取砂丘西側エリア滞在型観光施設運営事業 財務審査委員
鳥取県若桜町 指定管理者 審査委員会委員長

経営学部

研究キーワード

経営情報, 要求定義, 情報連携



齊藤 哲

SAITO, Tetsu

AI・数理・データサイエンス教育研究センター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

経営学部

Profile

■主な担当科目 経営工学, 生産管理, プロジェクトマネジメント

■研究者略歴

1981(昭和56)年 3月	慶應義塾大学商学部卒業
2011(平成23)年 9月	早稲田大学大学院創造理工学研究科経営デザイン専攻修士課程修了, 修士(経営工学)
2018(平成30)年 3月	早稲田大学大学院創造理工学研究科経営デザイン専攻博士課程修了, 博士(経営工学)
1981(昭和56)年 4月	株式会社日立製作所(～2015年3月)
2015(平成27)年 4月	株式会社日立産業制御ソリューションズ(～2021年3月)
2020(令和 2)年 4月	早稲田大学大学院創造理工学研究科経営デザイン専攻 非常勤講師(～2021年3月)
2021(令和 3)年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2021(令和 3)年10月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2023(令和 5)年 4月	公立鳥取環境大学 AI・数理・データサイエンス教育研究センター長

Research

■取得学位 博士(経営工学) 早稲田大学

■専門分野 経営工学, プロジェクトマネジメント, 要求工学

■現在の研究テーマ 企業の事業構造・業務・情報システムを一体として改革する方法論の研究
(1)事業構造改革・業務改革プロジェクトへの経営工学手法の適用
(2)業務要求定義と情報システム要求定義の同時的デザイン手法の適用
(3)DXに代表される情報システム改革でのプロジェクトマネジメント手法の適用

■受賞歴 2017(平成29)年8月 文献賞(プロジェクトマネジメント学会)

■所属学会 日本経営工学会, 電気学会 C(電子・情報・システム)部門, プロジェクトマネジメント学会

■資格 中小企業診断士
情報処理技術者資格 プロジェクトマネージャ, システム監査技術者, システムアナリスト

Data

■研究等活動

【著書】

- 「経営のしくみがわかる 文科系のための経営工学入門」(共著), 2025年, 同文館出版
- 「AI, IoTを成功に導くデータ前処理の極意」(共著・監修), 2018年, 日経BP社

【論文】

- 「業務プロセスの分解における情報連携表記方法の比較実験」(共著), 2019年, 電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌), Vol.139, No.8
- 「企業情報システム開発における行列を用いた情報連携表記方法(MDM)」, 2018年, 早稲田大学創造理工学研究科 学位論文
- 「機能と責任境界・管轄の全体連携図(G-RD)を活用したステークホルダ要求獲得の提案」(共著), 2016年, プロジェクトマネジメント学会誌, Vol.18, No.1
- 「機能と境界・全体連携図の表記方法に関する考察」(共著), 2014年, 電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌), Vol.134, No.5

【学会発表】

- 「A Study of Logical Design of Information Relation Organization Using Global Relations Diagram of Function and Relations」, 2024年, 16th International Conference on Project Management (ProMAC 2024)
- 「中小製造業における製造DX推進上の課題とその解決方法」, 2024年, 日本経営工学会 2024年秋季大会
- 「G-RDを活用した情報連携組織の論理的設計の一考察」, 2024年, プロジェクトマネジメント学会 2024年度秋季研究発表大会
- 「An Investigation into Refining Accuracy of Business Quote Estimation by Digitalization in Small and Medium Manufacturing Enterprises in Japan」, 2023年, The 7th Asian Conference of Management Science and Application (ACMSA 2023)
- 「中小製造業におけるIoT活用阻害要因に関する一考察」, 2023年, 日本経営工学会 2023年 春季大会
- 「関係を表記する技術G-RDによる問題分析の一考察」, 2022年, 電気学会 2022年 電子・情報・システム部門大会
- 「経営情報システムのための設計方法の提案」, 2021年, 経営情報学会 2021年 全国研究発表大会
- 「問合せ業務における経営指標分析と管理システムの要求定義の一考察」, 2021年, 電気学会 2021年 電子・情報・システム部門大会
- 「Proposal of Requirement Definition Method for Business Management Information Systems」, 2019年, 13th International Conference on Project Management (ProMAC 2019)
- 「Comparative Study of Description Method for Visualization of Business Process Decomposition」, 2018年, 12th International Conference on Project Management (ProMAC 2018)
- 「業務プロセスの分解における情報連携表記方法の比較実験」, 2018年, 電気学会 平成30年 電子・情報・システム部門大会
- 「Comparative Study of Description Method for Business Process Visualization」, 2017年, 11th International Conference on Project Management (ProMAC 2017)
- 「企業情報システム開発における機能の分解・統合と連携の表記方法に関する考察」, 2017年, 電気学会 平成29年 電子・情報・システム部門大会
- 「The Proposal of Stakeholder Requirement Utilizing G-RD in Business Process Information System」, 2016年, 10th International Conference on Project Management (ProMAC 2016)
- 「企業業務処理システム開発における要求獲得に関する一考察」, 2016年, 電気学会 平成28年 電子・情報・システム部門大会

■社会貢献活動

- 2024年 6月 公立鳥取環境大学 公開講座2024「AI・データ分析を活用した業務改革プロジェクトの進め方」
- 2023年12月 公立鳥取環境大学 公開講座2023「やさしい経営工学」
- 2023年10月 令和5年度とっとり消費者大学 暮らしの経済・法律講座, 「DXで変わる企業と暮らし」
- 2023年 6月 公立鳥取環境大学 公開講座2023「人生を豊かにするリスクリングのすすめ」
- 2023年 1月 鳥取県公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会委員
- 2022年10月 公立鳥取環境大学 公開講座2022「業務改革に活かすAI・ビッグデータ分析の進め方」
- 2019年 7月, 2020年11月 早稲田大学 データサイエンスコンペティション審査員



研究キーワード

インターネット運用技術, 組み込み, 工学教育, 分散システム

齊藤 明紀

SAITOH, Akinori

情報メディアセンター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科経営学専攻

✉ saitoh@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目	インターネット, 情報倫理, データ構造とアルゴリズム
■ 研究者略歴	
1991 (平成 3) 年 3月	大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻後期課程修了, 工学博士
1991 (平成 3) 年 4月	大阪大学基礎工学部情報工学科 助手
1994 (平成 6) 年 2月	大阪大学情報処理教育センター 講師
1999 (平成11) 年 4月	大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻 講師
2002 (平成14) 年 4月	大阪大学 大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 助教授
2004 (平成16) 年 7月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科情報システム領域主任(兼任)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学情報メディアセンター長 (兼任), 大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ 取得学位	工学博士 (大阪大学)
■ 専門分野	情報工学
■ 現在の研究テーマ	・分散システム運用技術 ・工学教育
■ 受賞歴	1986 (昭和61) 年3月 大阪大学基礎工学部情報工学科楠本賞 (主席卒業) 受賞 2002 (平成14) 年5月 情報処理学会 平成13年度論文賞受賞 2012 (平成24) 年3月 情報処理学会 平成23年度山下記念研究賞受賞 2014 (平成26) 年10月 デミング賞委員会 平成26年度日経品質文献賞授賞 (「新版 信頼性ハンドブック」に対して)
■ 所属学会	情報処理学会, 電子情報通信学会

Data

■ 研究等活動	
【著書】	・ネットワークシステムの信頼性保証(分担執筆), 2014年7月, 新版 信頼性ハンドブック
【報告書】	・「個人必携パソコンによる情報環境 -- 鳥取環境大学の事例-」, 2016年9月, SS研究会教育分科会第1回会合 ・「[WIP]情報コンセント検査支援ツールへの取り組み」, 2014年12月, 情報処理学会IoTシンポジウム2014 ・「Android端末を利用した乳幼児見守りシステム」(共著), 2014年12月, 情報処理学会IoTシンポジウム2014 ・「情報コンセントのためのハブポート対応表調査生成ツール」, 2012年3月, 情処技報IoT-16-23 ・「個人必携パソコンによる情報環境 -- 鳥取環境大学の事例-」, 2010年5月, 情処技報IoT-9-11 ・「省電力のための連休スケジュール参照機能を持つ機器監視システムの試作」(共著), 2010年3月, 情処技報IoT-8-2 ・「省力化を実現するための忘失パスワード再設定システム」(共著), 2009年3月, 情処技報IoT-4-29 ・「鳥取環境大学のリテラシー教育への取り組み」(共著), 2006年9月, 大阪大学サイバーメディアフォーラム, No.6
【口頭発表】	・「サイバーセキュリティ 2022 ~技術と人間~」, 2022年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会 ・「サイバーセキュリティ 2018 ~技術と人間~」, 2018年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会 ・「サイバーセキュリティ 2016 ~技術と人間~」, 2016年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会 ・「問題提起 『日々是修行』の代わりは?」, 2015年9月, LightweightLanguage2015, ライトニングトーク
■ 社会貢献活動	・日本UNIXユーザ会幹事 ・関西オープンフォーラム実行委員 ・鳥取県警察サイバーセキュリティ対策アドバイザー



研究キーワード

マーケティング, 新製品開発, 創造性, アイデア, デザイン

磯野 誠

ISONO, Makoto

教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

URL www.makotoisono.com

E-mail m-isono@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** (学部)マーケティング2, 商品開発論, ブランド論 (大学院)マーケティング特論, リサーチデザイン特論

■ **研究者略歴**

1990 (平成 2) 年 3月	千葉大学工学部工業意匠学科卒業, 工学士 (ID)
2004 (平成16) 年 9月	神戸大学大学院経営学研究科専門職学位課程現代経営学専攻修了, 経営学修士 (専門職)
2008 (平成20) 年 3月	神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程現代経営学専攻修了, 博士 (商学)
1991 (平成 3) 年 9月	横河電機株式会社 (~ 1999年11月)
2000 (平成12) 年 2月	Procter & Gamble Far East Inc. (~ 2009年6月)
2007 (平成19) 年 3月	The Procter & Gamble Company (OH, USA) 出向 (~ 2008年6月)
2009 (平成21) 年 2月	神戸大学大学院経営学研究科研究員 (~ 2011年1月)
2009 (平成21) 年10月	九州共立大学経済学部准教授 (~ 2012年3月)
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2013 (平成25) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授, 大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授, 大学院環境経営研究科経営学専攻教授

Research

■ 取得学位	博士 (商学) (神戸大学)
■ 専門分野	マーケティング, 新製品開発, 創造性, アイデア, デザイン
■ 現在の研究テーマ	・新製品・サービスのアイデア開発における創造性 ・地域創生のためのマーケティング
■ 受賞歴	2023年日本デザイン学会年間論文賞
■ 所属学会	日本デザイン学会, 日本商業学会, 日本消費者行動研究学会, 地域デザイン学会

Data

■ **研究等活動**

- 【著書】
- ・「マーケティングはこれでいい」(単著), 2025年, ナカニシヤ出版 (予定)。
 - ・「アイデアをもたらし思考」(共著・主), 2024年, ナカニシヤ出版。
 - ・「地方創生のための経営学入門」(共編著), 2019年, 今井出版。
 - ・「新製品コンセプト開発におけるデザインの役割」(単著), 2014年, 丸善出版。
 - ・「アイデアの意図と魅力を考える」(共著・主), 2013年, ふくろう出版。
- 【論文】
- ・「創造的なアイデア開発のための概念結合とアナログの活用とそれらの関係」, 2023年, (共著)『デザイン学研究』69(4), 29-38。
 - ・「ビジョニングによるアイデア創出における効果的なビジョン想像」, 2022年, (共著)『デザイン学研究』68(3), 63-72。
 - ・「ビジョニングによる製品アイデア創出における認知プロセス」, 2020年, 『デザイン学研究』67(2), 1-10。
 - ・「自治体のためのブランディング」, 2020年, 『国際文化研修』108, 11-16。
 - ・「新製品アイデア開発における視覚化とアナログ活用の効果」(共著), 2019年, 『国民経済雑誌』220(6), 1-17。
- 【Proceedings】
- ・"From Vision to Idea: The Cognitive Process of Vision-Driven Idea Development, " 2018 The Proceedings of 25th International Product Development Management Conference.
 - ・「新製品アイデア開発における文脈想像の性質と働き」, 2017年, 『日本マーケティング学会カンファレンス・プロシーディングス』6, 158-167。
- 【紀要・研究ノート】
- ・「伝統工芸産業を構成する事業者の経営とその技術継承」, 2021年, 『地域デザイン学会誌』17, 213-231。
 - ・「中小企業による新製品開発の成功要因—開発成果に結びつくFEフェーズ管理」, 2018年, 『地域イノベーション研究』6, 50-52。
 - ・「顧客のフロー体験と感動, 満足, ロイヤルティとの関係」, 2017年, 『公立鳥取環境大学紀要』15, 19-29。
 - ・「新製品アイデア開発におけるイマジネーション活用の効果」, 2016年, 『公立鳥取環境大学紀要』14, 26-39。
 - ・「いかに市場機会を特定するか—新製品開発FEフェーズ研究レビュー」, 2015年, 『鳥取環境大学紀要』13, 41-57。
 - ・「中山間集落住民にとつての買い物物の意義—買い物行動の快樂的側面を含めた検討—」, 2015年, 『鳥取環境大学紀要』13, 129-138。
- 【著書分担】
- ・「マーケティングとは何か」, 2022年, 山岡俊樹編著, 『サービスデザインの発想法』オーム社, 33-46。
 - ・「仏教とマーケティング」, 2021年, 浅川滋男編著, 『能見寛と宇内一統宗教』同成社, 312-323。
 - ・「BSCによる阿蘇農耕景観保全活動マネジメントの提案」, 2017年, 横川洋・高橋佳孝編著, 『阿蘇地域における農耕景観と生態系サービス』, 農林統計出版, 341-356。

■ **社会貢献活動**

- ・企業マネジメント職向けデザインマネジメント・コンサルティング (JVCケンウッドデザイン, サントリー, 加納デザイン事務所等)
- ・企業向けマーケティング・コンサルティング, セミナー講師 (某大手ITメーカー, 鳥取県東部青年中央会等)
- ・自治体向けマーケティング・コンサルティング, セミナー講師 (全国市町村国際文化研修所: 2017-; 鳥取県: 2015-; 米子市: 2021-; 広島市: 2021-; 八頭町: 2023-)
- ・教員免許状更新講習講師 (テーマ:「創造性を引き出す」)(2020-2021)
- ・鳥取県消費生活審議会委員 (2015-)

経営学部



研究キーワード

環境政策, 経済的手法

石川 真澄

ISHIKAWA, Masumi

副学長補佐 (学生生活・就職, 広報, 情報担当)
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

経営学
部

Profile

■ 主な担当科目 公共政策論, 日本経済論, マクロ経済学入門

■ 研究者略歴

1995 (平成 7) 年 3月	同志社大学大学院経済学研究科博士課程 (後期) 経済政策専攻退学
1995 (平成 7) 年 4月	宮崎産業経営大学経済学部専任講師
2001 (平成13) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2004 (平成16) 年 1月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長・大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
2017 (平成29) 年10月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長・大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学副学長補佐, 経営学部経営学科・大学院環境経営研究科経営専攻教授

Research

■ 取得学位 経済学修士 (同志社大学)

■ 専門分野 環境経済論, 経済政策論

■ 現在の研究テーマ ・ 経済的手法による環境政策の研究

■ 所属学会 日本経済政策学会, 環境経済・政策学会, 廃棄物資源循環学会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・「循環型社会のキーコンセプト (拡大生産者責任)」「ドイツのリサイクル政策」「エコツーリズム」「環境税・炭素税」(「地球環境読本Ⅱ」, 2004年8月, 丸善 所収)
- ・「観光地のライフサイクルと持続可能性」(「現代社会とツーリズム」2001年4月, 東海大学出版会, 第五章)

【報告書】

- ・「日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究」第6章1節, 2014年3月

■ 社会貢献活動

- ・鳥取県国民健康保険運営協議会委員 (2018年～)
- ・鳥取地方最低賃金審議会委員(2021年～)



研究キーワード

環境NGO, 公害被害者救済, 市民活動, 中国の環境問題, 東アジアの国際協力

相川 泰

教授

AIKAWA, Yasushi

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■ **主な担当科目** アジア環境論, アジア社会論, 国際関係入門

■ **研究者略歴**

2004 (平成16) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2006 (平成18) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科・大学院環境経営研究科経営学専攻教授

■ **取得学位** 修士 (学術) (東京大学)

■ **専門分野** 中国環境研究, 東アジア国際関係, 民間非営利部門論

■ **現在の研究テーマ**
・中国における環境問題と政策, 特に環境汚染の実態および被害者救済
・日本・中国・韓国の環境NGO・市民活動, それらの国際展開, 相互交流・協力
・上記を中心とする国際関係の同時代史

■ **所属学会** 環境経済・政策学会, アジア政経学会, 環境社会学会, 日本環境会議, 日本現代中国学会

■ **研究等活動**

【著書】

- ・ *Environmental Policy and Governance in China* (共著), 2017年, Springer
- ・ 『中国の環境法政策とガバナンス』 (共著), 2012年1月, 晃洋書房
- ・ 『中国汚染——「公害大陸」の環境報告』, 2008年3月, ソフトバンククリエイティブ
- ・ 『中国の環境問題と法・政策』 (共著), 2008年3月, 法律文化社
- ・ 『中国環境ハンドブック』 (共編著), 2004年, 2007年, 2009年, 2011年, 蒼蒼社
- ・ 『地域と環境政策』 (共著), 2006年11月, 勁草書房
- ・ 『アジア環境白書』 (共著), 1997年, 2000年, 2003年, 2006年, 2010年, 東洋経済新報社
- ・ 『環境共同体としての日中韓』 (共編著), 2006年1月, 集英社
- ・ 『重大化する中国環境問題』 (編著), 『中国年鑑2004』 (共編著) 特集, 2004年8月, 創土社
- ※ 『中国年鑑』 環境問題 (動向, 要覧) 欄は1995年から2008年までと2018年から執筆担当

【論文】

- ・ 『環境分野からみる中国の民間——NGOを中心に』, 2020年9月, 『現代中国』 94
- ・ 『SDGsの来た道』, 2020年3月, 高井・甲田編 『SDGsを考える』 ナカニシヤ出版, 第2章
- ・ 『中国におけるプラスチックごみ問題』, 2019年9月, 『環境経済・政策研究』 12-2
- ・ 『環境問題における日中間協力の現状と課題』, 2014年10月, 『市政研究』 185
- ・ 『転換期にある東アジア地域の民間非営利環境協力』, 2014年4月, 『鳥取環境大学紀要』 12
- ・ 『日中民間非営利交流・協力の現状と将来像』, 2013年1月, 『日中環境産業』 49-1
- ・ 『中国の人々の環境意識はどのように高まったか』, 2012年10月, 『世界』 (岩波書店) 835
- ・ 『中国環境NGOの今』 『環境NPOの今——日本と中国のNPO交流の現場から——』, 2012年5月～2013年7月, 『資源環境対策』 『日中環境産業』 『環境パートナーズ』 48-5～49-8
- ・ 『中国の環境NGOによるグリーン・サプライチェーン運動』, 2012年4月, 『環境と公害』 41-4
- ・ 『ユーラシア北東岸水域の環境汚染問題——松花江の汚染と対策を中心に』, 2012年3月, 『SEEDer』 6

■ **社会貢献活動**

- ・ 日中韓環境情報共有・交流事業運営委員
- ・ 中国環境問題研究会 共同代表
- ・ 島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員
- ・ 中国の環境汚染被害発生地において, 日本の水俣病の経験と教訓について中国語で講演 (日本政府による草の根無償資金援助事業の一環), 2017年11月



研究キーワード

経済発展, 人口動態, 就業選択

西村 教子

NISHIMURA, Noriko

国際交流センター長
教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■ **主な担当科目** 現代経済学入門, ビジネス・エコノミクス, 社会経済と人口

■ 研究者略歴

2001 (平成13) 年 3月	神戸大学大学院国際協力研究科国際開発政策専攻博士後期課程修了
2002 (平成14) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2005 (平成17) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学副学長補佐 (広報担当, 研究担当, 地域連携・国際交流担当), 大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学国際交流センター副センター長
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学国際交流センターセンター長

■ **取得学位** 博士 (学術) (神戸大学)

■ **専門分野** 開発経済学, 人口経済学

■ **現在の研究テーマ** ・ 少子高齢化時代の農業ファミリービジネスと女性経営参画—長期公的パネルデータ分析—
・ 危険回避行動と先送り行動が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響に関する実証研究

■ **所属学会** 国際開発学会, 経済統計学会, 日本人口学会, 日本地域学会, 日本統計学会

■ 研究等活動

【論文】

- ・ 「小規模農家の経営継承と新規参入の特徴と課題— 2000 ~ 2015 年農林業センサス世帯員パネルデータの構築と利用 —」 (共著), 2025年3月, 『立命館経営学』, 第63巻第6号, 1 ~ 22頁
- ・ 「『農林業センサス』世帯員パネルデータの構築からみえるもの—農家の経営継承と新規参入の特徴—」, 2024年7月, 『統計』, 第75巻第7号, 51 ~ 54頁
- ・ 「なぜ未婚男性は「婚活」をしないのか—リスク回避か先送りか?」, 2023年4月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第108号, 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・ 「危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響」, 2020年2月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第82号, 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・ 「農林業センサスの高度利用: 世帯パネルから世帯員パネルへ」 (共著), 2017年5月, 『農業と経済』, 第83巻第5号, 71 ~ 80頁
- ・ 「農林業センサスにおける世帯員パネルデータの構築実験」 (共著), 2017年, 『農林水産統計デジタルアーカイブ講座Working Paper Series』, No.6.

【講演・口頭発表】

- ・ 「農林業センサスの高度利用—世帯員パネルデータによる新規参入と経営継承の特徴—」 公的統計マイクロデータ研究コンソーシアム シンポジウム2023, 2023年11月24日
- ・ 「未婚男性の「婚活」を思い止まらせるのはリスク回避か先送りか?」 日本人口学会第75回大会, 2023年6月11日
- ・ 「小規模農家の親族継承の特徴—農業センサスパネルデータによる分析—」 (共同) 2022年度統計関連学会連合大会, 2022年9月6日
- ・ 「危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響」 日本人口学会第72回大会, 2020年11月14日
- ・ 「新規参入農家の家族の役割—農業センサス世帯員パネルデータによる分析—」 (共同) 2020年度統計関連学会連合大会, 2020年9月9日
- ・ 「新規若手農業経営者から見る担い手課題—農林業センサス世帯員パネルデータの構築—」 (共同) 2019年度統計連合大会, 2019年9月10日

■ 社会貢献活動

- ・ 鳥取県信用保証協会理事
- ・ 鳥取地方裁判所委員会委員
- ・ 鳥取市国民健康保険運営協議会会長
- ・ 関西広域連合広域計画等推進委員会委員



研究キーワード

技術戦略, イノベーション経営, 戦略経営

光山 博敏

教授

MITSUYAMA, Hirotohi

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

mitsu414@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目

経営戦略論 I, II, 事業創造論, 中小企業経営論, Case Analysis, 経営戦略特論

■ 研究者略歴

2012 (平成24) 年 4月	福井県立大学 地域経済研究所
2014 (平成26) 年 4月	信州大学 グローバル教育推進センター 准教授
2016 (平成28) 年 4月	信州大学 経営大学院 兼任 准教授
2017 (平成29) 年 4月	信州大学 全学教育機構 特任准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 准教授
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学 大学院環境経営研究科経営学専攻 兼任 准教授
2021 (令和 3) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科/大学院環境経営研究科経営学専攻 教授

Research

■ 取得学位

博士 (技術経営) (立命館大学MOT大学院)

■ 専門分野

技術経営, 技術戦略, イノベーション戦略

■ 現在の研究テーマ

・海外調達部品増加に伴う見込み生産からの脱却と革新的グローバルサプライチェーン戦略

■ 所属学会

組織学会, 日本MOT学会, 研究・イノベーション学会

Data

■ 研究等活動

【著書】

- ・JMA監修 Think!別冊 special issue No.11 (2024) 東洋経済新報社, pp.20-25.
- ・『現場力-強い日本企業の秘密-』(共著), (2020), 筑摩書房
- ・『地方創生のための経営学入門』(共著), (2019) 今井書店
- ・『一橋ビジネスレビュー』(共著), (2017冬号) 東洋経済新報社
- ・『アジア大の分業構造と中小企業』33巻 (共著), (2014) 同友館
- ・『Capability building for organizational transformation』(共著), (2013) Bloomsbury Publishing
- ・『International conference on management cases』(共著), (2012) Macmillan Publishers

【論文】

- ・Drivers for CPS adoption in the manufacturing industry: Implications for productivity improvement, Journal of Electrical Systems Vol.20, 10s (2024): 165 - 174.
- ・Consideration on the Essence of Industry 4.0. (2019) International Journal of Business and Management Studies, 12 (1) pp.43-50.
- ・Understanding the Essential Features of Industry 4.0 in Germany. (2018) International Journal of Business and Management Studies, 6 (2):pp.441-450.
- ・A Comparative Study on the Impact of in-House Manufacturing Machinery Departments on Sustainable Competitive Advantage. (2017) International Journal of Business and Management Studies, Vol 5 (2):pp.1-8.
- ・A Study of Trans-Generational Manufacturing Design Paradigm Paralysis in Japan. (2016) International Journal of Business and Management, Vol.8 (5):pp.37-48.
- ・A Study on the Correlation between Inimitable Factors and Sustainable Competitive Advantage for Detail Controlled Parts Manufacturers in Japan." (2015) International Journal of Business and Management Studies, Vol.3 (2):pp.137-147.
- ・The Hidden Competitiveness of Japanese Manufacturing Industry" (2013) Macrotheme Review, Vol.2 (3):pp.10-21.
- ・Consideration of the Technology Brands and Price Premium Strategies for SPM in Japan. (共著) . (2013) International Journal of Business Performance Management, Vol.14 (4):pp. 356-367.

■ 社会貢献活動

- ・ひょうご経済・雇用活性化プラン策定会議専門委員
- ・一般社団法人 日本能率協会「生産・開発マネジメントコース」講師
- ・立命館大学OIC 総合研究機構 グローバルMOT研究センター 客員研究員
- ・鳥取産業振興機構 起業化促進事業助成審査会 委員

【講演会】

- ・「次世代経営リーダーのための戦略リテラシーと21世紀型の資本経営の考え方」一般社団法人日本能率協会 (2024)
- ・「働く人の論理」を考える」ダイハツ工業株式会社(2024)
- ・「日独比較検証から見てきたジョブ型雇用の陥穽と戦略思考の重要性」富士通株式会社 (2023)
- ・「ものづくり企業リーダーのための実践的戦略リテラシーとマネジメントの本質」一般社団法人ものづくり改善ネットワーク (2023)
- ・「ドイツ製造業の最新動向が示唆する日本製造業の諸課題の検討と今後」東京大学ものづくり経営研究コンソーシアム (2023)
- ・「ドイツ合宿研修の総括」一般社団法人日本能率協会 (2022)
- ・「インダストリー 4.0の実情と日本のものづくりの今後」一般社団法人日本能率協会 ドイツ (2023)
- ・「ドイツのものづくり思想からみたインダストリー 4.0の本質」一般社団法人日本能率協会 (2022)
- ・「中小企業における戦略リテラシーの重要性とサステナブル・マネジメントの本質」関西大学 社会連携部産学官連携センター「次世代経営者塾」(2022)
- ・「環境経営時代における戦略思考の重要性」一般社団法人日本能率協会 (2022)
- ・「戦略思考の重要性と鳥取県の将来展望に関する一考察」社会人特別講座 (2022)
- ・「ものづくり日本の潜在力と戦略・イノベーション思考の重要性」関西大学 社会連携部産学官連携センター「次世代経営者塾」(2022)
- ・「不確実性高まる世界の現状と戦略経営およびイノベーション思考の重要性」富士通株式会社 (2021~2022)
- ・「ワークショップ-Critical Thinking-」一般社団法人日本能率協会 (2021)
- ・「不確実性高まる世界の現状と戦略経営およびイノベーション思考の重要性」一般社団法人日本能率協会 (2021)
- ・「インダストリー 4.0から再考する日本のものづくりと持続的競争優位性」一般社団法人日本能率協会 (2020)
- ・「イノベーション時代における戦略思考の重要性」一般社団法人日本能率協会 (2020)
- ・「ドイツ・インダストリー 4.0の総括とものづくりの今後」一般社団法人日本能率協会 (ドイツ) (2019)
- ・「ドイツ・インダストリー 4.0からものづくりの本質を再考する」一般社団法人日本能率協会 (2019)
- ・「競争力強化に向けた戦略思考の重要性」一般社団法人日本能率協会 (2019)
- ・「デジタル環境下における 戦略思考の重要性」オリンパス株式会社 (2019)
- ・「リーバイ・ストラウス社と企業倫理 ~ Critical Thinkingを起点として~」オリンパス株式会社 (2019)

経営学部



研究キーワード

日本の経営, 人的資源管理, 多国籍企業, 戦略的提携

俞 成華

教授

Yu, Chenghua

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

主な担当科目

(学部) 国際経営論, 人的資源管理論, 経営倫理 (大学院) 経営管理特論

研究者略歴

1992 (平成 4) 年 7月	中国福建医科大学 基礎医学部 卒業
1997 (平成 9) 年 3月	メロス言語学院 (日本語学校) 修了
2001 (平成13) 年 3月	東京都立大学 経済学部 卒業
2003 (平成15) 年 3月	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究所 博士課程前期 経営学修士 修了
2006 (平成18) 年 3月	横浜国立大学大学院 国際社会科学研究所 博士課程後期 経営学博士 修了
2008 (平成20) 年 4月	首都大学東京 都市教養学部 非常勤講師
2009 (平成21) 年 4月	帝京平成大学 現代ライフ学部レジャービジネス学科 助教
2012 (平成24) 年 4月	東京大学 ものづくり経営研究センター 特任研究員
2012 (平成24) 年 9月	中国福建理工大学 管理学院マーケティング学科 准教授
2016 (平成28) 年 4月	九州国際大学 現代ビジネス学部地域経済学科 特任教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 准教授
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学 大学院 環境経営研究科 経営学専攻 准教授
2021 (令和 3) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 兼任 環境経営研究科 経営学専攻 教授

Research

取得学位

経営学博士 (横浜国立大学)

専門分野

経営学 (人的資源管理, 国際経営, 組織間関係)

現在の研究テーマ

- ・中国中外合併企業のR&D
- ・日本の経営・生産システムの海外移転可能性
- ・人的資源管理の国際比較
- ・中国電気自動車のR&D・普及と環境戦略

受賞歴

- ・2013 (平成25) 年12月 中国福建省重点課題優秀調研究成果特別賞
- ・2018 (平成30) 年 3月 九州国際大学平成29年度「優秀教育教員」(ベストティーチャー賞)

所属学会

日本経営学会, 日本労務学会, 中国経済経営学会, 人材育成学会

Data

研究等活動

【著書】

- ・「アフリカの日本企業-日本の経営生産システムの移転可能性-」(共著) 第10章「中国企業のアフリカ経営」, 2019年3月, 時潮社.
- ・「地方創生のための経営学入門」(共著) 序章「経営学の基本」, 第4章「人的資源管理」, 2019年3月, 今井出版社.
- ・「日中合併企業のマネジメント-技術・資金・人的資源」, 2013年4月, ミネルヴァ書房.

【論文】

- ・「Open Innovation in China's New Energy Vehicle Market:Case Study of BYD Auto Co., Ltd.」, 2025年3月, 『公立鳥取環境大学紀要2025』, PP.1-14.
- ・「伝統ある日本酒メーカーの経営変革に関する一考察-千代むすび酒造株式会社的事例を中心に-」, 2024年5月, 『公立鳥取環境大学紀要2024』, PP.1-14.
- ・「マレーシアにおける日系企業の人材マネジメント-日系製造業3社の事例を中心に」, 2022年11月, 『公立鳥取環境大学紀要2022』, PP.25-35.
- ・「中国新エネルギー車産業における破壊的イノベーションに関する一考察」, 2021年10月, 『公立鳥取環境大学紀要2021』, PP.9-25.
- ・「中国民族系小売企業の関係性マネジメントに関する一考察-永輝超市の事例を中心に」(共著), 2020年12月, 中国経済経営学会『中国経済経営研究』第4巻第2号, PP.20-36.
- ・「中国の新エネルギー車政策と完成車メーカーの電動化戦略」, 2020年4月, 『公立鳥取環境大学紀要』vol.16, PP.RE11-RE30.
- ・「海外建設プロジェクトにおける日本の経営の移転可能性に関する研究-東洋建設のケニアモンバサ港コンテナターミナル開発工事の事例」, 2018年3月, 九州国際大学現代ビジネス学会『国際・経済論集』創刊号, PP.163-180.
- ・「南アフリカにおける日本企業の国際人的資源マネジメント」, 2017年3月, 九州国際大学経済学会『経営経済論集』第23号, PP.87-106.
- ・「ポスト・アパルトヘイト南アフリカの労使関係に関する一考察-日系企業の事例を中心に」, 2017年3月, 九州国際大学社会文化研究所『社会文化研究所紀要』第78号, PP.1-26.

【報告書・その他】

- ・「鳥取県の中小製造企業における若年者人材の育成と活用」, 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター, 『2021地域イノベーション研究』Vol.9, PP.33-39.
- ・「地域活性化に求められる地方公立大学の役割に関する実証的調査研究-人材開発の視点から-」, 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター, 『2019地域イノベーション研究』Vol.7, PP.1-13.
- ・「ナイジェリアにおける中国民営企業のハイブリッド経営に関する研究-金帝靴業(ナイジェリア)有限公司の事例-」, 2019年10月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, ワーキング・ペーパーシリーズNo.215.
- ・「東洋建設のケニアにおける海外事業展開と日本の経営・生産システム」(共著), 2019年10月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, ワーキング・ペーパーシリーズNo.215.
- ・「ケニアの二輪車市場に挑むホンダ・ケニアのハイブリッド経営」(共著), 2019年10月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, ワーキング・ペーパーシリーズNo.215.

【学会報告】

- ・「伝統産業である日本酒メーカーの経営革新」, 2023年9月6日, 日本経営学会第97回大会 (於 神戸学院大学)
- ・「Open Innovation in China's New Energy Vehicle Market」, 2023年3月13日, International Conference on Business, Economics and Information Technology (ICBEIT 2023)(ZOOM in Tokyo)
- ・「The possibility of strategic cooperation between Chinese and Japanese enterprises in the field of new energy vehicles」, 2021年11月12日, International Forum on Multilateral Industry and Sci-tech Cooperation among ASEAN Plus Three (APT) Countries (VooV in Zhejiang Gongshang University)
- ・「マレーシアにおける日系企業の人材マネジメント-日系製造業3社の事例を中心に-」, 2021年7月17日, 日本労務学会第51回全国大会 (ZOOM in 神戸大学)
- ・「中国自動車の電動化におけるオープンイノベーションに関する一考察-比亚迪の自動車事業を中心に-」, 2020年9月4日, 日本経営学会第94回全国大会 (ZOOM in 慶應義塾大学)
- ・「中国民族系小売企業の関係性優位に関する考察」, 2019年11月17日, 中国経済経営学会2019年度全国大会 (於 愛知大学)
- ・「ポスト・アパルトヘイト南アフリカの労使関係に関する一考察」, 2017年9月15日, 日本労務学会第47回全国大会 (於 専修大学)
- ・「日本企業の国際人的資源マネジメント-南アフリカにおける日系4社の事例を中心に」, 2015年10月, 日本マネジメント学会第72回全国研究大会 (於 香川大学)

社会貢献活動

- ・公立鳥取環境大学公開講座, 「地域で生きる人財の育成」(2019年11月16日)
- ・社会人向け特別公開講座, 「人材開発のあり方を考える」(2019年12月6日)
- ・とっとりSDGs企業認証 (鳥取県商工労働部商工政策課) 運営委員 (2023年3月~)



研究キーワード

イギリス東インド会社, インド経済史, インド貨幣史, 貨幣の多様性, 貨幣経済化

谷口 謙次

准教授

TANIGUCHI, Kenji

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

経営学部

Profile

■主な担当科目 経営史, 経済史, 経済・経営史

■研究者略歴

1998 (平成10) 年 3月	大阪市立大学経済学部 卒業
2001 (平成13) 年 3月	大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程 修了
2009 (平成21) 年 3月	大阪市立大学大学院経済学研究科後期博士課程 単位取得後退学
2013 (平成25) 年 4月	大阪市立大学大学院経済学研究科 特任助教
2014 (平成26) 年 4月	大阪市立大学大学院経済学研究科 博士研究員 (科研費)
2015 (平成27) 年 8月	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員 (科研費)
2016 (平成28) 年 5月	大阪市立大学大学院経済学研究科 博士研究員 (科研費)
2017 (平成29) 年 5月	大阪市立大学大学院経済学研究科 博士研究員 (科研費)
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科講師
2018 (平成30) 年 7月	公立鳥取環境大学 大学院 環境経営研究科 経営学専攻講師
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学 環境経営研究科経営学専攻准教授

Research

■取得学位 博士 (経済学) (大阪市立大学) (2012年)

■専門分野 経営史, インド経済史, アジア経済史

■現在の研究テーマ

- ・植民地期インドでのイギリス東インド会社による貨幣政策の分析
- ・植民地初期のイギリス東インド会社の性格について
- ・近世以降のインドにおける貨幣の多様性について
- ・19世紀前半のインド経済について
- ・インド貨幣史概論について

■所属学会 社会経済史学会, 南アジア学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・『近現代熱帯アジアの経済発展—人口・環境・資源—』(第4章「中世初期の北インドにおける貨幣状況」担当), 2024年, ミネルヴァ書房
- ・『SDGsを考える—歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』(共著), (第1章「歴史からみた環境と経済開発」担当), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・『帝国とアジア・ネットワーク—長期の19世紀—』(共著) (第3章「18世紀後半のベンガルにおけるイギリス東インド会社の貨幣政策」担当), 2009年, 世界思想社

【論文】

- ・「19世紀前半のインドにおける経済不況と貨幣供給—貴金属貿易と貨幣製造」(単著) 2016年10月 三田学会雑誌 109巻3号
- ・「近世南アジアの貨幣制度と18世紀ベンガルにおける貨幣の多様性」(単著) 2012年10月 松山大学論集, 第4-2号
- ・「18世紀後半のベンガルにおける銀不足問題とベンガル植民地政府財政」(単著) 2012年3月 経済学雑誌第112巻第4号
- ・「18世紀末ベンガルにおけるイギリス東インド会社の鑄造所改革」(単著) 2010年3月 経済学雑誌第110巻第4号

■社会貢献活動

- ・中海テレビ『未来への授業』「海賊の世界史」2024年1月20日
- ・2022年度公立鳥取環境大学公開講座「海賊の世界史」2022年6月18日鳥取県立図書館
- ・2018年度とっとり県カレッジ連携講座・公立鳥取環境大学公開講座「南アジアのモンゴル帝国」2018年6月2日鳥取県立図書館



研究キーワード

産業発展, 国際分業, 貿易, 直接投資

連 宜萍

准教授

LIEN, Yiping

所属… 経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■ 主な担当科目 国際経済論, アジア経済論 I, アジア経済論 II

■ 研究者略歴

2002 (平成14) 年6月	中国文化大学商学部卒業 (台湾)
2004 (平成16) 年3月	麗澤大学別科日本語研修課程修了
2006 (平成18) 年3月	麗澤大学修士課程修了 (修士号・経済学)
2010 (平成22) 年3月	麗澤大学博士課程修了 (博士号・経済学)
1995 (平成 7) 年7月	帝一実業股份有限公司 (台湾) 営業部 (～2003年)
2010 (平成22) 年8月	銘傳大学 (台湾) 教育応用語文学部応用日本語学科兼任助教授 (～2011年)
2011 (平成23) 年4月	麗澤大学経済学部経営学科非常勤講師 (～2012年)
2012 (平成24) 年4月	麗澤大学経済学部経済学科助教授 (～2017年)
2017 (平成29) 年4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科/大学院環境経営研究科経営学専攻講師 (～2021年)
2019 (平成31) 年4月	京都外国語大学・京都外国語短期大学非常勤講師 (～2021年)
2021 (令和 3) 年4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科/大学院環境経営研究科経営学専攻准教授

■ 取得学位 博士 (経済学) (麗澤大学)

■ 専門分野 国際経済学, 経済発展論, 多国籍企業論

■ 現在の研究テーマ ・揺らぐ自由貿易下における多国籍企業の直接投資とグローバル・サプライチェーンの構築 (科研課題)
・アジアにおけるアパレル産業の発展と国際分業

■ 所属学会 日本経済政策学会, 国際開発学会, 多国籍企業学会

■ 研究等活動

【著書】

- ・「SDGsを考えるー歴史, 環境, 経営の視点からみた持続可能な社会」(共著), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・「地方創生のための経営学入門」(共著), 2019年, 今井書店
- ・「中国語で読む経済学」(共著), 2014年, 麗澤大学出版

【論文】

- ・「揺らぐ自由貿易協定が直接投資とグローバル・サプライチェーンに与える影響ーTPPとRCEPの影響に関する分析枠組みー」, 2023年, 『多国籍企業研究』多国籍企業学会, 第16号, pp.35-52 (査読付き)
- ・「台湾の視点から見た中国との政治・経済関係」, 2022年, 『改革者』, 令和4年11月号
- ・「台湾の視点から見たCPTPP参加の意義」, 2022年, 『改革者』, 令和4年8月号
- ・「自由貿易体制の展開とグローバル化: 先行研究の成果と課題」, 2022年, 『IERCU Discussion Paper』中央大学経済研究所, No.373
- ・「The Expansion and Challenges of Free Trade Agreements」, 2019年, 『Journal of the Asia Pacific Business & Economics Research Society』Vol.7, No.1.
- ・「揺らぐ自由貿易下での台湾企業の海外直接投資」, 2019年, 『改革者』, 令和元年9月号
- ・「自由貿易体制の展開と限界」, 2018年, 『RIPESS麗澤大学経済社会総合研究センター Working Paper』, 第89号
- ・「台湾のFTA参加問題と新南向政策」, 2018年, 『改革者』, 平成30年8月号
- ・「圧縮型経済発展と中国の成長ー台湾の経験との比較を通して」, 2015年, 『経済政策ジャーナル』, 第11巻第2号

【研究発表】

- ・「自由貿易の揺らぎが海外直接投資に与える影響ー東アジア主要投資国からTPPとRCEPの加盟国へー」, 2023年, 日本経済政策学会第80回全国大会
- ・「台湾の視点から見た中国との政治・経済関係」, 2022年, 政策研究フォーラム「中国とどう向き合うべきか」研究委員会 (オンライン)
- ・「外国直接投資とグローバル化に関する文献の考察と課題」, 2022年, 多国籍企業学会第14回全国大会
- ・「自由貿易体制の展開とグローバル化: 先行研究の成果と課題」, 2022年, 中央大学経済研究所公開研究会 (オンライン)
- ・「The changes of FDI and global supply chain in Taiwan's apparel industry」, 2020年, ICBEIT 2020 Sydney
- ・「自由貿易体制の揺らぎが台湾企業の海外直接投資に与える影響」, 2020年, 日本経済政策学会第76回全国大会
- ・「The Expansion and the Limit concerning Free Trade Agreement」, 2019年, ICBEIT 2019 Singapore
- ・「自由貿易体制の展開と限界」, 2018年, 麗澤大学経済社会総合研究センター小野プロジェクト研究報告会
- ・「台湾のFTA参加と輸出競争力」, 2018年, 日本経済政策学会第75回全国大会
- ・「圧縮型経済発展と中国の成長ー台湾の経験との比較を通して」, 2013年, 日本経済政策学会第70回全国大会

【書籍翻訳】

- ・「外商顧問超強資料製作術」(中国語繁体字), 2015年, 時報文化出版社 (台湾)
- ・「心想事成的創意整理術」(中国語繁体字), 2015年, 北京聯合出版公司 (中国)
- ・「發明未來的鋼鐵人ー伊隆・馬斯克傳」(中国語繁体字), 2014年, 時報文化出版社 (台湾)

■ 社会貢献活動

- ・公開講座 (鳥取県立図書館 / 2023年6月3日)
- ・国立中興大学 (台湾) 「日本與亞太區域發展」講座担当 (2023年5月2日)
- ・鳥取県公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会 (鳥取砂丘コナン空港第2期コンセッション総合的アドバイザー業務) 委員 (2023年3月～6月)
- ・鳥取空港特定運営事業等中間評価委員会委員 (2021年9月～2022年1月)
- ・鳥取県生活衛生営業審議会委員 (2020年12月)
- ・鳥取空港公共施設等運営権者候補者審査委員会委員 (2018年1月～2月)

**研究キーワード**

まちづくり, 担い手, 縮小社会, 共同性, 買い物支援

倉持 裕彌

KURAMOCHI, Hiromi

地域イノベーション研究センター副センター長
准教授所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

主な担当科目 地域経営論, 社会調査法, コミュニティ・ビジネス論**研究者略歴**

1998 (平成10) 年 3月	立教大学社会学部社会学科卒業
2004 (平成16) 年 3月	立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士前期課程修了
2005 (平成17) 年 7月	財団法人とっとり政策総合研究センター着任
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター講師
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部准教授
2016 (平成28) 年 4月	鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻博士後期課程修了
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター副センター長

Research

取得学位 社会学修士 (立教大学), 博士 (工学) (鳥取大学)**専門分野** 地域社会学, コミュニティ・ビジネス論**現在の研究テーマ**

- ・過疎地におけるコミュニティビジネスに関する研究
- ・地域社会における人口減少による影響に関する研究
- ・買い物支援に関する研究

所属学会 日本地域政策学会, 日本都市社会学会, 地域社会学会, 日本都市計画学会**資格** 専門社会調査士

Data

研究等活動**【著書】**

・「地方創生のための経営学入門」(共著) 2019, 今井出版

【論文】

- ・「過疎地におけるコミュニティビジネスの継続性に関する考察」2022, 『日本地域政策研究』第28号
- ・「エリアマネジメントを活用した商店街の空き店舗対策に関する考察」2017, 『日本政策金融公庫論集』第35号
- ・「中山間地域における高齢者の買い物行動と健康維持に関する実証分析」(共著) 2015, 『都市計画論文集』第50回
- ・「官民の役割分担に着目した移動販売の持続可能性の改善に関する考察」(共著) 2015, 『運輸政策研究』, 第18号
- ・「中山間地域における買い物支援に関する考察 -移動販売に着目して-」(共著) 2014, 『社会技術研究論文集』, 第11号
- ・「空き家を取り巻く諸問題 - 鳥取市・倉吉市空き家実態調査を通して -」2008, 『TORCレポート』, 31号
- ・「地域振興における担い手の活性化の条件 -千葉県栄町商工会青年部の事例-」2005, 『日本都市社会学会年報』, 第23号

【研究報告】

・「観光列車運行に関する事例研究 - 若桜鉄道のSL観光列車運行に向けて -」2013, 『鳥取環境大学紀要』, 第11号

【報告書】

- ・「中山間地域集落再生システム構築事業調査」2019年度, 2020年度, 鳥取県受託研究
- ・「持続的な『小さな拠点』のあり方と検討プロセスに係る研究」2016年度, 鳥取県受託研究
- ・「街なか空き家の実態調査と利活用の検討」2013, 鳥取県受託研究

【研究助成】

- ・「過疎地域において地域再生を支える新たな共同性の構築に関する研究」2022-2024, 科学研究費助成事業
- ・「鳥取県内商店街の活性化に資するテナントミックスに関する実証研究」2017, 鳥取県環境学術研究等振興事業
- ・「縮小社会における空き家問題への制度的対応の検討」2012, 鳥取県環境学術研究等振興事業

社会貢献活動**【委員等】**

- ・鳥取市空家等対策協議会委員
- ・香美町空家等対策協議会委員
- ・岩美町総合戦略推進委員
- 等



研究キーワード

地域振興, 地域農業, 担い手農家, 6次産業

山口 和宏

准教授

YAMAKUCHI, Kazuhiro

所属… 経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Email k-yama@kankyo-u.ac.jp

Profile

■主な担当科目 農業経営論 地域振興論 観光経営論

■研究者略歴

1999 (平成11) 年 3月	九州大学大学院農学研究科 修士課程修了
2004 (平成16) 年 4月	九州大学大学院生物資源環境科学研究科 博士後期課程修了
2004 (平成16) 年 5月	九州大学大学院農学研究院 学術特定研究者
2007 (平成19) 年 5月	佐賀大学海浜台地生物環境研究センター 研究支援推進員
2015 (平成28) 年 4月	一般社団法人北海道地域農業研究所 専任研究員
2019 (平成31) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部 講師
2019 (令和1) 年10月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 講師

経営学部

Research

■取得学位 博士 (農学) (九州大学)

■専門分野 農業経済学 地域振興論

■現在の研究テーマ
・ 6次産業化企業が地域振興に果たす役割に関する研究
・ 地域の農業生産の維持・活性化と消費者に期待される役割
・ 担い手農家の農業所得の確保に向けた経営戦略に関する研究

■受賞歴 2013 (平成25) 年9月 奨励賞 (食農資源経済学会)

■所属学会 日本農業経済学会, 農業問題研究学会, 食農資源経済学会, 日本農業市場学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・ 「農業構造変動の地域分析」 (共著), 2012年, 農山漁村文化協会
- ・ 「集落営農組織の再編と水田農業の担い手」 (共著), 2011年, 筑波書房

【論文】

- ・ 「福岡県における政策転換下の生産調整の取り組み」 (共著), 2020年, 『食農資源経済学論集 第71巻第1号』
- ・ 「北九州地域の構造変化と集落営農組織の実態－佐賀県を事例に－」, 2011年, 『農業問題研究 第44巻第2号』

【報告書】

- ・ 「JAが実施する無料職業紹介事業のニーズに関する調査研究」, 2019年, 北海道地域農業研究所
- ・ 「地方創生における農協・自治体の役割－西日本の先進事例から－」 (共著), 2016年, 北海道地域農業研究所



研究キーワード

予算管理, 政府予算, 革新主義

川崎 紘宗

准教授

KAWASAKI, Hironori

所属… 経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■ 主な担当科目 管理会計, 原価計算論, 商業簿記

■ 研究者略歴

2008 (平成20) 年 3月	松山大学 経営学部 卒業
2010 (平成22) 年 3月	神戸大学大学院 経営学研究科 博士前期過程 修了
2011 (平成23) 年 3月	高松大学 経営学部 助教
2014 (平成26) 年 3月	神戸大学大学院 経営学研究科 博士後期過程 修了
2014 (平成26) 年 4月	高松大学 経営学部 講師
2016 (平成28) 年10月	公立鳥取環境大学 経営学部 講師
2017 (平成29) 年 4月	公立鳥取環境大学 環境経営研究科 経営学専攻 講師
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 環境経営研究科 経営学専攻 准教授

■ 取得学位 博士 (経営学) (神戸大学)

■ 専門分野 管理会計, 予算管理, 政府会計, 会計史

■ 現在の研究テーマ
・ 20世紀初頭のアメリカ政府予算と企業予算との関係性に関する研究
・ アメリカの政府組織と一般企業の組織の管理に革新主義 (効率性と経済性を追求する社会的ムーブメント) の思想が与えた影響についての考察

■ 所属学会 日本管理会計学会, 非営利法人研究学会, 日本簿記学会, 日本原価計算研究学会

■ 研究等活動

【著書】

- ・ 「非営利用語辞典」(共著) (「会計監査人監査組合」, 「価格変動準備金」, 「クラウドリングアウト・イン」, 「予算主義」担当), 2022年, 全国公益法人協会。
- ・ 「図解 簿記・会計の基本テキスト」(共著) (第1章・第3章～5章・第12章担当), 2021年, 同文館出版。
- ・ 「地方創生のための経営学入門」(共著) (第1章担当), 2019年, 今井出版。
- ・ 「近代会計史入門 (第2版)」(共著) (第11章担当), 2019年, 同文館出版。
- ・ 「基礎簿記会計 (四訂版)」(共著) (第11章担当), 2016年, 五紘舎。
- ・ 「新版 現代会計用語辞典」(共著) (「環境マネジメントシステム」, 「最終仕入原価法」, 「持続可能性」, 「製造指図書」担当), 2016年, 税務経理協会。
- ・ 「近代会計史入門」(共著) (第11章担当), 2014年, 同文館出版。

【論文】

- ・ 「会計研究と解釈学—ガダマーの解釈学を中心として—」, 2018年, 『松山大学論集』第30巻第4-2号 69-87頁 (松山大学)。
- ・ 「アメリカ連邦政府における予算制度の変遷」, 2017年, 『研究紀要』第67号(http://www.takamatsu-u.ac.jp/library/O6_gakunaisyupan/kiyo/no67/67_UG002_001-014_kawasaki.pdf) (高松大学)。
- ・ 「McKinseyによるBudgetaryControl (1922) と政府の予算制度」, 2016年, 『研究紀要』第64・65号, 21-37頁 (高松大学)。
- ・ 「20世紀初頭のアメリカの州政府へ導入された新たな予算制度についての考察」, 2015年, 『研究紀要』第62・63号, 113-133頁 (高松大学)。
- ・ 「アメリカ地方州政府の会計におけるChase(1910)の思考」, 2013年, 『研究紀要』第58・59号, 153-165頁 (高松大学)。
- ・ 「予算・会計法の導入の背景と予算編成の手続」, 2013年, 『研究紀要』第58・59号, 77-91頁 (高松大学)。
- ・ 「予算制度に関するタフト委員会の思考」, 2012年, 『研究紀要』第56・57号, 81-109頁 (高松大学)。

■ 社会貢献活動

- ・ 「いまさら聞けない簿記・会計のこと！—簿記や会計の基礎知識を学ぶ—」鳥取環境大学公開講座社会人セミナー (2017年)。
- ・ 鳥取県県土整備部指定管理施設運営評価委員会委員長, 鳥取県県土整備部指定管理候補者審査委員会委員長(2017年-2028年)。
- ・ 「会計学は難しい?! 会計情報の読み方のはなし」とっとり消費者大学「くらしの経済・法律講座」(後期: 公立鳥取環境大学) (2018年-2019年)。



研究キーワード

社会学, 環境指標, 動物倫理, ヴィーガニズム

高井 亨

准教授

TAKAI, Toru

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

■主な担当科目 統計学入門, ミクロ経済学, データ解析, SDGs基礎, 環境評価特論, 経営統計特論

■研究者略歴

2002 (平成14) 年 3月	筑波大学第三学群社会学類都市計画主専攻卒業
2004 (平成16) 年 3月	京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了
2008 (平成20) 年 3月	京都大学大学院経済学研究科経済システム分析専攻博士後期課程修了
2008 (平成20) 年 4月	独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門産総研特別研究員
2012 (平成24) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター講師
2014 (平成26) 年 4月	鳥取環境大学地域イノベーション研究センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部准教授
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授

Research

■取得学位 京都大学博士 (経済学)

■専門分野 社会学

■現在の研究テーマ
・社会学の人文的基礎
・統合型環境指標の開発
・持続可能な発展における動物への配慮
・実行可能な動物倫理の社会実装

■所属学会 進化経済学会, 経済理論学会, 環境科学会, ヒトと動物の関係学会

Data

■研究等活動

【著書】

・「SDGsを考える一歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会」(共編著) (「まえがき」 「0章：風変わりな序章-SDGsの下に埋もれるものたちからSDGsをみつめる」 「3章：世界はSDGsの意味で持続可能か」), ナカニシヤ出版, 2020年

【論文】(特に明示がないものはいずれも単著)

- ・「我々はまだ〈自由〉ではない:ささやかなSDGs入門・応用」『兵庫教育2023・4月号』, 2023年
- ・「自由と環境のつながりからSDGsを考える:我々が変革すべきは何か」『地域づくり2021・12月号』, 2021年
- ・「SDGsの到達度を測るー正射影ベクトルを用いた統合指標作成の試み」『経済論叢』194(1), 2020年
- ・「デカップリング指標の基礎:概念・理論・測定」『公立鳥取環境大学経営学部ディスカッションペーパー』2018-4, 2019年
- ・「デカップリング指標は何を測定しているのか」『環境情報科学学術研究論文集』29, 2015年
- ・「鳥取環境大学が地域におよぼす経済効果の推計」『鳥取環境大学紀要』13, 2015年
- ・「ビプリオバトルによる域学連携の試み」『鳥取環境大学紀要』12, 2014年
- ・「地域コミュニティ支援事業の費用便益分析:鳥取市を例に」『鳥取環境大学紀要』11, 2013年
- ・「シフト・シェア分析を用いた二酸化炭素排出構造の要因分析」『環境情報科学学術研究論文集』26, 2012年
- ・「ヘドニック・アプローチによる地域コミュニティの価値の貨幣評価:鳥取市を例に」『TORCレポート』35, 2012年
- ・「住民選好に基づいた地域コミュニティ支援政策の評価ー鳥取市によるまちづくり協議会への支援事業を対象として」『TORCレポート』35, 2012年
- ・「経済成長と二酸化炭素排出量削減は両立するか-デカップリング概念を用いた国際比較-」『経済論叢』184(2), 2010年
- ・「デカップリング概念と要因分解の統合による持続可能性評価」『環境情報科学論文集』24, 2010年
- ・「情報提供が人々の便益認知およびリスク認知に与える影響:ナノテクノロジー応用製品のケース」(共著・筆頭)『日本リスク研究学会誌』20-3, 2010年
- ・「ナノテクノロジー製品の受容に感情, 信頼および知識の及ぼす影響」(共著・筆頭)『日本リスク研究学会誌』19-4, 2009年
- ・「自治体における環境と経済とのデカップリング状態の評価手法について」(共著・筆頭)『環境情報科学論文集』23, 2009年
- ・「Comparative analysis on eco-efficiency of the local government」(共著・筆頭) Proceedings of The 8th International conference on EcoBalance, 2008年
- ・「家庭内の利他行動を考慮したヘドニック・アプローチ:理論と実証」『進化経済論集』11, 2007年
- ・「ヘドニック・アプローチによる原子力事故の影響評価」『日本リスク研究学会講演論文集』18, 2005年

【報告書】

・「住民選好にもとづく地域交通体系への政策提言」『地域イノベーション研究』3, 2016年
ほか

■社会貢献活動

- ・J A鳥取県中央会年次総会での講演 (2019年6月)
- ・鳥取県教育委員会指定管理候補者審査・指定管理施設運営評価委員会 委員長 (2018年度)
- ・鳥取市消費者市民まつりシンポジウム パネリスト (2017年3月)
- ・鳥取県立鳥取西高等学校「思索と表現 (文部科学省SGH事業)」講師 (2016年度) ほか



研究キーワード

リアリティ・ショック, ワーク・ライフ・バランス

中島 智子

准教授

NAKAJIMA, Satoko

所属…経営学部 経営学科

■主な担当科目 経営学入門, 経営組織論1・2

■研究者略歴

2004 (平成16) 年 3月	立命館大学国際関係学部国際関係学科卒業 学士 (国際関係学)
2006 (平成18) 年 3月	立命館大学大学院国際関係研究科博士前期課程国際関係学専攻修了 修士 (国際関係学)
2006 (平成18) 年 4月	大阪電気通信大学専任事務職員 (~ 2022年3月)
2015 (平成27) 年 9月	兵庫県立大学大学院経営研究科専門職学位課程経営専門職専攻修了 経営管理修士 (専門職)
2021 (令和 3) 年 3月	兵庫県立大学大学院経営学研究科博士後期課程経営学専攻修了 博士 (経営学)
2021 (令和 3) 年 4月	兵庫県立大学国際商経学部客員研究員 (~ 2022年3月)
2022 (令和 4) 年 4月	函館大学商学部商学科専任講師
2024 (令和 6) 年 4月	函館大学商学部商学科准教授
2025 (令和 7) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授

■取得学位 博士 (経営学) (兵庫県立大学)

■専門分野 経営組織論, 人的資源管理論, 組織行動論

■現在の研究テーマ
・若年層のリアリティ・ショックに関する研究
・若年層のワーク・ライフ・バランスに関する研究

■所属学会 日本経営学会, 日本労務学会, 経営行動科学学会

■研究等活動

【論文】

- ・「ワーク・ライフ・バランス施策が私生活満足に与える影響」, 2024年, 昇格審査論文, (函館大学)
- ・「リアリティ・ショックによる離職意思の緩和に関する研究」, 2021年, 博士論文 (兵庫県立大学)
- ・「リアリティ・ショックによる離職意思の緩和のための生活満足の影響」, 2021年, 星陵台論集 第53巻2号
- ・「リアリティ・ショックの緩和」, 2019年, 星陵台論集, 第51巻3号
- ・「リアリティ・ショック研究の進展と課題」, 2017年, 星陵台論集, 第50巻2号
- ・「若年者の離職に関する一考察—自己効力感研究の視点から—」, 2015年, 商大ビジネスレビュー第5巻1号, 専門職学位論文 (兵庫県立大学)

【学会発表】

- ・「ワーク・ライフ・バランス施策が若年層の私生活満足に与える影響」(共同発表 千田直毅・三崎秀央), 2024年, 経営行動科学学会全国大会
- ・「ワーク・ライフ・バランス施策が生活満足に与える影響」2022年, 日本経営学会全国大会
- ・「ワーク・ライフ・バランス施策が生活満足に与える影響」2022年, 日本経営学会関西西部会
- ・「リアリティ・ショックによる離職意思に対する生活満足の影響」2021年, 日本労務学会全国大会
- ・「リアリティ・ショックの緩和に関する実証分析」2020年, 日本労務学会関西西部会

【その他】

- ・函館新聞 函館大学講座「若年就業者の組織定着について」, 2025年
- ・函館新聞 函館大学講座「地域中小企業の海外進出について」, 2022年

【外部資金獲得】

- ・科研費 (若手研究) 「リカバリー経験がワーク・エンゲイジメントに与える影響」(代表者), 2025 ~ 2027年度

■社会貢献活動

- ・2024年4月~ 2026年3月 経営行動科学学会, 編集委員 (運営担当)
- ・2024年4月~ 2025年3月 函館市空家等対策協議会委員
- ・2023年4月~ 2025年3月 函館市指定管理者候補者選定委員会 外部委員
- ・2023年4月~ 2025年3月 市立函館病院地域医療支援病院運営委員会委員
- ・2024年9月 キャンパスコンソーシアム函館 合同公開講座 函館西高校「経営学入門 モチベーションを考えよう」講演
- ・2024年11月 函館大学講座「若年就業者の組織定着について」講演
- ・2025年3月 函館中央警察署「若年職員の離職防止について」講演



研究キーワード

PPP (官民連携), NPO

下境 芳典

准教授

SHIMOSAKAI, Yoshinori

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■主な担当科目	非営利組織論, 公共経営論, 地域政策論
■研究者略歴	
2021 (令和 3) 年 3月	東北大学大学院経済学研究科博士後期課程 修了
2021 (令和 3) 年 4月	東日本国際大学経済経営学部経済経営学科 准教授
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科 准教授
2025 (令和 7) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 准教授

■取得学位	博士 (経営学) (東北大学)
■専門分野	経営学, 非営利組織論, 公共経営論
■現在の研究テーマ	・経営学領域で培われた理論の非営利組織への応用
■所属学会	日本マネジメント学会, 組織学会 日本NPO学会

■研究等活動

【著書】

・『東日本大震災から見る現代日本社会』(共編), 2019年, 東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター

【論文】

- ・「The Relationship Between Public-Private Partnership and Creating Shared Value: a Case study of Y-Port Project in Yokohama City」, 2023年, 『東日本国際大学研究紀要』 No.28 1号
- ・「ステークホルダー理論を事例研究の分析フレームワーク化する試み」, 2023年, 『現代社会研究』(20)
- ・「エージェンシー関係とスチュワードシップ関係の併存—独立行政法人を例にした考察—」, 2022年, 『東日本国際大学研究紀要』 No.27 1号
- ・「組織のトップの属性と経営の効率化の関係—独立行政法人を対象にした実証研究—」, 2021年, 『現代社会研究』(18)
- ・「新しい企業成長モデルの構築と実験的実証」, 2016年, 『経営教育研究』19(1)

【学会発表】

- ・「学生アンケートに見るGMS衰退の原因—イトーヨーカドー平店を例に—」, 2024年, 日本マネジメント学会北海道東北部会
- ・「エージェンシー関係とスチュワードシップ関係の併存—独立行政法人を例にした考察—」, 2022年, 日本マネジメント学会北海道東北部会
- ・「スチュワードシップ理論に基づく行政機関マネジメントの検証—独立行政法人の役員構成と業績評価—」, 2020年, 組織学会研究発表大会
- ・「スチュワードシップ理論による独立行政法人の考察」, 2019年, 日本マネジメント学会北海道東北部会
- ・「Top Management of Incorporated Administrative Agencies(IAAs) in Japan」, 2019年, International Society for Third-Sector Research Asia Pacific PhD Seminar
- ・「独立行政法人のトップマネジメントと業績評価」, 2019年, 組織学会研究発表大会
- ・「独立行政法人のトップマネジメントに関する実証研究」, 2018年, 日本マネジメント学会北海道東北部会
- ・「Relevance of PPP and CSV: case study of Y-Port Project in Yokohama City」, 2018年, International Conference on Social Enterprise in Asia (ICSEA) 5th Conference
- ・「官民連携による公益事業の海外展開—横浜市の中企業の事例—」, 2017年, 公益事業学会関東部会
- ・「対境理論を事例研究のフレームワーク化することの検証」, 2017年, 日本マネジメント学会第75回全国研究大会
- ・「ベンチャー企業の成長理論に関する一考察」, 2015年, 日本マネジメント学会関東部会
- ・「独立行政法人理化学研究所の産学連携」, 2014年, 第69回日本マネジメント学会全国大会ポスターセッション

■社会貢献活動

- ・第2次三和町まちづくり基本構想策定事業コーディネーター (2023年)
- ・いわき市まちづくり市民会議 (2022年~2023年)
- ・JR東日本いわき駅浜通り観光振興プロジェクト (2022年)
- ・放送大学 福島学習センター・いわきサテライトスペース 客員教員 (2022年)
- ・いわきヒューマンカレッジ (市民大学) 講師 (2022年~2023年)



研究キーワード

介護サービス産業, 地域労働市場, 介護サービス労働力, 介護福祉士, 外国人介護職員

佐藤 彩子

SATO, Ayako

准教授

所属…経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

主な担当科目

地域経済論, 地域産業論, ワークショップ

研究者略歴

Table with 3 columns: Year, Month, and Position/Institution. Includes graduation from Kyushu University and various research roles.

Research

取得学位

博士(経済学)(九州大学)

専門分野

地域経済学, 経済地理学

現在の研究テーマ

- 介護サービスの産業特性に関する研究
介護サービス地域労働市場に関する研究
外国人介護職員の流入過程と就業特性に関する研究

所属学会

経済地理学会, 日本地理学会, 地理科学学会, 日本地域経済学会, 日本地域政策学会, 日本老年社会学会, 九州経済学会, 移民政策学会

Data

研究等活動

- 著書: 地方創生のための経営学入門(共著), 2019年, 今井出版
論文・紀要: 国内周辺地域における特別養護老人ホーム介護職員の就業と定着: 福岡県筑豊地域を事例として, 2025年
報告書: 日本で働く外国人労働者-福岡県の外国人介護職員に焦点を当てて-, 2021年
学会発表: 地方圏で働く介護職員の職業経歴と定着プロセス: 福岡県筑豊地域の特別養護老人ホームを対象として, 2020年
研究助成: 若者を含めた関係人口に対する地域としての関わり方に関する調査研究, 代表, 2020年7月~2021年3月

社会貢献活動

- 令和6年度鳥取県教育研究大会(鳥取県探求成果等発表会), 集評, 2025年2月
(株)JUS「介護業界の人手不足の解決策は? データを基にした現状と原因, 対策も含めてわかりやすく解説」
鳥取県公営住宅入居者支援のあり方検討会, 座長, 2022年6月~2023年3月
鳥取県補助金等審査会及び鳥取県表彰・認定等審査会(令和新时代創造県民運動推進委員会), 委員, 2022年4月~2023年3月

研究キーワード

社会的受容性, 再生可能エネルギー, 風力発電, 選択型実験



岩田 健吾

IWATA, Kengo

講師

所属…経営学部 経営学科

Profile

■主な担当科目 環境経営論, 共生経営論

■研究者略歴

2017 (平成29) 年 3月	京都大学大学院 農学研究科 修士課程修了
2020 (令和 2) 年10月	津市立三重短期大学 法経科 非常勤講師
2021 (令和 3) 年 4月	金沢大学 人間社会学域経済学類 非常勤講師
2022 (令和 4) 年 4月	京都大学 再生可能エネルギー講座 リサーチ・アシスタント
2022 (令和 4) 年10月	同志社大学 経済学部 非常勤講師
2023 (令和 5) 年 3月	京都大学大学院 地球環境学堂 博士後期課程修了
2023 (令和 5) 年 4月	京都大学経済研究所 (先端政策分析研究センター) 研究員
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 特任講師
2025 (令和 7) 年 4月	公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 講師

Research

■取得学位 博士 (地球環境学) (京都大学)

■専門分野 環境経済学, エネルギー経済論

■現在の研究テーマ
・再生可能エネルギー (再エネ) の社会的受容性に関する研究
・再エネに対する人々の選好評価
・再エネの地域経済効果分析

■所属学会 環境経済・政策学会, 日本風力エネルギー学会, 国際公共経済学会

Data

■研究等活動

【著書】

- ・「陸上風力発電に対する住民の選好 - 配分的正義に着目した選択型実験による分析 -」 (共著) 2024年『KIER Discussion Paper Series』 No.2303
- ・「Local Citizens' Preferences for Offshore Wind Turbine Development: An Empirical Evidence from Four Prospective Prefectures in Japan」 (共著) 2024年『KIER Discussion Paper Series』 No.1101
- ・「木質バイオマスCHP事業の地域経済効果分析と先進技術の内製化を通じた地域付加価値の向上に関する考察 ~宮崎県串間市の地域付加価値分析を通して~」 (共著, 責任著者) 2023年『国際公共経済研究』, 第34巻第1号
- ・「洋上風力の地域受容性に関する定量評価: 香川県を対象としたアンケート調査により得られた証拠」 (共著, 筆頭) 2023年『電気学会研究会資料』
- ・「Public attitudes of offshore wind energy in Japan: An empirical study using choice experiments」 (共著, 筆頭) 2023年『Cleaner Energy Systems』 4, 100052.
- ・「Quantitative Evaluation on Community Acceptance of Offshore Wind Farms: Evidence from Questionnaire Survey of Iki City」 (共著, 筆頭) 2022年『The university of Kitakyushu Working Paper Series』 No.2022-2.
- ・「Social Acceptance of Wind Turbines: An Empirical Study Using Choice Experiments」 (共著, 筆頭) 2022年『43rd IAEE International Conference.』
- ・「The advocacy coalition framework in Japan: Contributions to policy process studies and the challenges involved」 (共著) 2021年『Review of Policy Research』 39(1), 32-50.
- ・「森林生態系サービスの経済価値評価-滋賀県の水源林を事例として」 (共著, 筆頭) 2021年『森林応用研究』, 第30巻第1号
- ・「表明選好法を用いた風力発電の社会的受容に関する論文レビュー」 (単著) 2020年『京都大学大学院経済学研究科 再生可能エネルギー経済学講座 ディスカッション・ペーパー』 No.13

【学会発表】

- ・「Local Citizens' Preferences for Offshore Wind Turbine Projects: An Empirical Evidence from Four Prospective Prefectures in Japan」, 2024年, The 13th Congress of the Asian Association of Environmental and Resource Economics
- ・「Preferences for Offshore Wind Energy in the Four Promoting Prefectures: Evidence from a Choice Experiment Study」, 2023年, 環境経済・政策学会 SEEPSワークショップ
- ・「洋上風力に対する選好評価: 選択型実験を用いて」, 2023年, 第45回風力エネルギー利用シンポジウム
- ・「Heterogeneity of Preferences for Offshore Wind Power in the Four Promoting Prefectures in Japan: Evidence from a Choice Experiment Study」, 2023年, 環境経済・政策学会 2023年大会
- ・「Heterogeneous Preferences for Offshore Wind Turbines in Japan: A Choice Experiment Study」, 2023年, The 12th Congress of the Asian Association of Environmental and Resource Economics (AAERE)
- ・「洋上風力の地域受容性に関する定量評価: 香川県を対象としたアンケート調査により得られた証拠」, 2023年, 電気学会 新エネルギー・環境/電力技術/高電圧合同研究会
- ・「木質バイオマスCHP事業の地域経済効果分析と先進技術の内製化を通じた地域付加価値の向上に関する考察 ~宮崎県串間市の地域付加価値分析を通して~」, 2022年, 国際公共経済学会 第37回研究大会
- ・「Public attitudes of offshore wind energy in Japan: An empirical study using choice experiments」, 2022年, 環境経済・政策学会 2022年大会
- ・「Social acceptance of offshore wind turbines in Japan: An empirical study using choice experiments」, 2022年, The 11th Congress of the Asian Association of Environmental and Resource Economics (AAERE)
- ・「Social acceptance of offshore wind turbines in Japan: An empirical study using choice experiments」, 2022年, 43rd IAEE INTERNATIONAL CONFERENCE
- ・「洋上風力発電に対する社会的受容性: 選択型実験を用いた選好分析」, 2022年, 電気学会 新エネルギー・環境/電力技術/高電圧合同研究会
- ・「森林生態系サービスの空間的経済評価」, 2017年, 第128回 日本森林学会大会

■社会貢献活動

- ・2024年10月 ほくえい未来トーク2024「北栄町まるごとゼロカーボン」講師



研究キーワード

センサーネットワーク, インターネットアプリケーション, デジタルアーカイブ, メタデータ, IoT

今井 正和

IMAI, Masakazu

人間形成教育センター長
教授

所属…人間形成教育センター, 経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

Profile

主な担当科目

データベース

研究者略歴

Table with 4 columns: Year (西暦/和暦), Month, Position, and Institution. Lists career milestones from 1982 to 2022.

Research

取得学位

工学博士 (大阪大学)

専門分野

インターネット応用, 環境計測, デジタルアーカイブ

現在の研究テーマ

- ネットワークを使用した密な気象データの収集
- ネットワークを用いた場の共有
- 情報の蓄積と活用

受賞歴

- 1996 (平成 8) 年3月 電子情報通信学会第7回データ工学ワークショップ (DEWS' 96) 最優秀論文賞
- 2004 (平成16) 年9月 電子情報通信学会情報システムソサエティ活動功労賞
- 2007 (平成19) 年1月 JGN2利用促進賞 (地域貢献優秀賞)
- (JBプロジェクト, 地域間相互接続実験プロジェクトII)
- 2008 (平成20) 年1月 JGN2アワード地域貢献・人材育成賞
- (JBプロジェクト, 地域間相互接続実験プロジェクトII)
- 2015 (平成27) 年6月 中国情報通信懇談会 地域情報化貢献賞

所属学会

IEEE, 電子情報通信学会, 情報処理学会, 人工知能学会, システム制御情報学会

Data

研究等活動

【著書】

- 「第15話 ロボコップの作り方 ー脳とコンピュータの違い」, 地球環境時代のIT読本, 2002年, 丸善 (共著)
- 「第4章 電子図書館と分散大規模ネットワーク」, 電子図書館とマルチメディア・ネットワーク, 1996年12月, 日本図書館協会 (共著)

【論文】

- 「Implementation of high-definition lecture recording system for daily use」 (共著), 2013年, Proc. of EDUCON2013, pp. 510-525
- 「Live E!を活用した小学生の理科学習を支援するシステム」 (共著), 2012年, インターネットコンファレンス2012論文集, pp.115-116
- 「クラウド時代のデータ保存」 (単著), 2012年, 印刷雑誌, Vol. 95, No. 3, pp.7-12
- 「クラウド時代にどのようにデータを保存し, 残していくか」, 2011年, 画像4学会合同研究会「画像資産の復元と伝承」
- 「講義ビデオの活用に向けた講義音声の発話特徴分析」 (共著), 2011年, 情報処理学会教育学習支援情報システム研究会
- 「鳥取-熊本間での講義ビデオ遠隔自動収録の試みについて」 (共著), 2010年, 情報処理学会教育学習支援情報システム研究会
- 「Live E!データ可視化アプリケーションの開発」 (共著), 2009年, 電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- 「Live E!センサの日南町への展開」 (共著), 2009年, 電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- 「空間的に密な温度変化を計測するシステムの構築」 (共著), 2009年, 電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- 「センサ設置場所が計測結果に与える影響」 (共著), 2008年, 電子情報通信学会インターネットアーキテクチャ研究会
- 「考古学写真のメタデータとそのデータベース構築への応用」 (単著), 2008年, 情報処理学会デジタルドキュメント研究会
- 「鳥取環境大学のセンサ設置について ー日南のセンサ日陰のセンサー」 (共著), 2007年, Live E! シンポジウム2007
- 「メタデータを用いた考古学遺跡写真ライブラリの構築」 (共著), 2007年, 日本情報考古学会誌「情報考古学」, Vol. 13, No. 1
- 「地域ネットワークを利用した高校への遠隔授業」 (単著), 2007年, 第8回 インターネットテクノロジーワークショップ
- 「考古学写真デジタルライブラリ」 (共著), 2007年, 第8回 インターネットテクノロジーワークショップ
- 「An Experiment Using JGN v6 at Tottori University of Environmental Studies」 (共著), 2004年, Proc. of SAINT 2004 Workshops
- 「Hand Pose Estimation for Vision-based Human Interfaces」 (共著), 2003年, IEEE Transactions on Industrial Electronics, Vol. 50, No. 4
- 「考古学遺跡写真ライブラリの構築」 (共著), 2002年, 日本情報考古学会誌「情報考古学」, Vol. 7, No. 2

社会貢献活動

- 鳥取県ICT活用教育推進協議会座長 (2014年)
- 鳥取市公文書管理のあり方等研究会委員長 (2015年)
- 鳥取県私立学校審議会会長 (2016年~2023年)
- 鳥取県教育審議会会長 (2024年~)



研究キーワード

スケジューリング, マックスプラス代数, 離散

久保 奨

KUBO, Susumu

人間形成教育センター副センター長
(AI・数理・データサイエンス副専攻担当)
准教授

所属…人間形成教育センター, 経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻

✉ s-kubo@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ **主な担当科目** 情報リテラシ2, データサイエンス, データサイエンス実践演習, AMD実践演習A

研究者略歴

2003 (平成15) 年 3月	東京大学工学部物理工学科卒業
2005 (平成17) 年 3月	東京大学大学院数理科学研究科数理科学専攻修士課程修了
2005 (平成17) 年 4月	総務省 (統計局, 総合通信基盤局など. 内閣府などにも出向~ 2020年6月)
2018 (平成30) 年 3月	東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了, 博士 (学術)
2020 (令和 2) 年 7月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授 (~現在)
2021 (令和 3) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授 (~現在)
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科経営学専攻准教授 (~現在)
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長 (~現在)

Research

■ **取得学位** 博士 (学術) (東京大学)

■ **専門分野** オペレーションズ・リサーチ, 応用数学

■ **現在の研究テーマ** ・ マックスプラス代数を用いたスケジューリング問題の理論的研究
・ マックスプラス代数の性質に関する研究

■ **受賞歴** 2024年11月 FIT船井ベストペーパー賞 (情報処理学会)

■ **所属学会** 日本応用数学会, 日本数学会, 情報処理学会

Data

研究等活動

【著書】

・ 「データサイエンス発展演習: 日本統計学会公式認定統計検定データサイエンス発展対応」 (共著), 2024年, 東京図書

【論文】

- ・ 「Composition orderings for linear functions and matrix multiplication orderings」 (共著), 2024年, 35th International Symposium on Algorithms and Computation, LIPIcs, Volume 322
- ・ 「一次関数の合成順と行列の積順」 (共著), 2024年, 情報科学技術フォーラム講演論文集, Volume 23(1)
- ・ 「An algebraic expression of the number partitioning problem」 (共著), 2020年, Discrete Applied Mathematics, Volume 285
- ・ 「Basic r-symmetric tropical polynomials」, 2019年, Journal of Pure and Applied Algebra, Volume 223
- ・ 「Applications of max-plus algebra to flow shop scheduling problems」 (共著), 2018年, Discrete Applied Mathematics, Volume 247

【口頭発表】

- ・ 「Composition Orderings for Linear Functions and Matrix Multiplication Orderings」, 2024年, The 35th International Symposium on Algorithms and Computation
- ・ 「行列の積順問題」, 2024年, 公立鳥取環境大学応用数理研究交流会
- ・ 「一次関数の合成順と行列の積順」, 2024年, 第23回情報科学技術フォーラム
- ・ 「分割問題の構造解析」, 2023年, 公立鳥取環境大学応用数理研究交流会
- ・ 「マックスプラス代数と組合せ最適化問題」, 2022年, モビリティ基盤数理ユニット
- ・ 「max-plus代数における対称式」, 2021年, 日本応用数学会年会
- ・ 「max-plus代数とスケジューリング問題」, 2018年, 日本応用数学会年会

【MISC】

- ・ 統計寸評「確率変数の再考」, 月刊誌「統計」75(10), 2024年10月
- ・ 書評「実践 自分で調べる技術」宮内泰介・上田昌文著, 月刊誌「統計」72(9), 2021年9月
- ・ Pythonで機械学習入門~分類を事例に~, ESTRELA 327, 2021年6月
- ・ 英国王立統計学会Significanceから「地球から太陽までの距離は?」, 月刊誌「統計」70(2), 2019年2月

【その他】

- ・ 令和4年度モビリティ基盤数理研究ユニット 研究協力者, 京都大学・トヨタ自動車
- ・ 令和2年度卓越研究員 (マックスプラス代数を用いた離散最適化問題の理論的研究), 文部科学省

社会貢献活動

- ・ 鳥取県教育研究大会 (鳥取県探求成果等発表会) 審査会審査員, 2025年, 鳥取県
- ・ 鳥取湖陵高等学校情報科学科課題研究発表会の指導・助言, 2024年, 鳥取県
- ・ 鳥取県高校生理数科大研究等発表会審査会審査委員, 2024年, 鳥取県
- ・ 統計情報活用講座の研修講師, 2023年, 鳥取県
- ・ 科学の甲子園ジュニア全国大会に向けた研修会講師, 2021年~, 鳥取県
- ・ 県立高校・大学教員の教員交流事業 (青谷高校での授業), 2020年~, 鳥取県
- ・ 鳥取県小中高生プログラミングコンテスト最終審査委員, 2020年~ 2023年, 一般社団法人鳥取県情報産業協会
- ・ 統計検定C B T委員会分科会委員, 2019年~ 2024年, 一般財団法人統計質保証推進協会



研究キーワード

英語教育, コミュニケーション不安, 音響分析

中村 弘子

教授

NAKAMURA, Hiroko

所属…人間形成教育センター

URL www.kankyo-u.ac.jp/~h-nakamu/

E-mail h-nakamu@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目

Intensive English

研究者略歴

1985 (昭和60) 年 3月	神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒業
1988 (昭和63) 年 3月	神戸市外国語大学大学院外国語学研究所修士課程英語学専攻修了
1988 (昭和63) 年 8月	米国イリノイ州立南イリノイ大学大学院修士課程言語障害学科入学
1989 (平成 元) 年 6月	国際ロータリー財団の奨学金給付期間終了後帰国
1990 (平成 2) 年 4月	パルモア学院専門学校専任教員
1991 (平成 3) 年 4月	大阪外国語大学外国語学部非常勤講師
2002 (平成14) 年 4月	筑波大学外国語センター非常勤講師
2003 (平成15) 年 9月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程入学
2004 (平成16) 年 6月	米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程修了
2009 (平成21) 年 9月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授

Research

取得学位

学術博士 (神戸大学), 文学修士 (神戸市外国語大学), Master of Arts (コネチカット大学)

専門分野

英語教育, 応用言語学, 言語障害

現在の研究テーマ

- 日本人のコミュニケーション不安と外国語学習不安
- 日本人のコミュニケーション不安に関する音響学的分析
- 言語リズムの習得と母語の干渉について

受賞歴

1988年 国際ロータリー財団大学院留学奨学生

所属学会

大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本音声学会, ことばの科学会

資格

実用英語技能検定1級, TOEIC®スコア950点, 高等学校教諭専修免許状 (英語)

Data

研究等活動

【著書】

- 『大学・高専・短大生のための英文法再入門』(分担執筆), 2019, 開拓社
- 『文法の獲得』(分担執筆), 2007, 『ことばの認知と仕組み—ことばの科学の最前線』三省堂
- 『一語文期における母国語の影響に関する一考察—bye-bye vocalizationの日本語比較』(分担執筆)『ことばの心理と学習』1998, 金星堂

【論文】

- Effects of Personality Traits and Affective Factors on English Prosodic Features in Japanese University Students: Acoustic and Physiological Analyses. (共著) 2024. *JACET Selected Paper 10, 101-131.*
- Effects of L1 and L2 communication apprehension on speaking skills of Japanese university students. (共著) . 2023. *English Language Teaching, 16(5), 1-9.*
- [L1およびL2における情意要因が英語朗読時の心拍数や韻律的特徴に与える影響] (共著) . 2023, 『ことばの科学研究』第24号, 55-76.
- 『性格的特性および情意要因が日本人大学生のスピーキング・スキルに及ぼす影響』, 2022, 『ことばの科学研究』第23号, 23-41.
- An acoustic study of communication apprehension during English oral presentations by Japanese university students (共著) . 2020. *English Language Teaching, 13(8), 178-184.*
- 『文法基礎知識と英文読解力の向上』(2018), 『英語学論説資料』第50号 論説資料保存会
- 『母語でのコミュニケーション不安が英語学習に及ぼす影響について』2016, 『ことばの科学研究』第16号
- A comparative study of vocal fundamental frequency in the speech of Japanese and American hearing-impaired children (共著) . 2007. *Logopedics, Phoniatrics, Vocology, 32, 17-22.*
- Effect of ambient language in the period of first words: bye-bye vocalizations of Japanese and American children. (共著) . 2000. *Asia Pacific Journal of Speech, Language, and Hearing, 5(1), 35-43.*

【翻訳】

- 『人間の動機づけと感情における認知』(分担執筆), 2002, 『感情の社会生理心理学』金子書房

【辞典】

- 『スピーキングのモデル』『サーキットモデル』『ロゴジェンモデル』『サーチモデル』他, 2003, 『応用言語学辞典』, 研究社

【国際会議】

- Effects of personality traits and affective factors on English prosodic features in Japanese university students: Acoustic and physiological analyses. 2024. *The 63rd JACET International Convention*, Nagoya, Japan
- Effects of personality traits and affective factors of Japanese university students on English prosodic features: Acoustic and physiological analyses. 2023. *The 62nd JACET International Convention*, Tokyo, Japan
- An acoustic study on the effects of personality traits and affective factors on speaking skills of Japanese university students. 2022. *The 61st JACET Online International Convention*.
- The effect of affective factors on L2 proficiency. 2021. *PronSIG's Online Conference for International Association of Teachers of a Foreign Language*. London, England
- FO Analysis for the Oral Presentation in English by Japanese University Students. 2017. *Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*. International University of Health and Welfare, Narita, Japan
- Communication Apprehension and L2 Learning Anxiety in Japanese, Korean, and Taiwanese University Students. (共著). 2013. *Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*. Chung Shan Medical University, Taichung City, Taiwan
- L1 Communication Apprehension among Asian University Students. 2011. *Asian Pacific Conference on Speech, Language and Hearing*. Christchurch, New Zealand

社会貢献活動

- 文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」支援シンポジウム, 2023年12月
- 全国語学教育学会 (JALT)鳥取支部役員(2022年12月~)
- 高円宮杯英語弁論大会鳥取予選副審査委員長 (2024年10月)
- 放送大学鳥取学習センター面接授業担当 (2019年11月~12月; 2023年5月)
- 『授業に役立つ英語音声』, 2014年~2020年, 8月, 教員免許状更新講習
- 『TOEICセミナー』, 2012年10月~11月, 2014年9月, 2016年, 8月~9月, 2019年, 9月, 2021年, 2月~3月, 公立鳥取環境大学公開講座
- 第30回兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬支部予選審査委員長, 2015年10月
- 『東アジアの英語教育とコミュニケーション不安について』, 2015年7月, 鳥取大学グローバル化社会における多文化共生のための協働育成プログラム
- 公益信託とりぎん青い鳥基金運営委員 (2014年9月~2020年3月)

人間形成教育センター

**研究キーワード**

非ネイティブの意識, 順番勉強法

徳山 瑞文

教授

TOKUYAMA, Mizufumi

所属…人間形成教育センター

tokuyama@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目 Intensive English 1, 2, 3, 4, 6, 8**研究者略歴**

1987 (昭和62) 年 7月 中国東北師範大学外国語学部英語学科卒業

1987 (昭和62) 年 7月 中国吉林省教育学院 英語教師

1999 (平成11) 年 4月 鳥取県立青谷高等学校にて日本文部省JETプログラムの外国語助手 (ALT)

2003 (平成15) 年 3月 鳥取大学大学院教育学部教育学研究科教科英語教育修了

2003 (平成15) 年 4月 鳥取環境大学 英語非常勤講師

2017 (平成29) 年 4月 鳥取環境大学 英語特任講師

2019 (平成31) 年 4月 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 教授

Research

取得学位 教科教育修士 (鳥取大学)**専門分野** 英語教育**現在の研究テーマ** ・日本人の英語勉強法に関する研究
・英語能力の尺度「CEFR」に関する研究**受賞歴** 1998年9月 中国吉林省教育学院 青年優秀教師賞**所属学会** 日本全国英語教育学会, 中国地区英語教育学会**資格** 中国大学教師資格

人間形成教育センター

Data

研究等活動**【報告書】**

・「Is It Necessary to Use "All English" for the Classes of ESL?」2015年, 中国地区英語教育学会

【論文】

・「English Education of the New Century in Japan -- Examination of ALT's Functions through the Analyses of Junior High School New Textbooks and the New Strategies of English Education」, 2003年, 「鳥取大学英語研究」第4号

社会貢献活動

・2013年1月から2017年3月の間, 鳥取NHK文化センターにて英会話教室教師



研究キーワード

構成的数学, モデル検査, 定理証明

吉田 聡

教授

YOSHIDA, Satoru

所属…人間形成教育センター

<http://misc.kankyo-u.ac.jp/~satoru-y/>

Profile

■ 主な担当科目	数理基礎, 微分積分学, 離散数学
■ 研究者略歴	
2003 (平成15) 年 3月	北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程 修了
2003 (平成15) 年 4月	石川県立松任高等学校臨時的任用講師
2005 (平成17) 年 8月	産業技術総合研究所・産総研特別研究員
2009 (平成21) 年 8月	鳥取環境大学情報システム学科講師
2013 (平成25) 年10月	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2018 (平成30) 年 4月	公立鳥取環境大学情報メディアセンター副センター長
2020 (令和 2) 年 4月	公立鳥取環境大学副学長補佐
2021 (令和 3) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授

Research

■ 取得学位	博士 (情報科学) (北陸先端科学技術大学院大学)
■ 専門分野	数理論理学
■ 現在の研究テーマ	・ 解析学理論の計算可能性の研究 ・ 数理的技法によるコンピュータシステムの検証に関する研究
■ 所属学会	日本数学会, 日本科学哲学会

Data

■ 研究等活動	
【報告書】	
	・ 「A note on upper continuity properties of relations」 (共著), Rep. Fac. Sci. (鹿児島大学), vol. 54(2021), pp.1-7.
	・ 「A note on continuity properties of relations」 (共著), 2019年, Rep. Fac. Sci. (鹿児島大学), vol.52, pp.1-6.
	・ 「On a certain discontinuous mapping as a continuous relation」 (共著), 2018年, 京都大学数理解析研究所講究録2083, pp150-155.
	・ 「ソフトウェア更新システムプロトコルの様相論理S4に基づく検証」, 2016年, 公立鳥取環境大学紀要, vol. 14, pp.95-103.
【口頭発表】	
	・ 「choice と lambda-tequique」, 2023年9月, 第34回代数, 論理, 幾何と情報科学研究集会(ALGI), 湘南工科大学.
	・ 「構成的解析学における関係の連続性」, 2021年8月, 第38回記号論理と情報科学 研究集会.
	・ 「関係の各点連続性と点列連続性」, 2020年2月, 第7回山陰基礎論・解析学研究集会, 米子コンベンションセンター.
	・ 「システム開発の基盤となる能力育成への大学教育の試み」, 2017年9月, Tsukuba Software Science Seminar, 産業技術総合研究所.
	・ 「構成的数学の体系と実践」, 2017年6月, 第179回数学文献を読む会, 共立出版社.
	・ 「様相論理S4に基づくプロトコル検証」, 2016年8月, 第27回代数, 論理, 幾何と情報科学研究集会(ALGI), 信州大学.
■ 社会貢献活動	
	・ 鳥取大学地域創成プログラム推進委員, 2020, 2021年度.
	・ 鳥取県立八頭高等学校「探求ゼミ」講師, 2016年度～2024年度, 鳥取県立高等学校・大学教員交流事業.
	・ 鳥取県中高校生プログラミングコンテスト (主催: 鳥取県情報産業協会) 審査員, 2024年度.
	・ 鳥取大学附属幼稚園学校評議員, 2023, 2024年度



研究キーワード

発音, 談話イントネーション, コミュニケーション能力

バンヴィル ショーン

准教授

BANVILLE, Sean

所属…人間形成教育センター

URL <https://breakingnewsenglish.com/>

banville@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目	Intensive English 1, 2, 3, 5, 7
■ 研究者略歴	
1987 (昭和62) 年 6月	カーディフ大学, ウェールズ, UK 卒業 (学士: 会計学)
1993 (平成 5) 年 7月	ブリティッシュカウンシル, トルコ 卒業
1994 (平成 6) 年 1月	エンサイクロピーディア プリタニカ (神戸) 入社 (ナショナル ティーチャー トレーナー, スクールマネージャー)
1998 (平成10) 年 1月	プリンスフォード イングリッシュ カレッジ (大阪) 入社 カリキュラムデザイン, カレッジマネージャー, ティーチャートレーナー
2003 (平成15) 年 9月	パーミンガム大学 イギリス 修了 (修士: TEFL/TESL)
2006 (平成18) 年 1月	Higher Colleges of Technology ファンデーションコース チームリーダー アブダビ女子大学・カリキュラムデザイン, オンラインレッスン アラブ首長国連邦・ブレンディッドラーニング チームリーダー
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学 非常勤講師
2016 (平成28) 年 4月	鳥取大学 非常勤講師
2020 (令和 2) 年 4月	公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 特任准教授

Research

■ 取得学位	会計学 (学士) (カーディフ大学 ウェールズ) TEFL/TESL (修士) (パーミンガム大学 イギリス)
■ 専門分野	英語教育
■ 現在の研究テーマ	・ How a Discourse Intonation approach can advance communicative pronunciation and communicative competence and performance.
■ 受賞歴	Nominated for ブリティッシュ・カウンシル award for Innovation in Learner Resources
■ 所属学会	Japanese Association of Language Teachers (JALT)
■ 資格	RSA CTEFLA

Data

■ 研究等活動	
【著書】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Lessons on Japan 1 - Listening & Speaking] (原著者) Sean BANVILLE, 2025年, Imaishoten, ISBN 978-4-86611-429-3 ・ [Lessons on Japan 1 - Reading & Writing] (原著者) Sean BANVILLE, 2025年, Imaishoten, ISBN 978-4-86611-430-9 ・ [Breaking News Listening Student Book] (共著) Nobuhiro Kumai, Stephen Timson, Sean Banville, 2010年, MacMillan Language House ・ [Bringing News Into The Classroom] , 2010年, Finding Your Voice:Critical Issues in ELT. TESOL Arabia Publications
【口頭発表】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ChatGPT – A Threat or a Productive Tool? JALT, Tottori. March 2023 ・ Role Plays - Activities with the Potential to Teach Everything. JALT, Tottori. June 2017 ・ What's news? ISTEK ELT Conference: Istanbul, Turkey. April, 2010 ・ Punctuation Communicates. Cultivating Real Writers Conference, Al Ain, UAE. October, 2009 ・ Using mp3 Files in the Classroom. TESOL Arabia, Dubai, UAE. March, 2009 ・ Bringing News Into The Classroom. TESOL Arabia, Dubai, UAE. March, 2008
【開発した教材等】	<p>Breaking News English.com</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. https://BreakingNewsEnglish.com 時事ニュースを基にした2,850+の4技能インタラクティブレッスンと27ページのワークシート。 2. https://ESLDiscussions.com 709のトピックに関するディスカッションのプリント (14180の質問含む)。 3. https://ESLHolidayLessons.com 世界の祝日についての199のレッスン。 4. https://FamousPeopleLessons.com 有名人についての167の4技能レッスン。 5. https://ListenAMinute.com 1分のリスニング教材を基にした479のレッスン。 6. http://www.NewsEnglishLessons.com 7. http://www.FreeESLMaterials.com 8. http://www.LessonsOnMovies.com 映画についての4技能レッスン 9. https://BusinessEnglishMaterials.com 世界の企業についての102の4技能レッスン。 10. http://www.LessonsOnAmericanPresidents.com アメリカの歴代大統領についての4技能レッスン。
■ 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ Chief Judge at Chugoku High School Speech Contest. Tottori. November, 2024 ・ Taught deomnstration English lesson to Chubu high school teachers. Higashi Kurayoshi Senior High School. October 2024 ・ Chief Judge at Higashi Kurayoshi Senior High School Speech Contest. March, 2024



研究キーワード

生成AI, 大規模言語モデル

市丸 夏樹

准教授

ICHIMARU, Natsuki

所属…人間形成教育センター

<http://misc.kankyo-u.ac.jp/~ichimaru/>

ichimaru@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目 情報リテラシ1・2, プロジェクト研究1～7, (経営学部)専門演習1～3

■ 研究者略歴

1990 (平成 2) 年 3月	九州大学工学部電子工学科卒業
1992 (平成 4) 年 3月	九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻 博士前期課程修了
1995 (平成 7) 年 3月	九州大学大学院総合理工学研究科博士後期課程単位取得退学
1995 (平成 7) 年 4月	九州大学工学部情報工学科助手
1998 (平成10) 年 4月	九州大学大学院システム情報科学府兼任
2006 (平成18) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科講師
2007 (平成19) 年 4月	鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻情報システム領域兼務
2008 (平成20) 年 4月	鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科准教授
2012 (平成24) 年 4月～	鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2015 (平成27) 年 4月～	公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

Research

■ 取得学位 博士 (工学) (九州大学)

■ 専門分野 自然言語処理, 計算言語学

■ 現在の研究テーマ

- ・サブワードトークナイザでの接辞処理
- ・自動要約
- ・文章の評価属性判別
- ・MS-Officeファイルの自動採点

■ 所属学会 人工知能学会, 情報処理学会

Data

■ 研究等活動

【論文】

・ "Thesaurus Granularity and it's effects on the Kana/Kanji Transliteration of Japanese Derivative Words", 2013年9月, In proceedings of the *International Conference of Pacific Association for Computational Linguistics* PACLING2013.

人間形成教育センター



研究キーワード

パターン認識, 機械学習, サイバーフィジカルシステム

堀 磨伊也

HORI, Maiya

サステナビリティ研究所副所長
准教授

所属…人間形成教育センター, 経営学部経営学科, 環境学部環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻, 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

URL <https://researchmap.jp/read0142517>

✉ m-hori@kankyo-u.ac.jp

Profile

■ 主な担当科目	AI, 画像処理, パターン認識
■ 研究者略歴	
2005 (平成17) 年 3月	大阪大学基礎工学部システム科学科 卒業
2007 (平成19) 年 3月	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程 修了
2011 (平成23) 年 6月	奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程 修了, 博士 (工学)
2011 (平成23) 年 7月	鳥取大学大学院工学研究科 プロジェクト研究員
2015 (平成27) 年 4月	九州大学共進化社会システム創成拠点 学術研究員
2017 (平成29) 年10月	九州大学大学院システム情報科学研究院 助教
2018 (平成30) 年 4月	九州大学エネルギー研究教育機構 准教授
2022 (令和 4) 年 4月	公立鳥取環境大学人間形成教育センター 准教授
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学経営学部経営学科 准教授 (兼任)
2023 (令和 5) 年 4月	公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所副所長
2024 (令和 6) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授 (兼任)

Research

■ 取得学位	博士 (工学) (奈良先端科学技術大学院大学)
■ 専門分野	情報科学
■ 現在の研究テーマ	・ 予測モデルの不確実性を考慮したエネルギーマネジメントシステムの構築 ・ カメラ動画像を用いた深層学習による人流分析 ・ 予測モデルの局所的解釈に基づくオンデマンドバスの運行最適化
■ 受賞歴	2022 (令和4) 年3月 電気通信普及財団賞 (テレコム学際研究賞) 2018 (平成30) 年12月 ITSシンポジウム ベストポスター賞 2010 (平成22) 年7月 マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO) シンポジウム 優秀論文賞
■ 所属学会	電子情報通信学会, 情報処理学会, 電気学会, IEEE
■ 資格	脱炭素アドバイザーベーシック

Data

■ 研究等活動	
【論文】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [A Multi-Layer Techno-Economic-Environmental Energy Management Optimization in Cooperative Multi-Microgrids with Demand Response Program and Uncertainties Consideration] (共著), 2024, Scientific Reports ・ [Inequality for the variance of an asymmetric loss] (共著), 2023, Journal of Mathematical Inequalities ・ [Developing Hybrid Demand Response Technique for Energy Management in Microgrid Based on Pelican Optimization Algorithm] (共著), 2023, Electric Power Systems Research ・ [Energy Management of Microgrid Considering Demand Response Using Honey Badger Optimizer] (共著), 2022, Renewable Energy and Power Quality Journal ・ [Developing an Artificial Hummingbird Algorithm for Probabilistic Energy Management of Microgrids Considering Demand Response] (共著), 2022, Frontiers in Energy Research ・ [歩車混合空間内でのすれ違いによる相互作用の定量的解析に関する研究] (共著), 2021, 土木学会論文集D3 (土木計画学) ・ [Measuring "Nigiwai" from pedestrian movement] (共著), 2021, IEEE Access ・ [Event effects estimation on electricity demand forecasting] (共著), 2020, Energies ・ [Reliable and rapid traffic congestion detection approach based on deep residual learning and motion trajectories] (共著), 2020, IEEE Access ・ [Movement recommendation system based on multi-spot congestion analytics] (共著), 2020, Sustainability
【国際会議】	<ul style="list-style-type: none"> ・ [Power Disaggregation Considering the Interrelationship of Appliances Using CNNs], 2022, IEEE PES T&D ・ [Real-Time Learning Analytics Dashboard for Students in Online Classes] (共著), 2020, IEEE TALE (Best Student Paper Award) ・ [Towards ICT based mobility support system with in the COVID-19 era: poster abstract] (共著), 2020, ACM SenSys
【報告書】	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイクログリッドにおける複数の不確実性を考慮した強化学習による蓄電池の最適充放電制御 (共著), 2022, 計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会 ・ 複数の駐車中EVを対象とした個別バッテリー充放電制御による施設の電力負荷平準化 (共著), 2022, 計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会 ・ オンデマンドバスの運行ルート最適化のための乗車リクエスト予測の効果の検証 (共著), 2021, ITSシンポジウム
【特許】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特許7099771 歩行者の行動評価装置、歩行者の行動評価方法、及び、歩行者の行動評価プログラム ・ 特許7050356 人流評価装置、人流評価方法、及び人流評価プログラム
【外部資金獲得】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科研費 (基盤研究(C)) 「予測モデルの局所的解釈に基づくオンデマンドバスの運行最適化」 (代表者), 2022 ~ 2024年度

■ 社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子情報通信学会 英文論文誌D編集委員会 英文論文誌編集委員 (2021年~) ・ 鳥取県ビッグデータ活用検討会議委員 (2022年~) ・ 高校生ものづくりコンテスト中国地区大会 (電子回路組立部門) 審査員 (2024年) ・ 鳥取県公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会委員 (2022年) ・ 画像の認識・理解シンポジウムMIRUインタラクティブ・デモ委員長 (2023年) ・ 情報処理学会 コンピュータビジョンとイメージメディア研究運営委員会 運営委員 (2019年~2022年) ・ 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術専門家ネットワーク専門調査員 (2018年~2021年)
----------	---



研究キーワード

多重ゼータ値, ルート系のゼータ関数, Schur多重ゼータ関数, グラフラムゼータ

門田 慎也

講師

KADOTA, Shin-ya

所属…人間形成教育センター

Profile

■ 主な担当科目 微分積分学, 線形代数学, 情報リテラシー 1

■ 研究者略歴

Table with 2 columns: Year (Year/Month) and Institution/Role. Includes entries from 2013 to 2025 at various universities and schools.

Research

■ 取得学位 博士(数理学) (名古屋大学)

■ 専門分野 解析的整数論

■ 現在の研究テーマ ・ルート系のゼータ関数の特殊値に関する研究
・多重ゼータ値の関係式に関する研究

■ 受賞歴 2013 (平成25) 年 3月 平成24年度三木奨学賞(愛媛大学)
2012 (平成24) 年11月 平成24年度秋季愛媛大学成績優秀賞(愛媛大学)

■ 所属学会 日本数学会

■ 資格 高等学校教諭専修免許状 (数学)

Data

■ 研究等活動

- 【著書】 「ルート系のゼータ関数の理論入門」, 松本耕二, 記述:門田慎也, 監修:大野泰生, 千田雅隆, 2018年, 東北大学大学院理学研究科
【論文】 「Sum formulas for Schur multiple zeta values」 (共著), 2023年, Journal of Combinatorial Theory, Series A 200 105781-105781.
「On the parity result for multiple Dirichlet series」, 2022年, Kyushu Journal of Mathematics 76(1) 1-11.
「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」 (共著), 2022年, Lithuanian Mathematical Journal 62(2) 207-217.
「The graph Ramsey number R(F_{ell}, K_6)」 (共著), 2019年, Discrete Mathematics 342(4) 1028-1037.
「Evaluation of Tornheim's type of double series」, 2017年, Illinois Journal of Mathematics 61 171-186.
「Certain weighted sum formulas for multiple zeta values with some parameters」, 2017年, Commentarii Mathematici Universitatis Sancti Pauli 66 1-13.
【報告書】 「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」 (共著), 2023年, 数理解析研究所講究録2259 解析的整数論とその周辺.
「On the special values of certain multiple Dirichlet series」, 2019年, 数理解析研究所講究録2131 解析的整数論とその周辺.
「On the special values of the zeta function associated with simple Lie algebra type G_2」 (共著), 2018年, 数理解析研究所講究録2092 解析的整数論とその周辺.
「多重ゼータ値に対するパラメータを含む重みつき和公式」, 2017年, 名古屋大学大学院 多元数理科学研究科 --2014年度 学生プロジェクト-- 鏡が池の整数論セミナー報告集.
「多重ゼータ値に対するパラメータを持つ重みつき和公式」, 2017年, 数理解析研究所講究録2014 解析的整数論とその周辺.
「多重ゼータ値に対する少し変わった重みつき和公式」, 2015年, 北海道大学講究録162 第11回数学総合若手研究会.
【講演・口頭発表】 「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」, 2022年, RIMS Workshop 2022 Analytic Number Theory and Related Topics.
「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」, 2021年, 第57回関西多重ゼータ研究会.
「多重 Dirichlet 級数の特殊値がみたす性質に関するお話」, 2018年, 第43回関西多重ゼータ研究会.
「On the special values of certain multiple Dirichlet series」 2018年, Workshop 2018 Analytic Number Theory and Related Topics.
「Weight が奇数のG_2型ルート系のゼータ関数の特殊値についてのおはなし」, 2018年, 近畿大学数学教室講演会.
「On the special values of the zeta function associated with simple Lie algebra G_2 type」, 2017年, 2017年度RIMS共同研究 (公開型) 解析的整数論とその周辺.
「G_2 型ルート系のゼータ関数の特殊値について」, 2017年, 2017大分熊本整数論研究会.
「G_2 型ルート系のゼータ関数の特殊値について」, 2017年, 第13回数学総合若手研究会.
「G_2 型ルート系のゼータ値について」, 2017年, 第10回多重ゼータ研究会&第34回関西多重ゼータ研究会(共同開催).
「多重ゼータ値に対するパラメータを含む重みつき和公式について」, 2016年, 九大整数論セミナー.
「等号つき多重ゼータ値に対するある種の重みつき和公式」, 2016年, 解析数論セミナー.
「A weighted sum formula for multiple zeta values with some parameters」, 2015年, 2015年度RIMS研究会 解析的整数論とその周辺.
「多重ゼータ値に対するある種の重みつき和公式について」, 2015年, 第26回関西多重ゼータ研究会.
「多重ゼータ値に対するある種の重みつき和公式」, 2015年, 日本数学会2015年度年会.
「多重ゼータ値に対する少し変わった重みつき和公式」, 2015年, 第11回数学総合若手研究会.
「多重ゼータ値に対するパラメータを含む重みつき和公式」, 2015年, 鏡ヶ池の整数論セミナー.

■ 社会貢献活動

- ・2024 (令和 6) 年11月 高専入試過去問題解説 (数学) 講師
・2022 (令和 4) 年 7月 新居浜高専市民講座「折り紙と数学」 講師
・2020 (令和 2) 年 2月 えひめサイエンスチャレンジ2019 審査委員
・2019 (令和 元) 年11月 高専入試過去問題解説 (数学) 講師
・2019 (平成31) 年 2月 えひめサイエンスチャレンジ2018 審査委員



研究キーワード

異文化間コミュニケーション, 異文化間能力文化交流, 文化多様性, ハイコンテキスト・ローコンテキスト

モウア ジェニファー

講師

MOUA, Jennifer

所属…人間形成教育センター

Profile

■ 主な担当科目 Advanced English 2, 4, 6, 8 and Intensive English 6

■ 研究者略歴

- 2014 (平成22) 年 5月 米国フラトンカレッジ芸術学部 芸術学科 卒業
- 2016 (平成28) 年 5月 米国カリフォルニア州立カリフォルニアフラトン大学芸術学部 芸術学科 卒業
- 2017 (平成29) 年 2月 三重サンシャインスクール英会話教師, 音楽教師
- 2020 (令和 2) 年12月 米国バイオラ大学大学院 国際文化学部 M.A. TESOL学科 卒業
- 2019 (令和 1) 年 7月 米国バイオラ大学レトリックおよびライティングセンター (Rhetoric and Writing Center) 大学院生のコンサルティング
- 2020 (令和 2) 年 2月 米国ホープインタナショナル大学インターンシップ
- 2021 (令和 3) 年 4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター非常勤講師
- 2022 (令和 4) 年 4月 鳥取大学非常勤講師
- 2022 (令和 4) 年 4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター特任講師
- 2024 (令和 6) 年 4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター講師

Research

■ 取得学位 芸術学士 (カリフォルニアフラトン大学) M.A. TESOL文学修士 (バイオラ大学)

■ 専門分野 英語教育

■ 現在の研究テーマ ・ Intercultural Communication:How people from different cultures can connect,convey, and communicate.

■ 受賞歴 2019年5月 Clyde and Anna Belle Cook Scholarship Award

■ 所属学会 Biola TESOL Connection, Central Japan Language Teachers, Online Teaching Japan, Tottori JALT(Japan Association for Language Teaching)

■ 資格 アメリカ赤十字社救急法の資格, ハラスメント・差別防止の資格

Data

■ 研究等活動

【論文】

- ・ Top Ten Effective Reading and Writing Strategies 2020年 Biola University
- ・ NGSL and its Relation to Student Learning 2020年 Biola University
- ・ A Retrospective Analysis of My SLA Journey 2020年 Biola University

TUES

Tottori
University of
Environmental
Studies



公立鳥取環境大学

Tottori University of Environmental Studies

環境学部 環境学科 経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科

〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1番1号
TEL 0857-38-6700(代表) FAX 0857-38-6709
E-mail info@kankyo-u.ac.jp

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

※研究者の略歴・研究等活動の詳細および研究シーズ集は本学webページを
ご参照ください。

研究者詳細 <https://www.kankyo-u.ac.jp/about/publication/#soran>

研究シーズ集 <https://www.kankyo-u.ac.jp/about/publication/#seeds>

